

第2次

川西市総合戦略

令和2年度 >>> 令和4年度



川西市
Kawanishi City

ごあいさつ

時代の変化とともに本市を取り巻く環境が変化するなかで、新たな地域の課題や市民のニーズに的確に対応していく必要があります。

本市では、市民の幸せをまず大切に、住宅都市としての魅力を活かした新たなまちづくりを進め、将来にわたって安心して住み続けてもらえるまちの実現をめざしてまいります。



新たな施策を取り入れたまちづくりを実現する「かわにし新時代」を築いていくためには、5年後、10年後を見据えて、重点的に取り組む内容を明らかにする必要があることから、第2次総合戦略を策定しました。

策定にあたっては、将来のまちのありたい姿を市民と行政が一緒に考え、作り上げる過程を大切にするため、本市で初めてとなる無作為抽出により選ばれた市民で構成される「かわにし市民会議」を開催しました。市政やまちづくりを自分事として捉えて、自らの経験や知識をもとに議論していただきました。

本市を取り巻く現状や課題、さらには市民会議からの提案やタウンミーティングにおける意見などを踏まえて、「誰もが何気ない日常に幸せを感じるまちづくり」の実現に向けて、3年間で取り組む戦略を4つ掲げています。

今後、各事業を実行していく段階でも行政だけでなく、「市民とともに」進めていくことを大切に、市民との情報共有や対話を重ねながら本計画を推進してまいります。

最後になりましたが、本計画の策定にあたり貴重なご意見・ご提案をいただいた市民のみなさまをはじめ、ご審議いただいたかわにし創生総合戦略推進会議委員のみなさまに心から感謝申し上げます。

令和2年3月

川西市長

越田 謙治郎

第2次川西市総合戦略 目次

第1章 総合戦略の策定にあたって

| | | |
|---|--------------------------|---|
| 1 | 総合戦略策定の趣旨 | 1 |
| 2 | 第2次総合戦略の策定プロセス | 2 |
| 3 | 第2次総合戦略の基本的な考え方 | |
| | (1)何気ない日常に幸せを感じるまちづくり | 3 |
| | (2)川西の良さを大切にしながら新たなまちづくり | 3 |
| | (3)市民とともに歩むまちづくり | 4 |
| 4 | 計画期間 | 4 |
| 5 | 総合戦略の進捗管理 | 4 |

第2章 時代の変化、まちの移り変わり

| | | |
|---|---------------------|----|
| 1 | 川西市の変遷 | |
| | (1)本市の概況と人口の推移 | 5 |
| | (2)年齢3区分別人口の推移 | 7 |
| | (3)転入、転出数の推移 | 8 |
| | (4)社会増減数の状況 | 9 |
| | (5)市区町村別の人口移動の状況 | 10 |
| | (6)出生数及び死亡数の推移 | 11 |
| 2 | 将来推計人口と課題 | |
| | (1)年齢3区分別人口の将来推計 | 12 |
| 3 | 川西市の特徴 | |
| | (1)高齢化の状況 | 13 |
| | (2)昼夜間人口の比率 | 14 |
| | (3)流出、流入人口及び就業者の勤務地 | 15 |
| | (4)共働き世帯の推移 | 16 |
| | (5)空き家数の推移 | 17 |

第3章 総合戦略

| | | |
|---|---------------------------|----|
| 1 | 総合戦略の基本的な考え方と重点戦略 | 19 |
| 2 | 重点戦略と市民会議からの提案 | 20 |
| 3 | 重点戦略の構成 | 21 |
| 4 | 重点戦略 | |
| | 重点戦略1 子どもたちの成長を支えあえるまちづくり | 23 |
| | 重点戦略2 誰もが力を活かせるまちづくり | 29 |
| | 重点戦略3 安全で安心して暮らせるまちづくり | 35 |
| | 重点戦略4 愛着のもてるまちづくり | 41 |

資料編

| | | |
|---|-------------------|-----|
| 1 | かわにし市民会議 | |
| | (1)参加者一覧 | 46 |
| | (2)アンケート結果 | 48 |
| | (3)かわにし市民会議からの提案書 | 49 |
| 2 | かわにし創生総合戦略推進会議 | |
| | (1)委員一覧 | 127 |
| | (2)諮問・答申 | 127 |
| 3 | 総合戦略策定経過 | 130 |

第1章 総合戦略の策定にあたって

1 総合戦略策定の趣旨

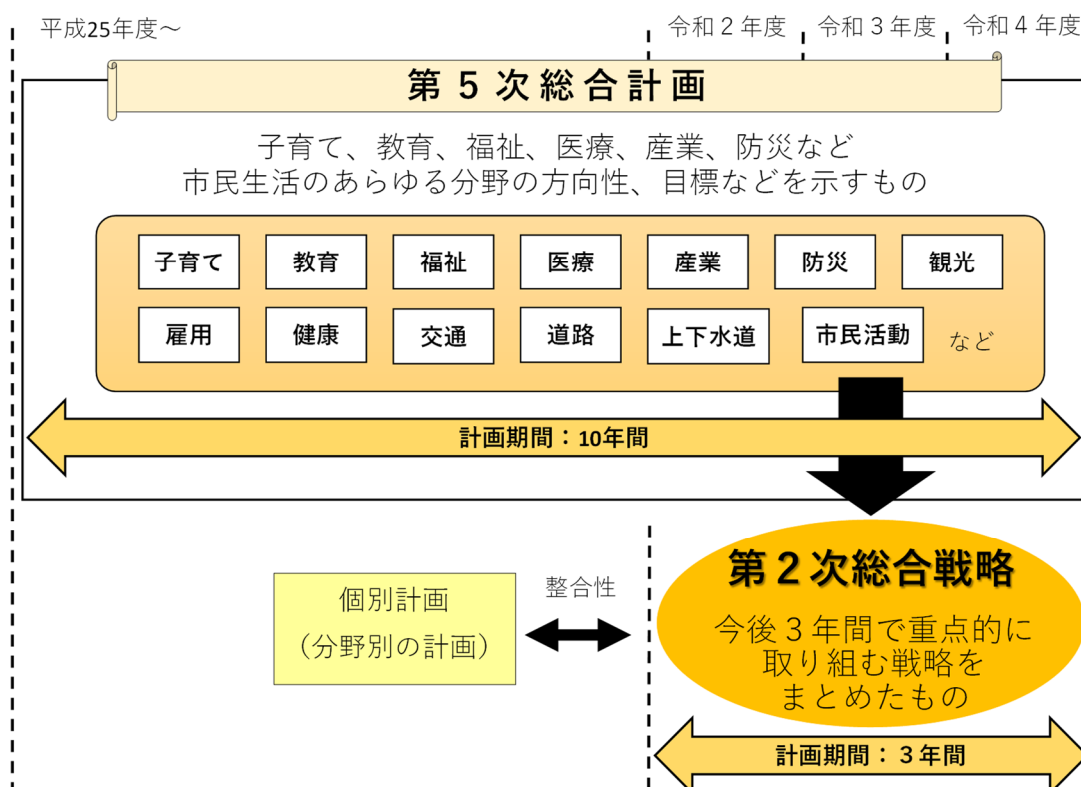
人口減少や少子高齢化、さらには人の価値観の多様化により、本市を取り巻く環境は変化しています。本市では、そのような状況の中でも市民ニーズに的確に対応するため、総合計画に基づく福祉、医療、道路、上下水道など、市民生活に欠かせない施策^{*}を実行しています。

その前提に立って、今後は国の法制度や社会環境の変化を踏まえ、さらに市の特性や強みを活かしたまちづくりを推進していくことが重要です。

本市の5年後、10年後の将来を見据えて、住宅都市として魅力的なまちであり続けるためには、重要な施策を明らかにし、集中的に実施する必要があることから、その内容を総合戦略としてまとめています。

総合戦略は、総合計画及び各分野の個別計画と整合を図るとともに、施策を着実に実施し、成果につなげていくことを目標としています。

総合計画と総合戦略の関係



^{*} 施策：市の現状や課題に対して、取り組んでいく必要がある対策をまとめたもの

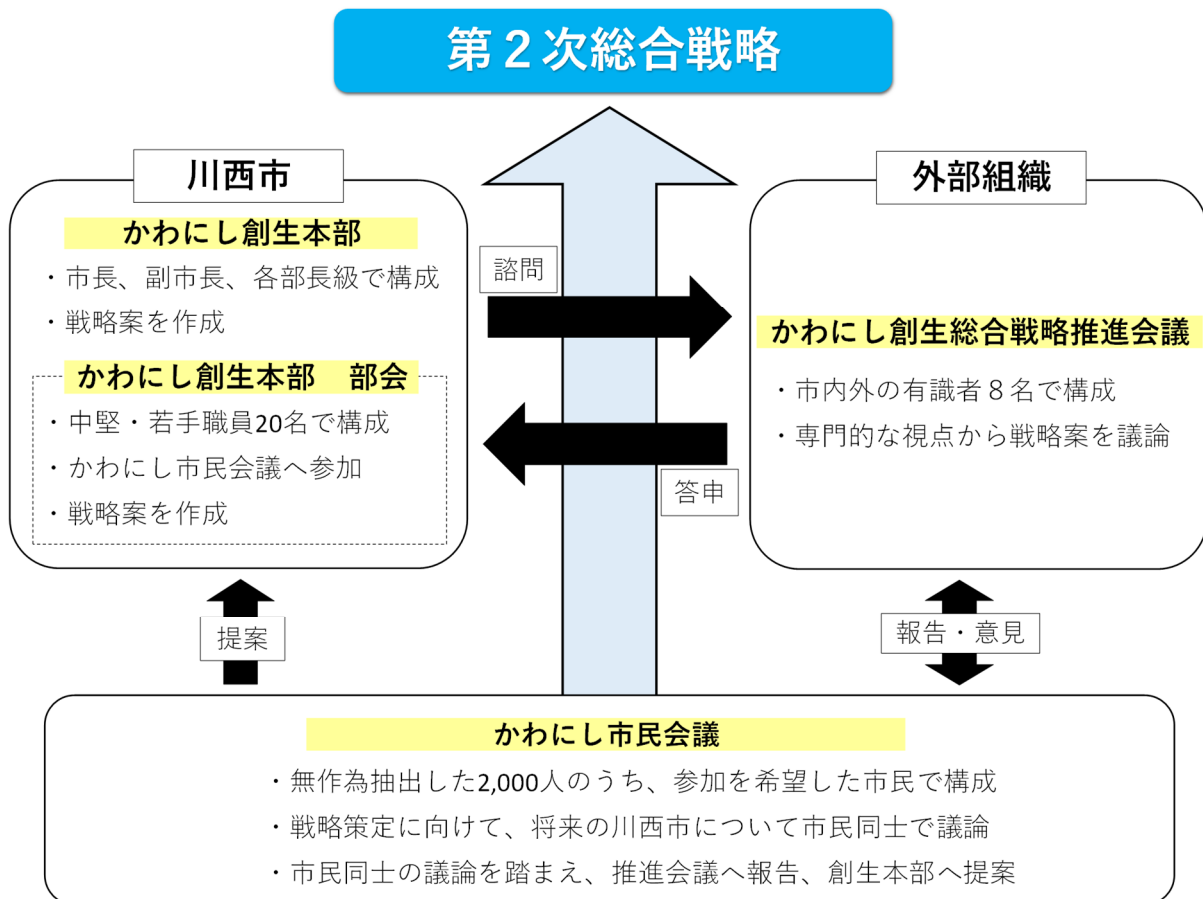
2 第2次総合戦略の策定プロセス

行政主体のまちづくりでは、多様化する市民ニーズに対応することが困難になってきています。まちづくりの主役は行政ではなく市民であるため、第2次総合戦略の策定では、市民とともにまちづくりを進めていくという観点から、市民同士の議論、市民からの意見を重要視してきました。

無作為抽出により選ばれた市民によって構成される、本市で初めての「かわにし市民会議」を6回にわたって開催し、市の課題やこれから必要となる取組みについて議論をしました。将来のまちのありたい姿をともに考え、つくりあげるという「過程」を大切に、市民と行政と一緒に策定を進めてきました。

今後、総合戦略を実行していくうえで、市民会議の参加者を含めた多くの方々に市政へ関わっていただき、協働によるまちづくりを進めていきたいと考えています。

第2次総合戦略策定プロセス



3 第2次総合戦略の基本的な考え方

(1) 何気ない日常に幸せを感じるまちづくり

幸せの価値観は人それぞれ異なりますが、住み慣れたまちで子どもから高齢者まで、障がいがある人もない人も、誰もが健康で、何気ない日常に幸せを感じるまちづくりを進めることは重要なことだと考えます。

そのため、第2次総合戦略の策定にあたっては、誰もが安心して暮らせる環境を整えて、川西市に愛着をもってもらえる施策に主眼を置くこととします。

本市が住宅都市として発展した高度経済成長期とは異なり、我が国の人口は減少傾向にあります。このような状況を踏まえ、本市としては人口増加を目的にするのではなく、市民の幸せをまず大切にすることが重要であり、住み続けてもらえることが結果として人口減少の抑制につながるものと考えています。

また、市民が幸せを実感できるまちづくりは結果として、「住んでみたい」という魅力にもつながると考えています。とりわけ、子育て世帯をはじめとした30歳代が本市を転入先として選んでいる傾向があることから、転入者を含めた市民が将来にわたって愛着を持ち、ずっと住んでいたいと思えるまちの実現をめざします。

(2) 川西の良さを大切にした新たなまちづくり

本市には住宅都市として発展してきたことと併せて、市民をはじめ、多くのまちづくりの担い手による地域づくり活動が展開されてきたという強みがあります。

この強みに加え、川西の良さをさらに向上させるためには、人と人のつながりを強めることが重要です。人と人のつながりは、子育てやボランティアなど、様々なシーンで生まれるものであり、そのようなつながりも大切にしたいまちづくりに取り組んでいきます。

また、地域の課題解決や今後のまちの発展に向けては、地域の特性に応じた対応が重要です。先端技術の活用や民間事業者と連携を図るなど、新たな発想による取り組みを進めます。

川西市が有する市民の力や歴史、文化などの地域資源を大切にしながら、社会の変化を的確にとらえて、新たな施策を取り入れたまちづくりを実現する「かわにし新時代」を築いていきます。

(3) 市民とともに歩むまちづくり

かわにし新時代を支えるのは、市民の力です。総合戦略の具体化、実行段階においても「市民とともに歩む」ことを基本とします。

市民はもちろん、川西市で働く人、活動する人、縁がある人たちと一緒に事業を展開するとともに、市民の主体的な取組みを積極的に後押しし、自律的な展開を進めていきます。

その前提として必要なのは、市民と行政が相互に情報共有することです。進化が著しい ICT* を活用して、部署間が連携した行政情報の発信はもとより、あらゆる情報を市民と共有していきます。とりわけ、人口減少や厳しい財政状況の中で、行政が積極的に情報発信し、市民と共有することでかわにし新時代をともに歩んでいきます。

4 計画期間

令和2年度から令和4年度の3年間とします。

5 総合戦略の進捗管理

本戦略については、策定後も毎年、重点戦略の進捗状況を確認し、市民会議で行われた議論を踏まえたうえで、定期的に事業を検証します。検証については、第6次総合計画（令和5年度から）の策定を見据えて、学識経験者や市民会議の参加者を含めた市民などと進めていきます。

また、市民と一緒に検討することで、より効果的な取組みになると考えられるものについては、市民会議の参加者を含めた「(仮称)かわにし協働プレーヤー」とともに検討します。

なお、取組内容について財政状況や社会環境の変化などにより、内容を変更した場合や実施が困難になった場合は、市民会議で行われた議論を踏まえて、その理由を公表します。

* ICT:「Information and Communication Technology」の略で、コンピューターやインターネットに関する情報通信技術

第2章 時代の変化、まちの移り変わり

1 川西市の変遷

(1) 本市の概況と人口の推移

本市は、利便性の良さと豊かな自然に恵まれた環境に加え、昭和40年代から大規模住宅団地の開発が進んだことによって、大阪や神戸などのベッドタウン^{*}として発展してきました。

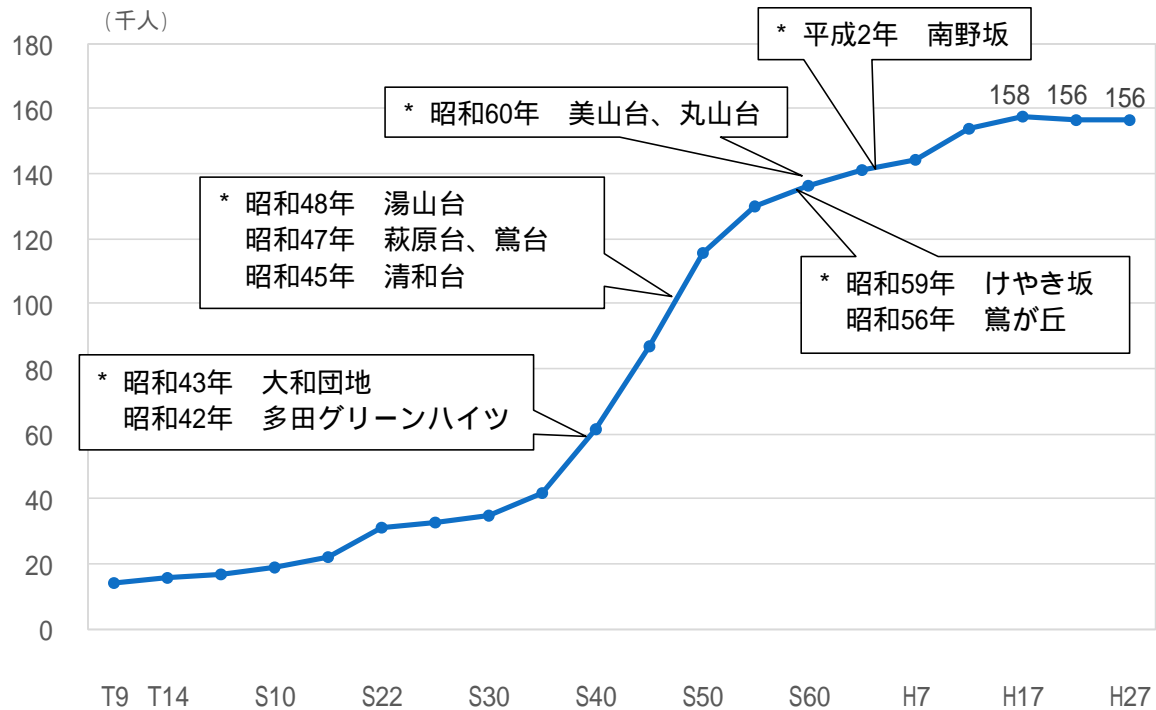
通勤、通学の交通環境は一定程度整っており、東西方向、南北方向には鉄道が、さらに、南北方向には路線バスが通っており、本市の主要な公共交通として、市民が生活するうえで重要な役割を担っています。

また、道路の環境としては、市南部に中国縦貫自動車道、阪神高速道路大阪池田線が通っており、平成29年には市北部に新名神高速道路・川西インターチェンジが開設し、併せて東西を結ぶ県道川西インター線も整備され、交通利便性の高さはまちの特徴となっています。

人口は昭和30年代中頃から増加し、平成17年に157,668人でピークを迎えました。増加した要因として、昭和40年代からの大規模団地の開発による転入と、その後の、団地以外への転入によるものが挙げられ、総人口や年少人口を一定程度、維持してきた背景には団地以外の市街地の状況も影響しています。

^{*} ベッドタウン：大都市周辺に位置する住宅都市のこと

人口の推移



資料：国勢調査

(参考) 大規模団地一覧表

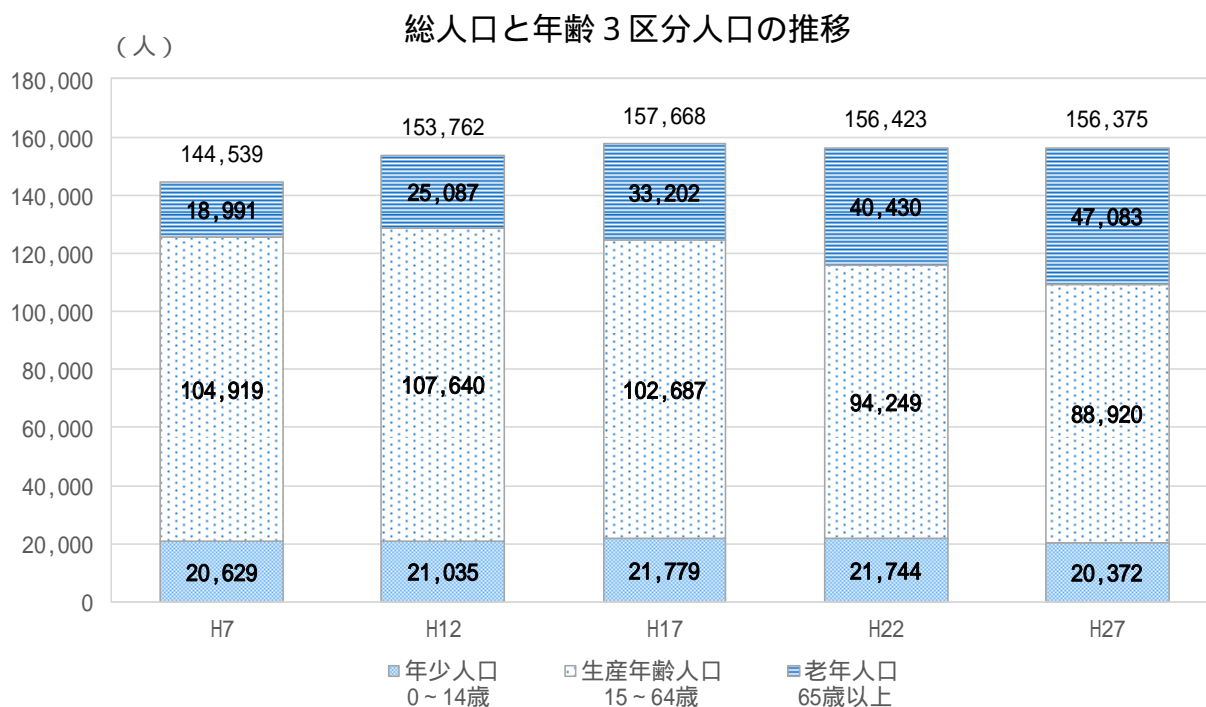
| 団地名 | 住居表示 | 開発面積 (ha) | 人口 (人) | 世帯数 (世帯) | 高齢化率 | 分譲開始年 |
|-----------|------------|-----------|--------|----------|-------|-------|
| 多田グリーンハイツ | 緑台・向陽台・水明台 | 230 | 13,802 | 6,213 | 42.2% | S42 |
| 大和団地 | 大和西・大和東 | 173 | 10,786 | 4,768 | 41.5% | S43 |
| 清和台 | 清和台西・清和台東 | 172 | 12,371 | 5,224 | 36.1% | S45 |
| 鶯台 | 鶯台 | 20 | 1,818 | 755 | 35.8% | S47 |
| 萩原台 | 萩原台西・萩原台東 | 49 | 3,695 | 1,572 | 39.9% | S47 |
| 湯山台 | 湯山台 | 42 | 2,990 | 1,364 | 43.9% | S48 |
| 鶯が丘 | 鶯が丘 | 13 | 932 | 391 | 42.8% | S56 |
| 美山台・丸山台 | 美山台・丸山台 | 116 | 7,937 | 3,101 | 26.7% | S60 |
| けやき坂 | けやき坂 | 131 | 6,875 | 2,563 | 21.4% | S59 |
| 南野坂 | 南野坂 | 23 | 1,918 | 614 | 12.2% | H2 |
| 合計 | | 969 | 63,124 | 26,565 | | |

資料：住民基本台帳（平成31年3月末時点）

* 開発団地名及び分譲開始時期

(2) 年齢3区分別人口の推移

年齢3区分^{*}別人口の推移をみると、生産年齢人口は平成12年以降、年少人口は平成17年以降減少しています。また、老年人口は平成7年以降増加を続けており、年齢構成は変化しています。



(人)

| | H7 | H12 | H17 | H22 | H27 |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 144,539 | 153,762 | 157,668 | 156,423 | 156,375 |
| 老年人口 | 18,991 | 25,087 | 33,202 | 40,430 | 47,083 |
| | 13.1% | 16.3% | 21.1% | 25.8% | 30.1% |
| 生産年齢人口 | 104,919 | 107,640 | 102,687 | 94,249 | 88,920 |
| | 72.6% | 70.0% | 65.1% | 60.3% | 56.9% |
| 年少人口 | 20,629 | 21,035 | 21,779 | 21,744 | 20,372 |
| | 14.3% | 13.7% | 13.8% | 13.9% | 13.0% |

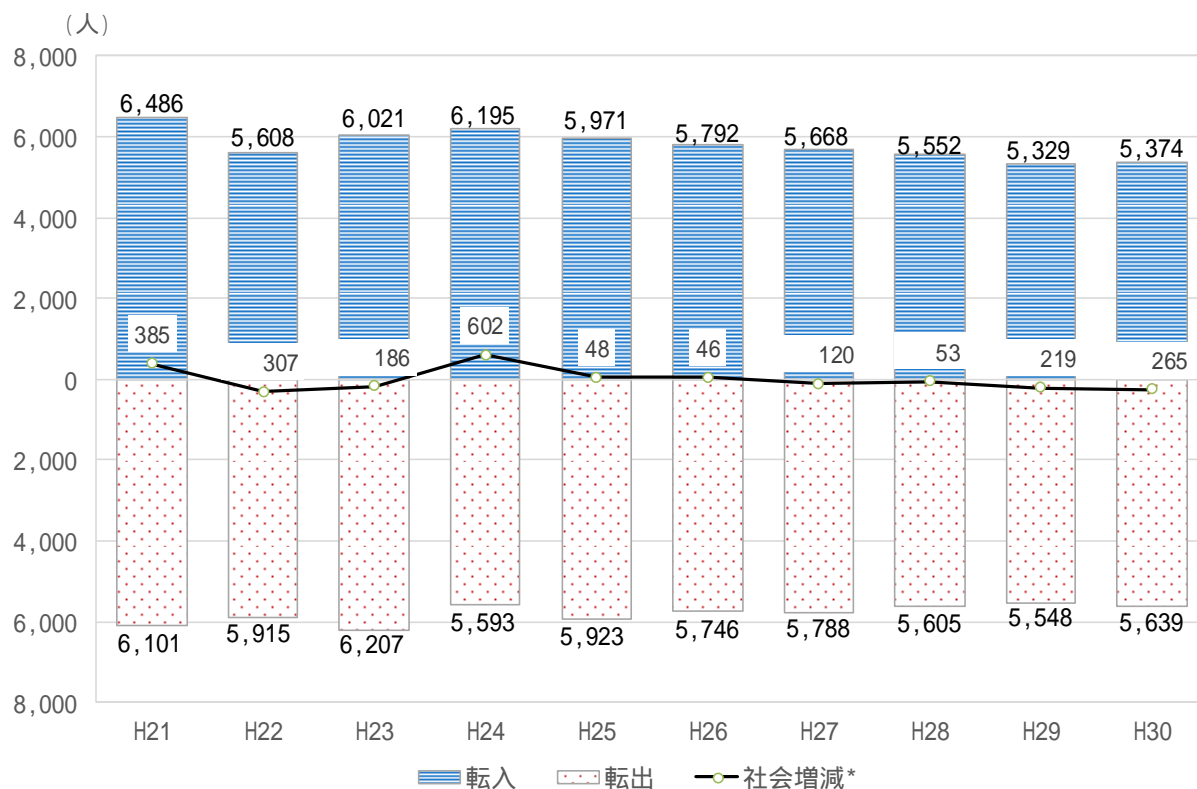
資料：国勢調査

^{*} 年齢3区分：全人口を、年少人口（0歳～14歳の人口）、生産年齢人口（15歳～64歳の人口）、老年人口（65歳以上の人口）に区分

(3) 転入、転出数の推移

本市への転入数、本市からの転出数の推移をみると、転入、転出ともに、総数は減少傾向にあります。また、平成 27 年以降は転出数が転入数を上回り、人口減少に影響しています。

転入・転出数の推移



| 年 | 転 入 | | | 転 出 | | | 社 会 増 減 数 | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|-----|-----|
| | 総 数 | 男 | 女 | 総 数 | 男 | 女 | 総 数 | 男 | 女 |
| H21 | 6,486 | 3,371 | 3,115 | 6,101 | 3,193 | 2,908 | 385 | 178 | 207 |
| H22 | 5,608 | 2,744 | 2,864 | 5,915 | 2,984 | 2,931 | 307 | 240 | 67 |
| H23 | 6,021 | 3,045 | 2,976 | 6,207 | 3,265 | 2,942 | 186 | 220 | 34 |
| H24 | 6,195 | 3,126 | 3,069 | 5,593 | 2,845 | 2,748 | 602 | 281 | 321 |
| H25 | 5,971 | 3,027 | 2,944 | 5,923 | 3,031 | 2,892 | 48 | 4 | 52 |
| H26 | 5,792 | 2,922 | 2,870 | 5,746 | 2,907 | 2,839 | 46 | 15 | 31 |
| H27 | 5,668 | 2,910 | 2,758 | 5,788 | 3,028 | 2,760 | 120 | 118 | 2 |
| H28 | 5,552 | 2,805 | 2,747 | 5,605 | 2,890 | 2,715 | 53 | 85 | 32 |
| H29 | 5,329 | 2,693 | 2,636 | 5,548 | 2,895 | 2,653 | 219 | 202 | 17 |
| H30 | 5,374 | 2,674 | 2,700 | 5,639 | 2,829 | 2,810 | 265 | 155 | 110 |

資料：住民基本台帳（各年次合計）

* 社会増減：住民の転入数と転出数の差のこと

(4) 社会増減数の状況（年代別）

転入数と転出数の差を年代別で見ると、0～9歳、30～39歳は転入数が転出数を上回っており、本市をはじめ近隣市町も同様の傾向となっています。一方で特に20～29歳が転出超過となっており、就職などを機に市外へ転出しているものと考えられます。

社会増減数の状況（年代別）

(人)

| 市町名 | 総数 | 0～9歳 | 10～19歳 | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60歳以上 |
|------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 川西市 | 293 | 132 | 58 | 413 | 77 | 57 | 2 | 86 |
| 伊丹市 | 1,069 | 299 | 152 | 79 | 372 | 52 | 5 | 110 |
| 宝塚市 | 32 | 106 | 37 | 428 | 156 | 9 | 64 | 88 |
| 三田市 | 622 | 211 | 16 | 763 | 10 | 59 | 69 | 84 |
| 猪名川町 | 110 | 79 | 35 | 206 | 30 | 17 | 7 | 32 |
| 県計 | 6,088 | 1,025 | 258 | 6,690 | 27 | 98 | 101 | 141 |

資料：住民基本台帳（平成30年合計）

(5) 市区町村別の人口移動*の状況

人口移動について、市区町村別の転入元を見ると、豊中市、西宮市からの転入が多くなっています。一方、転出先については、伊丹市、宝塚市、猪名川町などの近隣市町と大阪市内が多くなっています。

人口移動の状況（平成 30 年）

（人）

| 転入超過 （転入数-転出数） | | 転出超過 （転出数-転入数） | |
|-------------------|----|-------------------|----|
| 豊中市 | 74 | 伊丹市 | 70 |
| 西宮市 | 50 | 宝塚市 | 43 |
| 能勢町 | 36 | 大阪市 北区 | 37 |
| 神戸市 東灘区 | 31 | 猪名川町 | 29 |
| 茨木市 | 22 | 大阪市 淀川区 | 28 |
| 三田市 | 21 | 東京都 世田谷区 | 18 |
| 豊能町 | 14 | 大阪市 東住吉区 | 16 |
| 神戸市 北区 | 13 | 大阪市 浪速区 | 15 |
| 大阪市 住吉区 | 13 | 大阪市 都島区 | 14 |
| 芦屋市 | 12 | 尼崎市 | 11 |

資料：住民基本台帳

（平成 30 年合計）

（参考）近隣市町との人口移動の状況（平成 25 年・平成 30 年）

（人）

| 市町名 | H25 （転入数-転出数） | H30 （転入数-転出数） |
|------|------------------|------------------|
| 伊丹市 | 106 | 70 |
| 宝塚市 | 145 | 43 |
| 三田市 | 13 | 21 |
| 猪名川町 | 2 | 29 |
| 尼崎市 | 76 | 11 |
| 西宮市 | 40 | 50 |
| 池田市 | 21 | 10 |
| 豊中市 | 10 | 74 |

資料：住民基本台帳

（各年次合計）

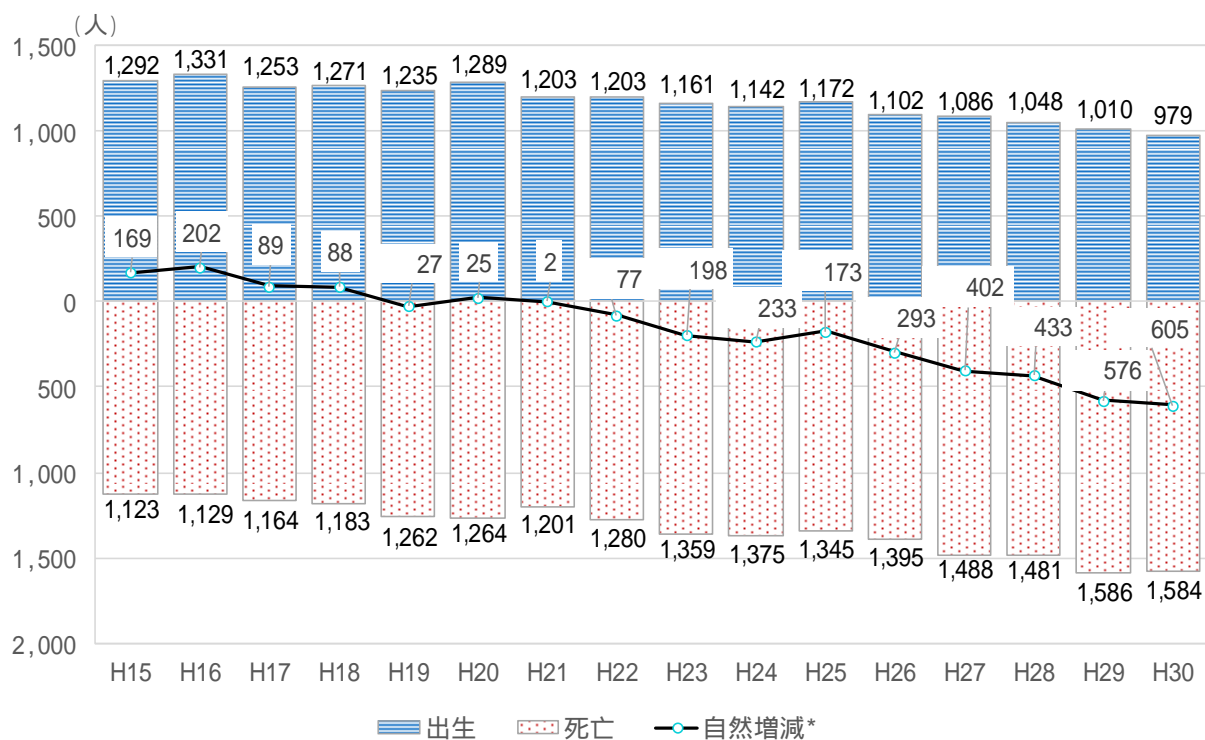
* 人口移動：本市へ転入することや本市から転出すること

(6) 出生数及び死亡数の推移

本市の出生数及び死亡数の推移をみると、平成 22 年以降、死亡数が出生数を上回っており、人口減少に影響しています。

出生数は年々減少しており、平成 30 年度には、1,000 人を下回り、979 人となっています。

出生・死亡数の推移



資料：住民基本台帳（各年次合計）

* 自然増減：出生数と死亡数の差のこと

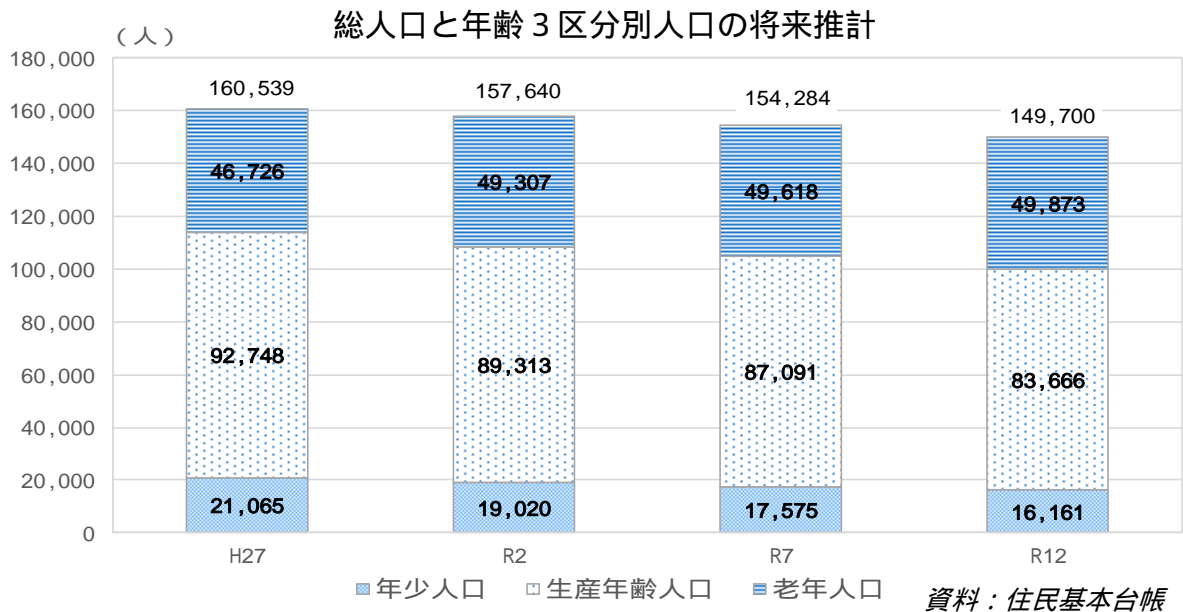
2 将来推計人口と課題

(1) 年齢3区分別人口の将来推計

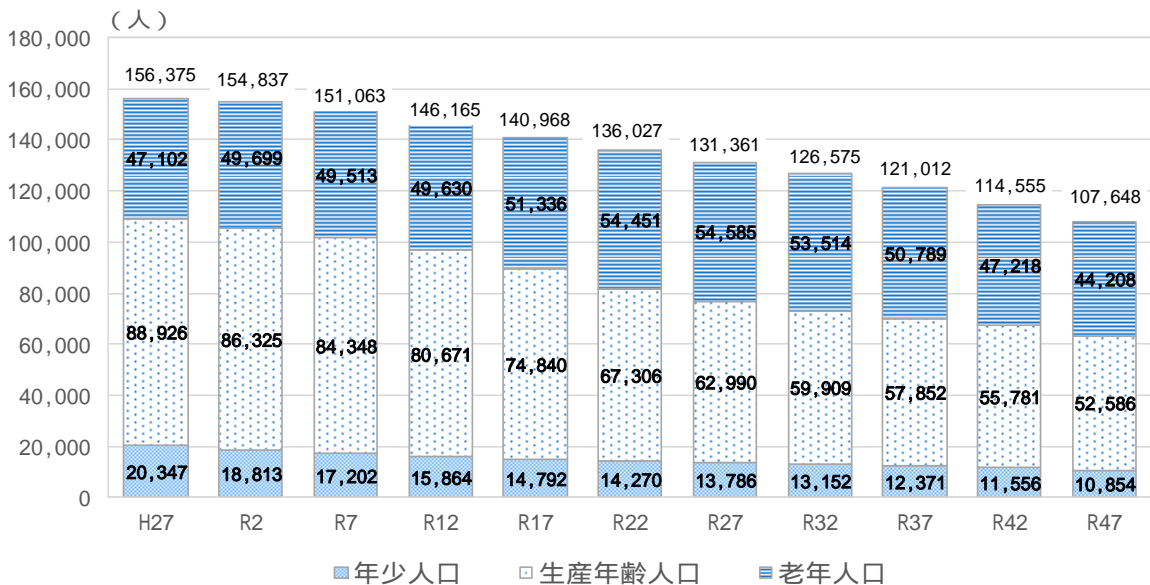
総合戦略は5年後、10年後を見据えたうえで、重要な施策を明らかにし、集中的に実施するものです。本市の今後10年間の将来推計人口について、住民基本台帳による人口をもとに算出すると以下のとおりです。

過去の人口推移と比較すると、老年人口はこれまでほどの増加はありませんが、生産年齢人口、年少人口の減少幅は大きくなると見込まれます。

なお、参考として、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）が国勢調査をもとに推計した令和47年までの将来推計人口を掲載します。



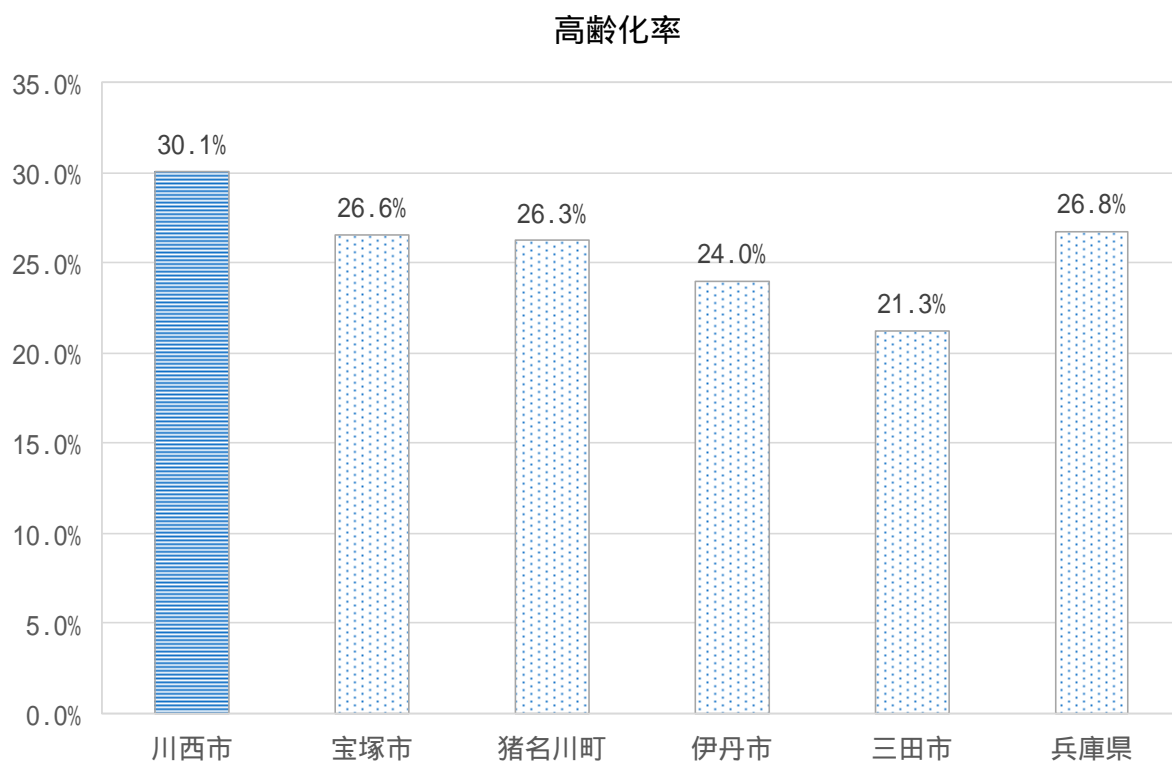
(参考) 社人研による総人口と年齢3区分別人口の将来推計



3 川西市の特徴

(1) 高齢化の状況（近隣市町との比較）

本市のニュータウンは大阪や神戸などに通勤する、団塊の世代が住宅を購入した経緯があり、高齢化率*は近隣市町や兵庫県と比較して高い値になっています。

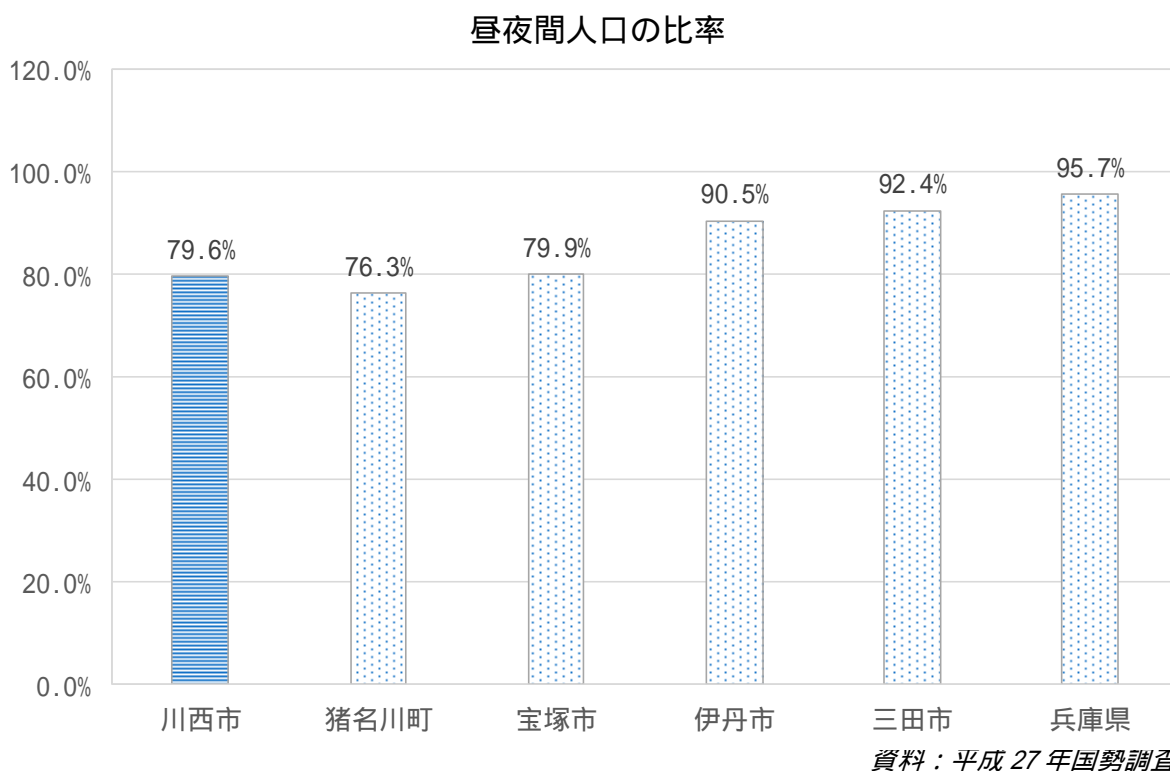


資料：平成 27 年国勢調査

* 高齢化率：65 歳以上の高齢者が人口に占める割合

(2) 昼夜間人口の比率

昼間に本市で活動している人口（昼夜間人口比率^{*1}）は80%を下回っており、近隣市や兵庫県と比較しても低い数値となっています。市外へ通勤、通学している市民が多いため、比率に影響しています。



(人)

| 年 | 流出口 ^{*2} (A) | 流入人口 ^{*3} (B) | 夜間人口 (C) | 昼間人口 (D) (C-A+B) | 昼夜間人口比率 (D/C) |
|-----|--------------------------|---------------------------|-------------|------------------------|------------------|
| H2 | 53,415 | 14,044 | 141,058 | 101,687 | 72.1% |
| H7 | 54,460 | 15,811 | 144,446 | 105,797 | 73.2% |
| H12 | 53,660 | 16,030 | 153,694 | 116,064 | 75.5% |
| H17 | 50,924 | 16,695 | 157,347 | 123,118 | 78.2% |
| H22 | 47,001 | 15,601 | 156,423 | 125,023 | 79.9% |
| H27 | 47,921 | 16,059 | 156,375 | 124,513 | 79.6% |

資料：国勢調査

^{*1} 昼夜間人口比率：昼間人口/夜間人口 × 100

夜間人口：本市に常住している人口

昼間人口：夜間人口 - 流出口 + 流入人口

昼間人口には、買物客などの非定常的な移動については考慮していない。

^{*2} 流出口：本市に常住し、本市以外へ通勤・通学する人口

^{*3} 流入人口：本市以外に常住し、本市へ通勤・通学する人口

(3) 流出、流入人口及び就業者の勤務地（市内・市外）

15 歳以上就業者の流出及び流入人口をみると、本市への流入は宝塚市や池田市などの近隣市が多いのに対し、本市からの流出は大阪市が多くなっています。

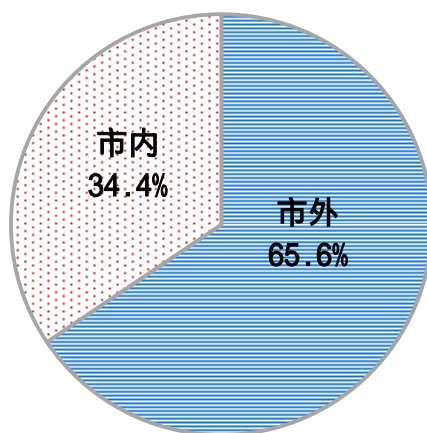
また、本市に常住する就業者のうち 65.6%の方が市外で勤務しています。

市区町村別流出・流入人口数（上位 10 市区町村） (人)

| 流出人口 | | 流入人口 | |
|--------|----------|-------|----------|
| 市区町村名 | 15歳以上就業者 | 市区町村名 | 15歳以上就業者 |
| 大阪市北区 | 4,515 | 宝塚市 | 2,747 |
| 伊丹市 | 3,644 | 猪名川町 | 2,023 |
| 大阪府中央区 | 3,544 | 伊丹市 | 1,766 |
| 池田市 | 3,427 | 池田市 | 1,416 |
| 豊中市 | 3,164 | 豊中市 | 975 |
| 尼崎市 | 2,827 | 西宮市 | 772 |
| 宝塚市 | 2,326 | 尼崎市 | 769 |
| 猪名川町 | 1,710 | 豊能町 | 714 |
| 大阪市淀川区 | 1,476 | 能勢町 | 465 |
| 西宮市 | 1,260 | 三田市 | 406 |

資料：平成 27 年国勢調査

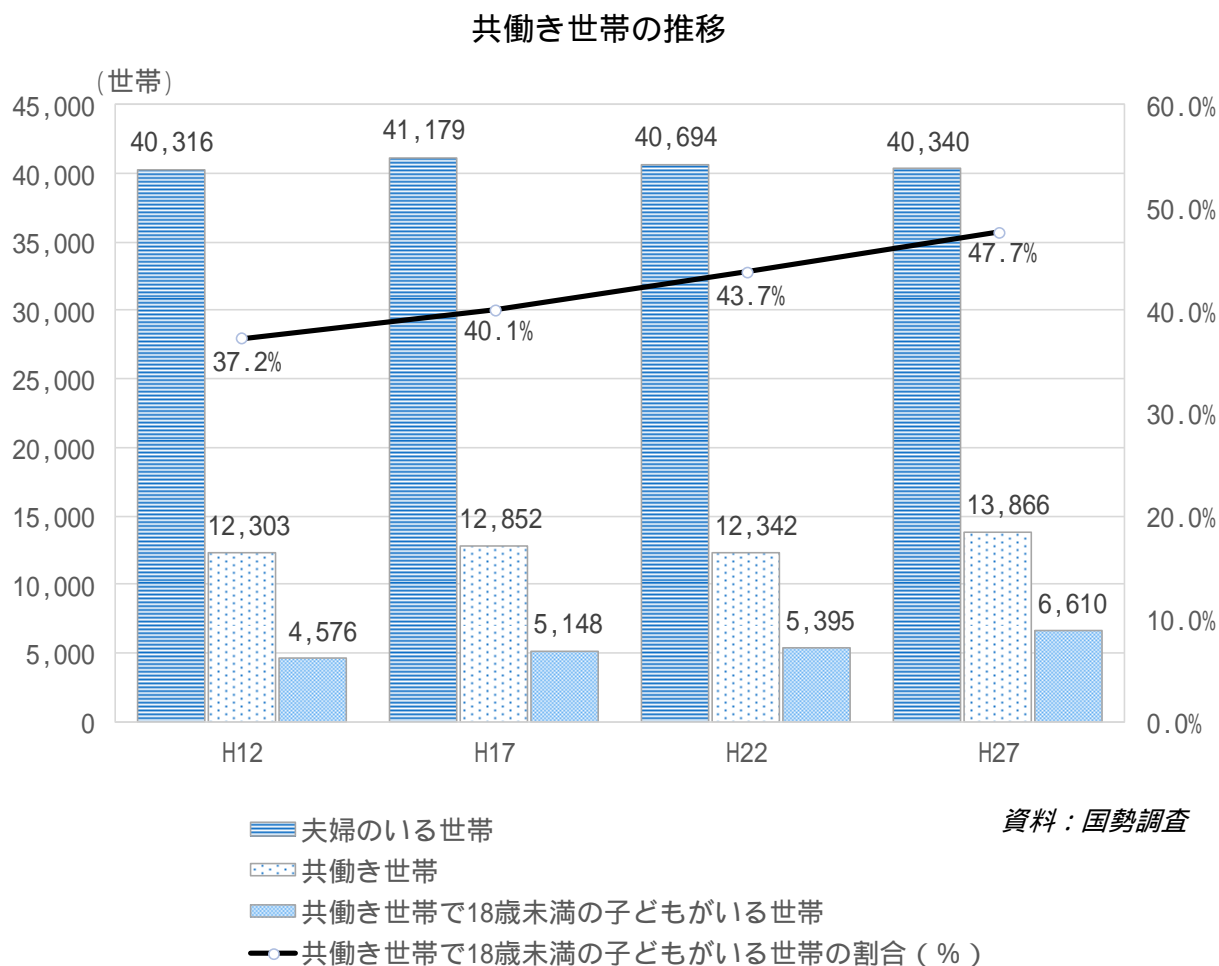
川西市に常住する就業者の勤務地



資料：平成 27 年国勢調査

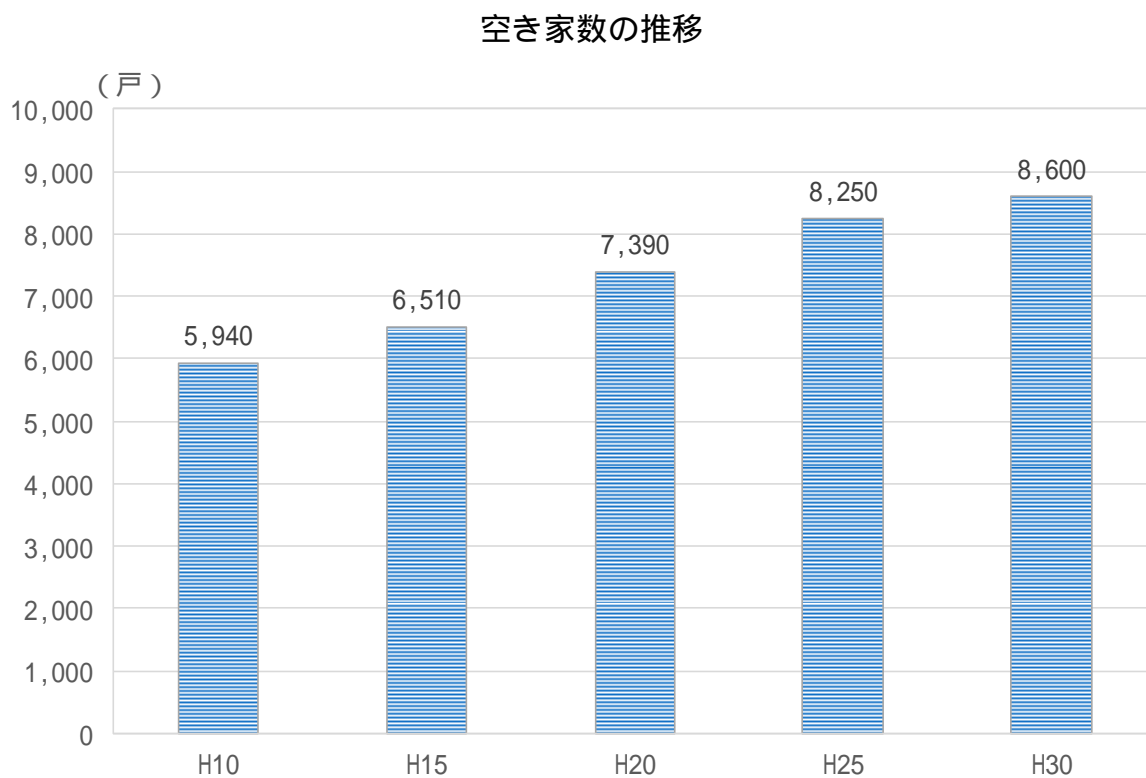
(4) 共働き世帯の推移

夫婦共に雇用者の共働き世帯は増加傾向にあり、さらに 18 歳未満の子どもがいる世帯については年々増加しています。



(5) 空き家数の推移

住宅都市として発展してきた本市では、高齢化の進展や人口減少に伴い、年々空き家数が増加しています。



資料：住宅・土地統計調査



第3章 総合戦略

1 総合戦略の基本的な考え方と重点戦略

第2次総合戦略では、「何気ない日常に幸せを感じるまち」の実現をめざすために、「川西の良さを大切にしながら新たなまちづくり」を進めていく必要があることから、「市民とともに」、今後3年間で重点的に取り組む戦略をまとめています。

本市を取り巻く現状や課題、さらには市民会議における意見を踏まえて、本市では住宅都市という強みを生かし、住民を大切にするまちづくりに向けて、以下の4つの戦略を重点的に進めます。

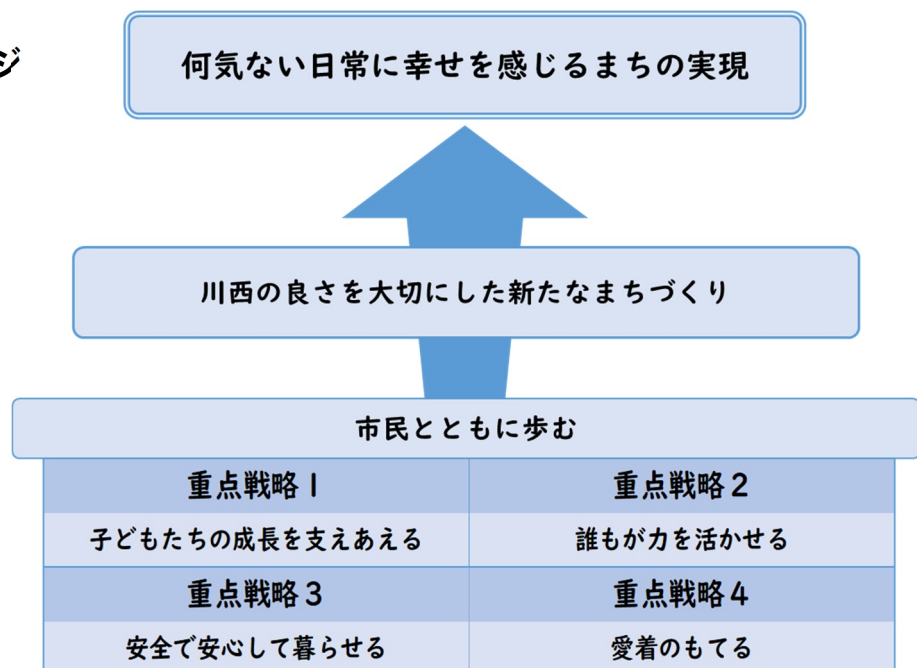
1つ目の戦略は、30歳代の転入者が多いことから、子育て世帯にとって魅力的なまちをめざすため、「子どもたちの成長を支えあえるまちづくり」を挙げています。

2つ目に、自分に合った居場所や活動できる環境が整っていることは、生活していくうえで重要な要素であることから「誰もが力を活かせるまちづくり」を、3つ目には、住み慣れたまちで幸せに暮らすために欠かせない「安全で安心して暮らせるまちづくり」を戦略としてまとめています。

そして、4つ目の戦略は、市民がまちの魅力を知り、学ぶことで本市の良さを実感し、住み続けたい、または市出身者に帰ってきたいと思ってもらえるよう「愛着のもてるまちづくり」としてしています。

なお、誰もが健康で、何気ない日常に幸せを感じるまちづくりを進めるために、第1次総合戦略で取り組んでいる健康施策は引き続き実施していきます。

総合戦略のイメージ



2 重点戦略と市民会議からの提案

かわにし市民会議

市民が考える「川西市といえば…」という本市の特徴やキーワードをもとに5つのテーマを設定

人口の推移、転入・転出の状況など、川西市の特徴を踏まえ、6回にわたる議論を経て、テーマごとに提案を取りまとめ

提案

かわにし創生本部・かわにし創生総合戦略推進会議

A 市民会議からの提案

B 人口の推移、転入・転出の状況

C 川西市の特徴

A～Cの内容を踏まえて、
創生本部・推進会議で議論

【総合戦略の策定】重点戦略を4つに取りまとめ

<市民会議の提案からの選定基準>

3年間で重点的に取り組む内容

本市がめざす方向性と合致

市民会議からの提案には市民会議の参加者が主体的に行う活動が含まれており、協働によるまちづくりを進めるうえで、大切な内容です。

提案の内容を含めて、今後も市民の活動を支援していきたいと考えています。

市民会議からの提案は資料編にまとめています。

3 重点戦略の構成

重点戦略 1

子どもたちの成長を支えあえるまちづくり

次世代を担う子どもたちの成長には、子育て世帯にとって肉体的・精神的に負担が大きい、妊娠・出産・子育て期における継続的な周囲の支援が必要です。また、質の高い就学前教育・保育の提供や、学校での教育をはじめとする子どもの学びの機会を大切にすることが重要です。行政だけでなく、地域や企業など多くの人が子どもの成長を見守り、支えあえるまちづくりをめざします。

施策 1

みんなで子育てを支援し、寄り添うことができる環境を整えます

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

子どもの成長には、家族をはじめ周囲の環境が大きく影響を及ぼします。同じ悩みを抱える子育て世帯や、世代を超えた地域の人たちと気軽に悩みを相談し、支えあう環境が十分に整っていない状況です。特に、育児に対する不安や負担が高まりやすい妊娠期から子育て期にかけての支援が求められています。

市民会議からの主な提案

1. 出産によって、夫婦ともに肉体的・精神的な負担から産後うつや児童虐待、夫婦関係の悪化につながる恐れがあるため、産前から産後のサポートを行う必要があります。【2班 提案1】
2. 教育や子育てに関する情報について、家族で共有できるような仕組みをつくる必要があります。【2班 提案3】

施策の方向性

1. 情報提供や相談体制の充実を図り、妊娠期から子育て期における育児の不安・負担を解消し、安心して出産・子育てができる環境を整えます。
2. 子育て世帯が社会から孤立しないよう、多世代が交流できる居場所づくりなどを通して、地域で子育てを支援し、寄り添うことができる環境を整えます。

取組内容

- ① 子どもの成長記録や子育てに関する情報共有、予防接種のスケジュール管理などができる、母子健康手帳と併用可能なスマートフォンアプリを令和2年度に導入し、保護者のニーズに応じたサービスを提供します。また、アプリの名称についても併せて検討を進めます。
- ② 保育士や相談員が子育ての不安や悩みなどの相談に対応し、子育て世帯と交流できる「地域子育て支援拠点」をすべての中学校区に開設します。
- ③ 産前から産後、子育て期の一貫したサポート体制として、助産師や保健師などの専門家が子育ての相談や情報提供、アドバイスを行う「(仮称)子育てコーディネーター事業」を令和4年度までに試行実施します。
- ④ 保護者の負担を一時的に軽減するため、子育てを経験した方による家事援助や子どもの送迎、預かりの実施などを、分かりやすく周知します。併せて、子育て支援サービスを提供できる体制の充実を図ります。

| 指標 | 現状値 (H30) | 目標値 (R4) |
|------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 「子育てがしやすいまちだ」と思う市民の割合 | 53.2% | 67% |
| 「学校に行くことが楽しい」と思う子どもの割合 | 85.0% (小学生) 82.0% (中学生) | 88.0% (小学生) 88.0% (中学生) |

(参考指標)

| 指標 | 現状値 (H30) | 目標値 (R4) |
|-------------------|-------------|----------|
| 保育所の待機児童数 | 29人 (R1.4月) | 0人 |
| 留守家庭児童育成クラブの待機児童数 | 79人 (R1.5月) | 0人 |

施策

市の現状や課題に対して、取り組んでいく必要がある対策をまとめたものを記載しています。

現状と課題

市民会議における意見や、市が課題として認識している内容を、施策ごとに記載しています。

市民会議からの主な提案

市民会議の提案書をもとに、施策につながる具体的な内容を記載しています。【 】内は提案した市民会議の班を記載しています。

施策の方向性

「現状と課題」「市民会議からの主な提案」を踏まえ、施策として取り組んでいく方向性を記載しています。

取組内容

施策の実現に向けて、3年間で市が取り組む内容を記載しています。

指標

施策の進捗状況を測るため、市民の実感を確認する指標を設定しています。

参考指標

市民の実感(上段指標)につながる「取組内容」の成果を分析するために参考指標を設定しています。



かわにし市民会議
2019.06.15 — 11.30

重点戦略 1

子どもたちの成長を支えあえるまちづくり

次世代を担う子どもたちの成長には、子育て世帯の肉体的・精神的負担が大きい、妊娠・出産・子育て期における周囲からの継続的な支援が必要です。また、質の高い就学前教育・保育の提供や、学校での教育をはじめとする子どもの学びの機会を大切にしていくことが重要です。行政だけでなく、地域や企業など多くの人が子どもの成長を見守り、支えあえるまちづくりをめざします。

施策 1

みんなで子育てを支援し、寄り添うことができる環境を整えます

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

子どもの成長には、家族をはじめ周囲の環境が大きく影響を及ぼします。同じ悩みを抱える子育て世帯や、世代を超えた地域の様々な人たちと気軽に悩みを相談し、支えあう環境が十分に整っていない状況です。特に、育児に対する不安や負担が高まりやすい妊娠期から子育て期にかけての支援が求められています。

市民会議からの主な提案

1. 出産によって、夫婦ともに肉体的・精神的な負担から産後うつや児童虐待、夫婦関係の悪化につながる恐れがあるため、産前から産後のサポートを行う必要があります。 【2班 提案1】
2. 教育や子育てに関する情報について、家族で共有できるような仕組みをつくる必要があります。 【2班 提案3】
3. 慣れない育児により、心身の疲れが増し、自発的な行動が起こしにくくなることから、子育ての相談や悩みを打ち明けることができず、ストレスを抱え、社会からの孤立を感じてしまうケースがあります。そのため、気兼ねなく相談や交流、情報の共有ができる環境を整える必要があります。 【2班 提案2】
4. 本市は若年層の転入者が増加傾向にあり、子育て世帯が公園などを利用しやすい環境を整える必要があります。 【3班 提案4】

施策の方向性

1. 情報提供や相談体制の充実を図り、妊娠期から子育て期における育児の不安や負担を解消し、安心して出産、子育てができる環境を整えます。
2. 子育て世帯が社会から孤立しないよう、多世代が交流できる居場所づくりなどを通して、地域で子育てを支援し、寄り添うことができる環境を整えます。

取組内容

1. 子どもの成長記録や子育てに関する情報共有、予防接種のスケジュール管理などができる、母子健康手帳と併用が可能なスマートフォンアプリを令和2年度に導入し、保護者のニーズに応じたサービスを提供します。また、アプリの名称についても併せて検討を進めます。
2. 保育士や相談員が子育ての不安や悩みなどの相談に対応し、子育て世帯が交流できる「地域子育て支援拠点」をすべての中学校区に開設します。
3. 産前から産後、子育て期の一貫したサポート体制として、助産師や保健師などの専門家が子育ての相談や情報提供、アドバイスを行う「(仮称)子育てコーディネーター事業」を令和4年度までに試行実施します。
4. 保護者の負担を一時的に軽減するため、子育てを経験した方による家事援助や子どもの送迎、預かりの実施などを、分かりやすく周知します。併せて、子育て支援サービスを提供できる体制の充実を図ります。
5. 子育て世代をはじめ様々な世代の人が気軽に立ち寄り、交流や活動を行えるよう、公民館などの公共施設の利用ルールを見直します。また、利用しやすくするために手続きの簡素化も併せて行います。
6. 子どもがのびのび遊べるプレーパーク*の開設支援や公園の利用ルールの見直しを地域とともに進めます。

* プレーパーク：禁止事項をできるだけなくし、子どもたちが自由にやってみたいと思うことができる遊び場

施策 2

子育て世帯の家庭生活と仕事の両立を支援します

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

女性の就業率の増加や国の制度改正によって、保育施設や留守家庭児童育成クラブへの入所希望者の増加が見込まれます。民間事業者と連携した受け入れ環境の確保が課題となっています。

施策の方向性

1. 保育定員の拡大や留守家庭児童育成クラブの充実を図り、家庭生活と仕事を両立できる環境を整えます。
2. 保育士などの人材確保及び資質の向上を図り、質の高い就学前教育・保育を実施します。

取組内容

1. 子ども・子育て計画に基づき、令和3年4月の待機児童解消に向けて、令和2年4月に保育施設を新規開設するほか、同年度中に認定こども園の保育定員を増員します。
2. 留守家庭児童育成クラブの平日(学校休業日を含む)の終了時間や学校休業日の開始時間を拡大します。
3. 安定した運営に向けた支援を行い、民間事業者の留守家庭児童育成クラブの参入を促進します。
4. 留守家庭児童育成クラブにおける保育の質の向上を図るため、クラブ運営マネージャーを配置し、各クラブの支援を実施します。
5. 保育士などの人材確保及び資質の向上に向けて、スキルアップに資する研修の充実、学校教育との連携強化などに取り組みます。

施策3

子ども一人ひとりが個性や生きる力を育むことができる環境を整備します

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

豊かな人間性や社会性を育むためには、子どもたちが様々な学びの経験を重ねることが重要です。一人ひとりが個性を伸ばすことができる教育をめざして、学校や家庭、地域がそれぞれの役割を担い、より一層、相互に連携していくことが課題となっています。

市民会議からの主な提案

1. 子どもたちが個性を伸ばし、夢の実現に向けて努力できる環境を整え、様々な人と関わり、多種多様な学びに触れることで、「生きる力」を伸ばす教育を行う必要があります。 【2班 提案4、5】

施策の方向性

1. 一人ひとりが個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性などの生きる力を育み、子どもたちの可能性を伸ばすことができる教育を地域とともに取り組みます。

取組内容

1. 学校運営に地域の声を積極的に活かし、地域と一体になって特色ある学校づくりを進められるよう、学校運営協議会を実施環境が整った学校から導入します。
2. タブレット端末を用いて、専門のコーチが遠隔指導を行う部活動支援を各中学校3クラブに拡充します。
3. 専門的な知識や技能を持つ外部の部活動指導員を各中学校3名体制に拡充します。
4. 里山体験学習など川西市の自然や歴史、文化などを活用した体験学習の充実を図り、豊かな心を育みます。また、様々な自然災害から自らの生命を守るため、主体的に判断し行動する力を育成する防災教育を実施します。
5. 学習習慣の定着をめざした放課後の学習支援「きんたくん学びの道場」の充実を図ります。併せて、将来にわたり子どもが困窮状態にならないよう、子どもが安心できる居場所づくりの推進など、生活習慣や学習習慣の改善につながる取組みを支援します。

施策 4

いじめや不登校などの相談体制の充実を図ります

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

増加傾向にあるいじめや不登校などについて、子どもやその家族がひとりで悩まずに気軽に相談できる体制の充実が求められています。また、行政だけではなく、NPO や地域、民間事業者と連携して支援する必要があります。

いじめ H25 72 件 H30 268 件

不登校 H25 192 人 H30 252 人

児童虐待の相談人数 H25 44 人 H30 180 人

児童虐待のあった世帯数 H25 37 世帯 H30 125 世帯

市民会議からの主な提案

1. いじめや不登校については、自分たちのまちの問題ととらえ、課題解決に向けて学校や地域、関係機関と協力して進める必要があります。

【2班 提案6】

施策の方向性

1. 子どもや保護者の悩みに寄り添い、ひとりで悩むことがないように相談や支援を行います。

取組内容

1. いじめや不登校、虐待を未然に防止し、早期に解決を図るために、スクールソーシャルワーカーを各中学校区に1名配置します。
2. 不登校児童生徒一人ひとりへの支援を充実させ、社会的自立につなげるため、適応教室の相談員を増員するとともに学校との連携強化を図ります。
3. 面談や電話に加え、ICTを活用した相談など、気軽に相談できる環境を整えます。
4. フリースクールとの連携やICTを活用した支援など、子どもの多様な学びの場づくりを進めます。

施策 5

登下校時などにおける子どもの見守りを強化します

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

登下校時などの子どもの事故や事件の発生を防ぎ、安全を確保するために、地域での見守り強化が求められています。

市民会議からの主な提案

1. ICT を活用した見守りサービスを導入し、子どもの居場所を把握する仕組みを創設し、防犯対策を強化する必要があります。 【3班 提案1】

施策の方向性

1. 登下校中をはじめ、地域での子どもの安全を確保します。

取組内容

1. 保護者が子どもの位置情報を知ることができるような、ICT を活用した新しい見守り体制を、保護者や地域住民と協力して進めます。
2. 児童生徒の登下校時の安全を確保するため、通学路の道路改良などの対策について優先順位を明確にし、計画的に取り組みます。

| 指標 | 現状値 (R1) | 目標値 (R4) |
|-------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 「子育てがしやすいまちだ」と思う市民の割合 | 57.0% | 67.0% |
| 「学校に行くことが楽しい」と思う子どもの割合 | 83.4%(小学6年生) 80.3%(中学3年生) | 88.0%(小学6年生) 83.0%(中学3年生) |
| 「自分には良いところがある」と思う子どもの割合 | 82.2%(小学6年生) 71.5%(中学3年生) | 88.0%(小学6年生) 80.0%(中学3年生) |

(参考指標)

| 指標 | 現状値 (R1) | 目標値 (R4) |
|-------------------|----------|----------|
| 保育所の待機児童数 | 29人 | 0人 |
| 留守家庭児童育成クラブの待機児童数 | 79人 | 0人 |

重点戦略 2

誰もが力を活かせるまちづくり

時代の変化とともに人の生き方は変わっており、自分の力を活かす場所は人それぞれです。自分の居場所や力を発揮できる場所があることは幸せを実感するうえで重要なことであり、住み慣れたまちで仕事や地域活動など、本人の希望や能力に合わせて、誰もが力を活かせるまちづくりをめざします。

施策 1

市民が気軽に活動できる環境づくりに取り組みます

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

本市は周辺自治体と比べて高齢化率が高く、シニア層の力に恵まれています。その力を発揮してもらえる環境整備が十分ではありません。

また、自治会では、役員の負担感などから加入率は年々低下しており（H25 60.0% H30 53.5%）、コミュニティ組織では、自治会をはじめとした構成団体の参加者減により、活動の担い手が不足しています。市民活動団体では、活動基盤の弱さや認知度の低さから運営が難しいところもあります。加えて、これらの団体の活動内容を知りたい市民に十分に伝わっておらず、参加したい人が参加できていない状況があります。

そのため、市民が市内の団体の活動内容を知ることができ、気軽に活動に参加できるような環境づくりを進める必要があります。

市民会議からの主な提案

1. 川西市にはシニア世代が多く、助けを必要とする子育て世代をサポートすることができるような仕組みをつくることで、シニア世代が活躍できる場を広げることができます。 【1班 提案1】

2. 地縁団体^{*1}や市民活動団体の取組みの情報は団体ごとに配信していますが、必要な人に届いていない状況があるため、地域の各団体の情報を集約し、誰でも手軽に情報が手に入れられる仕組みをつくる必要があります。

【5班 提案1、4】

3. 高齢者が地域と交流できる環境を整える必要があります。

【5班 提案2】

施策の方向性

1. 地縁団体や市民活動団体が情報を発信できる環境を整備し、市民や団体同士がつながることで、気軽に活動に参加できるような仕組みを構築します。
2. 市民の持つ力を活かすため、市民活動の担い手となる人材の発掘や育成に取り組めます。
3. 市民が活かしたい能力と、それを求める人や団体をつなぐ仕組みを構築します。
4. 子どもから高齢者まで誰もが気軽に立ち寄り、交流することができるような拠点を増やします。

取組内容

1. 地縁団体や市民活動団体が、イベントや人材の募集などを効果的に情報発信するための支援を行います。併せて、それらの情報を市民活動センター^{*2}に集約し、情報を必要としている人が容易に入手できる仕組みを構築します。
2. 地域での市民活動をより活性化するため、関係者との調整や企画を行うなどの課題解決スキルを持つ人材を養成します。
3. 市民と活動団体の情報を集約し、手伝いたい人と活動内容をマッチングする「(仮称)地域人材マッチング制度」を検討し、令和4年度までに事業を開始します。
4. 市民が気軽に立ち寄り、市民同士の交流を行うことができるよう、公民館などの公共施設の利用ルールを見直します。また、利用しやすくするために手続きの簡素化も併せて行います。

^{*1} 地縁団体：自治会、コミュニティなど、各地域で活動している団体

^{*2} 市民活動センター：環境・福祉・まちづくりなど、営利を目的にしない市民活動を促進するための施設。指定管理者である NPO 法人が市民活動への参加希望者や団体などに対し、啓発のための講座の実施、情報の提供、交流会の開催、相談窓口の設置などを行っている。

施策 2

市内で働ける環境を整えます

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

市内には、子育てや介護などの事情により、通勤時間が取れずフルタイムで働くことが難しい方がいます。市内の就職先も多いとはいえ、20歳代の方が就職を機に市外へ転出している傾向が続いています。

そのため、子育て中や介護中の方、障がい者など誰もがそれぞれの能力や希望に合わせた働き方ができるような環境を整える必要があります。

市民会議からの主な提案

1. 市内には働ける場所や求人が少ないため、自宅や市内でスキルを活かした働き方ができる環境づくりを支援する必要があります。 【1班 提案1】

施策の方向性

1. 育児や介護などのスキマ時間を有効に活用し、自宅やその近くで仕事ができる環境を整備します。
2. 市内での新たな仕事や雇用の創出に向け、様々なスタイルで働く人が出会い、つながる場を設けます。
3. 起業希望者や、起業後間もない人に対する支援を行います。
4. 障がい者の就労を支援します。

取組内容

1. 新たなつながりや仕事を創出するコワーキングスペース^{*}の運営補助や、ハローワークと連携したセミナー開催など、雇用に関する支援を実施します。
2. 年齢、性別などに関わらず、多様なニーズに対応した起業支援を民間事業者及び関係団体などと連携を図りながら実施します。
3. 川西市障がい者雇用・就労推進本部を設置し、障がい者の就労機会の拡大に取り組めます。

^{*} コワーキングスペース：独立して働く個人がネットワーク設備などの実務環境を共有しながら仕事を行うとともに、利用者同士の交流や共働といったコミュニティ形成も促す施設

施策 3

市民や民間事業者の力を活かす仕組みを構築します

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

これからの川西市には、行政だけではなく市民とともに考え、それぞれのもつ経験や能力を活かし、適切な役割分担を行う「市民とともに歩む」まちづくりが必要です。そのためには、まちづくりの主体である市民の自発的な取組みを積極的に後押ししていくことが重要です。市民会議でも、市民の主体的な取組みを支援する仕組みを求める意見が出されています。

また、複雑化・高度化する課題に対応するためには、民間事業者の持つ柔軟なアイデアや高い技術力を活かして問題解決にあたる仕組みを構築する必要があります。

市民会議からの主な提案

1. 市民一人ひとりが川西を自分ごと化することで、自分の住む地域を大切に
する文化を形成することが大切です。 【4班 提案5】
2. 川西市に立ち寄りたくなるようなイベントなどを開催し観光客などの交流
人口の増加をめざし、市内での消費額の増加を図ることが必要です。
【1班 提案4】

施策の方向性

1. 市民が自ら考え、新たに取り組むイベントやプロジェクトに対して支援し
ます。
2. 市政の課題解決に向けて、民間事業者が新たな提案を行うことができる官
民連携の仕組みを導入します。

取組内容

1. 交流人口の拡大や地域の魅力再発見などを目的とした市民主催のイベント
実施にあたり、規制の緩和や手続きの簡素化、助成金の交付などの支援体制
を構築します。
2. 市の抱える課題に対し民間事業者から解決策の提案を募る制度の活用な
ど、民間事業者の持つアイデアや技術を活かす官民連携を推進します。

| 指標 | 現状値 (R1) | 目標値 (R4) |
|--|----------|----------|
| 「自分の居場所や力を活かせる場がある」と感じる市民の割合 | 55.2% | 66.0% |
| 「自治会やコミュニティの活動に関する情報が入手できている」と感じる市民の割合 | 59.9% | 71.0% |
| 「ボランティアやNPOなどの活動に関する情報が入手できている」と感じる市民の割合 | 20.2% | 26.0% |

(参考指標)

| 指標 | 現状値 (H30) | 目標値 (R4) |
|---------------------|-----------|----------|
| 市民活動センター利用登録団体数 | 49 件 | 49 件 |
| 市民活動・NPO・起業サポート相談件数 | 529 件 | 920 件 |
| 起業支援セミナー受講者の起業者数 | 11 件 | 19 件 |



重点戦略 3

安全で安心して暮らせるまちづくり

子どもから高齢者まで、障がいがある人もない人も、全ての市民が安心して暮らせることは、市民の幸せの実感につながります。多発する大規模災害、巧妙化する犯罪、さらには人口減少、少子高齢化によるまちの変化に的確に対応し、安全で安心して暮らせるまちづくりをめざします。

施策 1

地域の安全性を高める防災・防犯の取組みを進めます

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

近年、過去に経験したことのない大規模災害が多発しており、行政と市民の危機意識をさらに高める必要があります。

また、犯罪については巧妙化していることから、子どもや高齢者が被害に遭わないための対策が重要となります。

市民が安全で安心に暮らせるよう、行政だけでなく、市民とともに平常時の備えや非常時の対応を行う必要があります。

市民会議からの主な提案

1. 災害が発生した際、必ずしも行政が迅速な救助や支援を行えるとは限らないため、市民が自ら備え、住んでいる地域で助け合う関係を築いておく必要があります。【3班 提案3】【5班 提案3】
2. 誰もが安全で安心して暮らせる住環境はまちの重要な魅力の一つであるため、犯罪の防止につながる取組みを行っていく必要があります。【3班 提案1】

施策の方向性

1. 災害時における危険な場所に関する情報や、防災・防犯に役立つ情報を伝える環境を整えるなど、市民が災害や犯罪に備えることを支援します。
2. 非常時には助け合いが重要であることから、地域で助け合える環境づくりを支援します。
3. 災害時に市民の安全を守るため、避難できる場所や環境を整えます。
4. 緊急時にその場に居合わせた人が速やかに命を救う手当てができる環境を整えます。

取組内容

1. 日頃から、災害の備えに対する意識を高めるために、SNS*を活用するなど効果的に情報が発信できる取組みを進めます。
2. 振り込め詐欺をはじめとした犯罪への対策として、高齢者に自動通話録音機を貸し出すなど、被害の未然防止に取り組みます。
3. 児童生徒を対象に様々な自然災害から自らの生命を守るため、主体的に判断し行動する力を育成する防災教育を実施します。
4. 市民が安全に避難できるよう、危険個所をわかりやすく示した、市内を3つのエリアに分けた防災マップを作成します。
5. 地域の防災力を高めるため、市民による地区防災計画作成に向けた支援を行います。
6. 市民が早い段階で、安心して避難できるよう、地域で自主的に避難所を開設する場合の支援や、近隣自治体や民間事業者と連携した避難所の開設・運営を行います。
7. 市民が緊急時に救命処置を行えるよう、受講しやすく、また、受講後も必要な情報を取得できる市民救命士制度を新設します。

* SNS : 「Social Networking Service (ソーシャルネットワーキングサービス)」の略で人と人をつなぎ、コミュニケーションを楽しむためのサービス

施策 2

良好な住環境の維持向上に向けて、空き家対策を進めます

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

人口減少や少子高齢化によって市内の空き家は増加しており（H25 8,250 戸 H30 8,600 戸）、対策が必要になっています。

市民会議からの主な提案

1. 空き家の増加が見込まれ、防犯上望ましくないため、空き家を増やさない取組みと、利活用の仕組みを整える必要があります。 【3班 提案2】

施策の方向性

1. 良好な住環境を維持するため、空き家の発生予防の仕組みづくりや空き家の利活用を推進します。

取組内容

1. 居住している住宅の将来の処分や利活用について相談できるよう、空き家・空き地相談窓口を定期的に開設します。
2. 空き家の流通や利活用を促進するため、民間事業者と連携し、所有者と活用希望者をつなぐ空き家マッチング制度を導入します。
3. 空き家のリフォームや解体に対する助成制度を効果的に周知するなど、空き家や空き地の利活用を進めます。

施策 3

新たな交通体系の仕組みを構築します

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

交通は通学や通勤、買い物など日常生活に不可欠なものであり、安心して暮らすためには、既存の公共交通の利便性を維持しつつ、人口減少や少子高齢化に対応した新たな交通体系の仕組みを構築することが重要となります。

新たな交通体系を構築し、まちの活性化や魅力の向上につなげるとともに、高齢者や障がい者をはじめ、誰もが暮らしやすい環境を整える必要があります。

市民会議からの主な提案

1. 高齢者をはじめとした市民の移動手段を確保するため、新たな公共交通施策を検討する必要があります。 【3班 提案5】

施策の方向性

1. 住み慣れた場所で便利に安心して暮らせるよう、民間事業者や地域との連携、協力による新たな交通体系の仕組みを構築します。

取組内容

1. 令和2年度から大和地区でオンデマンドモビリティ^{*1}の実証実験を行います。
2. 市内の新たな移動手段の充実を図るため、官民連携によるシェアサイクル^{*2}やグリーンスローモビリティ^{*3}の導入を進めます。

^{*1} オンデマンドモビリティ：時刻表や指定ルートを持たず、利用者の予約にあわせて運行を行う乗合交通

^{*2} シェアサイクル：まちの中に設置された専用駐輪場（サイクルポート）にある自転車を自由に利用（貸出し・返却）でき、短時間・短距離を目的とした新しい交通手段

^{*3} グリーンスローモビリティ：電動で、時速20km未満で公道を走る4人乗り以上の公共交通

| 指標 | 現状値 (R1) | 目標値 (R4) |
|----------------------|----------|----------|
| 「災害に強いまちだ」と思う市民の割合 | 21.3% | 32.0% |
| 「安全・安心なまちだ」と感じる市民の割合 | 44.5% | 60.0% |
| 「移動しやすいまちだ」と思う市民の割合 | 61.0% | 65.0% |

(参考指標)

| 指標 | 現状値 (R1) | 目標値 (R4) |
|--------------------------|---------------------------------|----------|
| 市民救命士認定者数 | - (令和2年度から 制度開始のため) | 1,200人 |
| 空き家・空き地相談窓口での相談件数 | 10件 (令和元年11月から 5か月間の実績件数) | 60件 |
| 空き家マッチング制度に登録した空き 家件数 | - (令和2年度から 制度開始のため) | 30件 |



重点戦略 4

愛着のもてるまちづくり

市民が川西に愛着をもち、住み続けたいと思ってもらえるまちの実現をめざすためには、日々の暮らしの中で、本市の良さを知り、学ぶきっかけをつくることが大切です。そのためには、歴史や文化、自然などの様々な地域資源を掘り起こして磨きをかけ、効果的に発信し、活用する必要があります。

その情報は市から発信するだけでなく、市民同士で効果的に情報を共有していただき、さらには市の魅力を市外に伝えることも重要です。過去に川西に住んでいた人が帰ってきたいと思えるような愛着のもてるまちづくりを市民とともにめざします。

施策 1

市の魅力を知る、学ぶ環境を整えます

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

本市は、「清和源氏発祥の地」であることをはじめ、歴史や文化、自然など様々な地域資源を有していますが、市民でもその内容や価値を詳しく知らないという現状があります。

日常生活の中で市民が知る、学ぶきっかけがあれば、結果として本市への興味や関心につながることから、まちへの愛着が高まる取組みを進めることが重要です。

市民会議からの主な提案

1. 日常の中で川西の歴史や文化のことを「知る場」をつくり、楽しく学べる環境をつくる必要があります。特に若い世代に関心を持ってもらうことが重要です。(例：川西かるたなど、遊びを通して川西の歴史や文化に楽しくふれる機会をつくる、歴史・文化の魅力再発見を目的とした「まちの宝物サポート隊活動(市民会議4班有志メンバー)」)

【4班 提案1】

2. 住みやすいところだと感じる一方で、十分に市の魅力を知らないために、自信をもって市外の人に川西市を紹介できないという市民が多くいます。市内、市外へ本市の魅力が伝わっていくような取組みを行う必要があります。

【全班共通 提案1】

3. 本市の特産品について、購買意欲がわく販売方法やイベントを開催し、特産品自体の価値や知名度の向上をめざす取組みが必要です。

【1班 提案2】

施策の方向性

1. 「清和源氏発祥の地」「黒川の里山」「いちじく・桃・栗」などの地域資源を活用し、市民が本市の特徴を知ることができる環境を整えます。
2. 歴史や文化を楽しく学び、本市の成り立ちや魅力を理解できる機会を設けます。

取組内容

1. 里山体験学習など川西市の自然や歴史、文化などを活用した体験学習の内容の充実を図ります。
2. 「いちじく」をはじめとした特産品の商品開発などによる魅力向上や販売場所の情報提供を官民連携で取り組みます。
3. 川西の歴史・文化の魅力再発見を目的とした「まちの宝物サポート隊活動(市民会議4班有志メンバー)」のような市民主体の企画への支援を行います。

施策 2

民間事業者などと連携し、地域資源を磨き、効果的に活用します

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

市内には歴史的、文化的価値のある資源がありますが、市民は身近な存在として感じていない状況です。市民にとって親しみのあるまちをめざしていくためには、市が有する潜在的な魅力をどのように活用していくかが課題です。

市民会議からの主な提案

1. 川西にある歴史や文化資源（多田神社、三ツ矢記念館、加茂遺跡、勝福寺古墳など）をより身近に感じられるよう活用の仕方を工夫する必要があります。
【4班 提案2】
2. 他の自治体や企業との連携強化や、市にある資源やイベントをつなぎ合わせてストーリーをつくることで、さらなる付加価値を付ける必要があります。
【4班 提案3】
3. 情報の伝え方や案内板の表示が不十分であることから、イメージを統一した案内表示を設置するなど、情報の伝達に力を入れる必要があります。
【4班 提案4】

施策の方向性

1. 地域資源の活用にあたっては、行政だけの視点ではなく、民間事業者や本市とゆかりがある方に協力を仰ぎ、地域資源の魅力を高め、まちの魅力を効果的に伝えていきます。
2. 民間事業者と連携を図り、地域資源の新たな魅力を掘り起こし、活用する取組みを進めます。
3. 「清和源氏発祥の地」であることを活用し、交流人口を増やします。
4. 日常生活のなかで市の魅力を感じられる工夫を行います。
5. 「エドヒガン(桜)の群生地」などの黒川地区の貴重な地域資源や景観を保全します。

取組内容

1. 本市出身の著名人や民間事業者に協力していただき、まちの魅力を高めるための取組みや市の魅力を発信してもらう制度を創設します。
2. 「清和源氏発祥の地」であることを市内外へ広く周知していきます。
3. 清和源氏をイメージした統一デザインガイドラインを策定し、それに基づいた標識や案内表示板などを作成します。
4. 「日本一の里山」と称される黒川地区の良好な環境を保全します。

施策3

市の情報を効果的に発信し、市民と共有します

現状と課題（市民会議の意見、市が抱える課題）

市からの情報の伝え方は、これまで広報誌やホームページによって市民に周知する方法が一般的でしたが、スマートフォンが普及したことから、本市でも SNS を活用した情報発信を行っています。

しかし、情報を発信する手段は増えたものの、情報の受け手である市民が必要としている情報や市が知ってほしい情報が十分に届いていないことが課題となっています。市民に分かりやすく、必要な情報を伝える方法や仕組みなどを検討する必要があります。

また、本市には価値のある地域資源が多くありますが、その魅力について市民はもちろん、過去に川西に住んでいた人や市外の人たちにも知ってもらうため、積極的な情報発信を進める必要があります。

市民会議からの主な提案

1. 情報の発信について、行政と市民の意識にギャップがあるため、行政は情報を発信するだけでなく、めざす方向性を共有する意識を持ちながら発信する必要があります。【全班共通 提案2、3】
2. 様々な情報媒体を活用したシティプロモーションを実施する必要があります。【全班共通 提案4】

施策の方向性

1. 広報誌やホームページ、チラシなどの従来の手法だけではなく、ICTを活用した新たな情報発信を行います。
2. 民間事業者と連携し有効な情報発信、戦略的なシティプロモーションを行います。
3. スマートフォンや SNS などを気軽に利用できるよう支援を行い、市民に市の情報を共有してもらう環境を整えます。

取組内容

1. 市の情報を誰もが手軽に入手できるように、市民のニーズに合った情報の発信方法を工夫するなど、インターネット上で利用できるサービスやシステムを改善します。
2. 民間事業者のサービスを利用し、市内のロケ地として使用できる場所を効果的に配信するなど、まちの魅力を市内外へ発信します。
3. 市民がスマートフォンや SNS などを気軽に利用できるように、民間事業者と協働で活用セミナーを開催します。
4. 本市に関わりがあり、まちづくりに共感していただける人を増やし、効果的に情報が共有できる取組みを進めます。

| 指標 | 現状値 (R1) | 目標値 (R4) |
|--------------------------|----------|----------|
| 川西の歴史や文化財に興味がある市民の割合 | 55.7% | 70.0% |
| 必要な市の情報が入手できると感じている市民の割合 | 56.9% | 65.0% |

(参考指標)

| 指標 | 現状値 (H30) | 目標値 (R4) |
|-------------------------------|-----------|-----------|
| 寄附者がふるさとづくり寄附金の記念品として選んだ特産品の数 | 227 個 | 400 個 |
| 市公式 SNS のフォロワー数 | 2,725 人 | 4,000 人 |
| 公式 SNS のリーチ数* | 142,114 人 | 215,000 人 |

* リーチ数：SNS などに投稿した記事を見たユーザー数

資料編

1 かわにし市民会議

無作為抽出で選ばれた2,000人に参加案内を送付したところ、全体の約8%にあたる163人から参加の表明があり、市民会議には16歳から87歳までの様々な年代の方に出席いただきました。

(1)参加者一覧（敬称略、五十音順）

同意をいただいた方のみ掲載しています。

1班 テーマ「産業の活性化」

| | | | | |
|-------|--------|-------|-------|--------|
| 荒川 雅子 | 池田 青茲 | 泉田 吉彦 | 岩橋 未沙 | 植木 久美子 |
| 植田 聖子 | 大槻 ひとみ | 沖田 達扶 | 川端 裕之 | 坂田 育子 |
| 塩田 奉子 | 玉井 奈津美 | 成田 直 | 西田 智徳 | 林田 美鈴 |
| 福田 綾美 | 藤倉 浩一 | 堀 裕美 | 増成 佳子 | 森川 修 |
| 山田 薫 | 吉村 友宏 | | | |

コーディネーター：荒井 英明(神奈川県内陸工業団地協同組合事務局長)

2班 テーマ「子育て・教育の充実」

| | | | | |
|--------|--------|--------|--------|-------|
| 池田 祥子 | 池田 由香 | 今井 雅志 | 笠間 怜 | 川上 大介 |
| 河野 あゆみ | 清水 達雄 | 城 遼佳 | 宗万 弥央 | 田所 龍馬 |
| 田中 美香 | 辻本 穂乃花 | 冨田 賀津子 | 永瀬 恵 | 西垣 昌俊 |
| 西田 さやか | 原田 聡子 | 廣畑 友繫 | 星野 よし子 | 森 ユミ子 |
| 森下 翔 | 吉見 宜之 | | | |

コーディネーター：石井 聡(逗子市市民協働部次長)

3班 テーマ「住宅都市としての魅力向上」

| | | | | |
|-------|--------|--------|--------|-------|
| 秋篠 彩 | 足立 智子 | 伊藤 陽次 | 岩村 隆一 | 内田 尊子 |
| 大嶋 綾子 | 小川 賢 | 熊谷 政人 | 倉 稔貴 | 小西 努 |
| 榊 明子 | 佐藤 美菜子 | 佐道 清 | 白濱 菜美 | 田中 恒子 |
| 田村 真一 | 東條 成那 | 永田 八絵花 | 野々村 利江 | 濱砂 ゆか |
| 林 操 | 船木 薫 | 前田 秀雄 | 山本 奈都美 | 吉村 和子 |

コーディネーター：山根 晃(公益財団法人 足立区勤労福祉サービスセンター 特命担当部長)

4班 テーマ「文化・歴史の活かし方」

ANAK AGUNG MULIAWAN 宇野 満 大崎 佳子 大角 光太郎
 大田 佳代子 奥野 敏江 川村 竜二 熊谷 美智子 神保 賢二
 田中 夏音 藤間 伸治 中本 晃治 林 暖花 半田 一清
 丸谷 満 光本 芳子 宮川 喜代子 宮本 颯太 宮本 直子
 森田 洋行 森田 裕也 横山 和正 吉澤 有砂 渡部 昌克
 コーディネーター：伊藤 伸(一般社団法人 構想日本 総括ディレクター)

5班 テーマ「やりがいの持てる地域活動の促進」

石澤 実羽 板村 さゆり 魚谷 真理恵 沖 俊行 梶原 彩愛
 神崎 英樹 厚東 信之 佐藤 明子 鈴木 浩之 高橋 泰
 多島 幸男 田原 静佳 中山 拓人 畑田 守俊 廣島 徹
 村見 智美 山口 和子 山下 健治
 コーディネーター：伴 幸俊(公益財団法人 豊田地域医療センター事務局副局長)

(参考)参加者 年代・男女別内訳

| | 10代 | | 20代 | | 30代 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 合計 人数 | 内訳 | |
|----|-----|----|-----|---|-----|----|-----|----|-----|---|-------|----|----------|----|----|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | 男 | 女 |
| 1班 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 3 | 6 | 5 | 0 | 4 | 6 | 2 | 33 | 16 | 17 |
| 2班 | 1 | 3 | 3 | 1 | 2 | 9 | 2 | 6 | 1 | 1 | 2 | 2 | 33 | 11 | 22 |
| 3班 | 1 | 2 | 3 | 2 | 2 | 5 | 2 | 4 | 3 | 1 | 4 | 5 | 34 | 15 | 19 |
| 4班 | 1 | 3 | 0 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 0 | 6 | 4 | 31 | 16 | 15 |
| 5班 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 6 | 3 | 4 | 1 | 2 | 9 | 3 | 32 | 14 | 18 |
| 計 | 4 | 11 | 8 | 8 | 9 | 26 | 16 | 22 | 8 | 8 | 27 | 16 | 163 | 72 | 91 |

(2) アンケート結果

市民会議で議論するテーマを決定するため、アンケートを実施しました。集まったキーワードを参考に、5つのテーマを決めました。

対象者及び送付数 無作為抽出で選ばれた市民2,000人に送付
 アンケート内容 川西市から連想するキーワードを3つ記入
 回答者数及びキーワード数 563人、1,185キーワード

| | | | | | |
|----------------------|------------|---------------------------------|------------|---------------------|------------|
| 市のイメージ | 156 | 子育て・教育関係 | 20 | 福祉（地域交流含む） | 38 |
| ゆるキャラ | 98 | 中学校給食がない | 6 | 高齢化(高齢者) | 27 |
| 特徴無し・地味 | 20 | 子育てしやすい・子供が 住みやすい | 4 | 人が温かい・交流がある | 5 |
| 知名度が低い | 10 | 子育てにやさしくない、 改善点が多い、対策が遅 い | 5 | 介護施設 | 2 |
| 市花・市木 | 13 | 小中学生の活躍が多い | 2 | 高齢者に優しい | 1 |
| のどか・穏やか・落 ち着いている | 3 | 小学校バスケットチーム | 2 | 障害児福祉 | 1 |
| その他 | 12 | その他 | 3 | 福祉の充実 | 1 |
| | | | | 生活保護の方が多い | 1 |
| 立地・地名 | 334 | 住環境・民間施設 | 104 | 病院・医療 | 16 |
| 南北に長い | 18 | 住みやすい | 16 | 病院 | 9 |
| 自然・緑・山・妙見山 | 98 | 交通アクセスが便利 | 17 | 病院がない・少ない | 3 |
| 猪名川・川・ダム | 41 | 道路の混雑 | 8 | 公共医療が弱い | 1 |
| 里山・黒川 | 11 | 安全・安心 (災害が少ない) | 6 | 医療センター(公立) | 1 |
| 田舎 | 13 | オールドニュータウン | 4 | 北部に入院できる病院がな くなる | 1 |
| ほどよく田舎、ほどよ く都会 | 9 | 不便 | 4 | 民間病院 | 1 |
| 住宅地・ベッドタウン | 51 | 公園・遊び場がない | 3 | 観光・歴史・有名人 | 205 |
| キセラ川西(中心市街 地再開発) | 17 | 空き家 | 3 | 源氏まつり | 63 |
| 交通機関(電車・高速 道路・空港) | 62 | 駅前商業施設 | 18 | 清和源氏 | 49 |
| 坂が多く平地が少ない | 4 | 南部と北部格差 | 2 | 多田神社 | 42 |
| 満願寺 | 4 | 駅前以外商業施設 | 2 | 猪名川花火大会 | 8 |
| その他 | 6 | その他 | 21 | 多田銀山 | 3 |
| 産業・名産品 | 255 | 市の施策・状態 | 49 | 加茂遺跡 | 3 |
| 大企業・製造工場がな い(少ない) | 4 | 水道代が高い | 6 | 有名人 | 24 |
| 企業誘致・誘致下手 | 3 | 住民税が高い (他市と比べて) | 5 | その他 | 13 |
| 産業が乏しい・遅れ・ 育成必要 | 3 | 貧乏・財政難 | 5 | スポーツ | 6 |
| いちじく・イチジクワ イン | 181 | 他市町村に比べ遅れてい る・劣っている | 3 | スポーツ | 1 |
| 三ツ矢サイダー | 37 | 広報(PR下手・アピール ポイントが弱い) | 3 | スポーツをしている人が多い | 1 |
| 桃 | 16 | 街づくり・開発 (乱開発・中途半端・川 西方式) | 6 | ゴルフ | 1 |
| 菊炭 | 8 | 平和 | 3 | テニスコートが少ない | 1 |
| その他 | 3 | 健康アプリ | 1 | 一庫マラソン | 2 |
| | | その他 | 17 | 市民活動 | 2 |
| | | | | ミュージカル川西の金太郎 | 1 |
| | | | | 市民オーケストラ | 1 |

(3)かわにし市民会議からの提案書

市民会議で議論された内容を、提案書として作成していただきました。これらの提案内容や市における現状・課題を踏まえ、重点戦略を4つにまとめています。

重点戦略1

子どもたちの成長を支えあえるまちづくり

重点戦略2

誰もが力を活かせるまちづくり

↑ 市民会議からの

1班 産業の活性化

- 戦略2へ 1. 子育て世代からシニア世代まで多様な働き方を可能にする環境を整える
- 戦略4へ 2. 農業の生産量を維持する
- 3. 交通の利便性を生かして集客施設を誘致する
- 戦略2へ 4. 川西市の交流人口と消費額を増加させる

2班 子育て・教育の充実

- 戦略2へ 1. 産前から産後を通して、子育て世帯を地域・行政が協力し支える体制の充実を図る
- 戦略2へ 2. 子育てについての相談や交流が気軽にでき、みんなが笑顔で子育てできる環境をつくる
- 戦略2へ 3. 子育て中の世帯(夫婦とも)に情報が伝わる仕組みをつくる
- 戦略2へ 4. 子どもたちが生まれ育ったまちに愛着を持てる学校教育を行う
- 戦略2へ 5. 学校・家庭・地域が連携協力し、教育を行う風土・体制を整える
- 戦略2へ 6. すべての子どもが笑って過ごせる学校を目指し、学校と地域が協力して取り組む体制を作る

3班 住宅都市としての魅力向上

- 戦略3へ 1. 誰もが快適で安全安心に生活できる住環境をつくる
- 戦略3へ 2. 空き家を増やさない取り組みと合わせて空き家を利活用する仕組みを整備する
- 戦略3へ 3. 災害時にお互いが助け合える関係を、日常の地域交流を通じて育む
- 戦略1へ 4. 身近にある自然を生かすなど、工夫を凝らして誰もが楽しく学び遊べる場所をつくる
- 戦略3へ 5. 公共交通機関の利用促進により都心からほど近く便利なまちの魅力をさらに向上させる
- 6. 住みやすいまちとしての魅力を積極的に発信する

- : 全戦略に共通の「情報発信」として取り組む提案
- : 現在、実施している事業を改善して、取り組む提案
- : 市の方向性と異なり、戦略に含まれなかった提案

重点戦略3

安全で安心して暮らせるまちづくり

重点戦略4

愛着のもてるまちづくり

提案を戦略へ



全ての戦略に共通した
情報発信の提案は
全戦略で取り組みます

4班 文化・歴史の活かし方

- 戦略4へ 1. 市民が日常の中で川西の歴史や文化を「知る場」をつくり、かつ楽しく学べる環境をつくる
- 戦略4へ 2. 川西にある歴史・文化資源(多田神社、三ツ矢記念館、加茂遺跡、勝福寺古墳など)をより身近に感じられるよう活用の仕方を工夫する
- 戦略4へ 3. 他の市町村や企業との連携を強化したり、市にある資源やイベントをつなぎ合わせてストーリーを作ることで、さらなる付加価値をつける
- 戦略4へ 4. 川西をこれまで以上に「歴史・文化のまち」にしていくため、情報の伝え方や表示の仕方などを工夫する
- 戦略2へ 5. 市民一人ひとりが川西を自分ごと化することで、自分の住む地域を大切にす文化を形成する

5班 やりがいの持てる地域活動の促進

- 戦略2へ 1. 地域での交流や活動の場としての様々な地域コミュニティの活動目的などを明確にし、誰もが積極的に参加したくなる環境をつくる
- 戦略2へ 2. 高齢者が気軽に地域で活動できるような環境をつくる
- 戦略3へ 3. 災害発生時にお互いを支えあえるような地域交流を行う
- 戦略2へ 4. 地域活動の情報を集約し、誰もが手軽に情報を手に入れることができる仕組みをつくり、地域交流を促進する

全班共通意見

- 戦略4へ 1. 「川西市の象徴」をつくることで市への愛着や誇りをこれまで以上に持てる環境をつくる
- 戦略4へ 2. 川西市のめざす方向性を市民と共有するために、みんなでまちづくりを考える仕組みをつくる
- 戦略4へ 3. 「情報は出している」という行政側の意識と、「知らなかった」という市民意識のギャップを埋めるための仕掛けを考える
- 戦略4へ 4. 様々な情報媒体を活用したシティプロモーションを実施する
- 5** 子どもから高齢者までがさらに住みやすい川西になるよう、子育てと医療に対する満足度を高めるための工夫を行う

かわにし市民会議からの提案

～第1班 産業の活性化～

以下の4つの提案は、私たち第1班の会議参加者が、5回にわたって議論してきたことや、各回で記載した「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

提案

1. 子育て世代からシニア世代まで多様な働き方を可能にする環境を整える

提案

2. 農業の生産量を維持する

提案

3. 交通の利便性を生かして集客施設を誘致する

提案

4. 川西市の交流人口と消費額を増加させる

1. 子育て世代からシニア世代まで多様な働き方を可能にする環境を整える

【提案内容】

川西市内には働ける場所が少なく、多くの市民は大阪等へ働きに出ている状況であり、市内で仕事がしたいという思いがあっても市外にしか求人がない状況である。

そのため、新たな勤め先としての「企業誘致」、または自宅や市内で自分のスキルを活かした事業を興すフリーランスなどの働き方を促進する必要がある。

また、川西市はシニア世代が多く、子育て世代の転入が多いという特徴もあり、シニア世代が子育て世代等のサポートを仕事にできるような仕組みを作りたい。

「提案1」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

個人

テレワーク等、自宅周辺で働く方法を検討する。
クラウドファンディングなどを活用し起業する。
ジョブシェア、スキマビジネスを活用する
空き家をコミュニティオフィスとして安価で提供する

地域

在宅ワークやコワーキングスペース設置への理解を深める。
コワーキングスペースの設置場所の提供を行う。
コミュニティなどで、有料の宅配サービスやお出かけサポートの登録・あっせんを行う

行政

川西型支援ジョブ・ジョブマッチングの立上げ、実証実験を始める。
企業の誘致を行い、優良企業には優遇措置を検討する。
企業への補助制度を創設し、周知を図る。
起業したい人向けに、サポート制度を創設する。
コワーキングスペースを整備する。
駅前の施設でフリーランスの仕事マッチング・紹介を行う。
シニア世代が子育て世帯を有料でサポートする制度を創設する。
子どもの見守り・PTA 活動等を有償ボランティア化する
高齢者の知識を若者に伝える講座を計画する

**民間企業、
NPO等**

行政と共同して川西型支援ジョブ・ジョブマッチングの立上げ、実証実験を行う。
ワーキングスペースの運営、管理
シニア世代の雇用

その他の意見

企業に属さないフリーランスへの補助制度はどうするか。

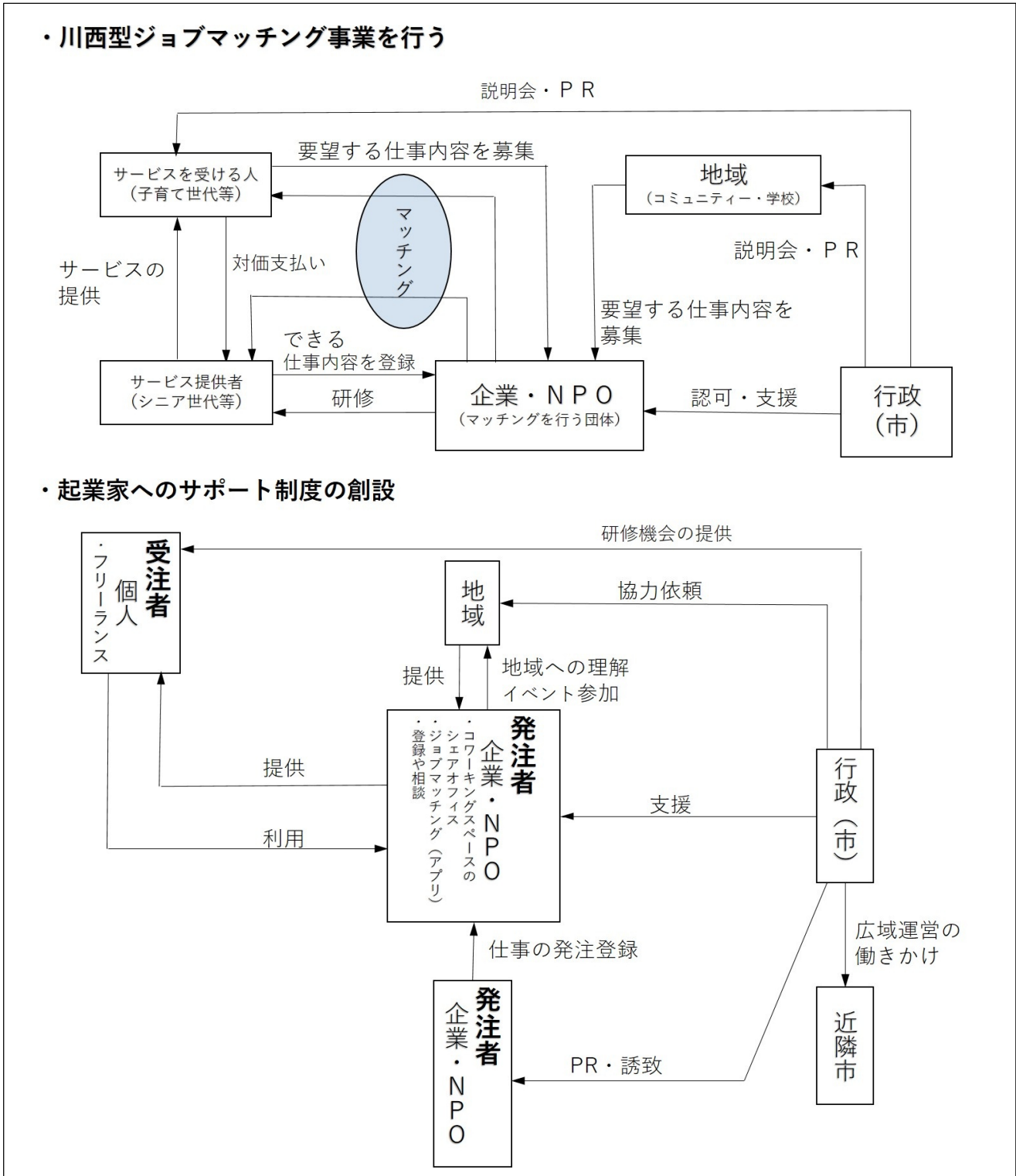
～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|--------------------------------|---|
| 地域 | 子どもの見守り・PTA活動を有償ボランティア化する | 働く意思のある方を募る |
| 行政 | 川西型ジョブマッチング事業の企業との共同開発し実証実験を行う | 地域・教育委員会・学校への働きかけ 「子育ての困ったことを誰かに依頼したい人」と、「空き時間を活用して仕事をしたい人」をつなぐマッチングシステム。 これまでの子育て支援や地域のニーズにこたえていなかった部分を補うことができる。 新たな雇用を生み出すことで地域経済の活性化や就業率の向上が期待できる。 行政と企業が連携し、「メルカリ」「ラクマ」のようなフリマアプリのジョブ版を共同開発、実証実験を行う。 登録のサポートや支援窓口等、立ち上げ時の支援を行政が担当する。 |
| | 企業誘致 | 【業種】 IT産業・配送センター・教育関連施設（大学サテライト等） 【誘致方法】 交通の利便性を紹介 土地の安さを紹介 |
| | 起業家へのサポート制度の創設 | 空き家を活用したオフィスの提供 ビジネスツールの使い方の講習会 |

| | | |
|------|---------------------|--|
| 民間企業 | 川西型ジョブマッチングを開発、運用する | ジョブマッチングシステムの市との共同開発、運用を行う。運用費に関しては手数料や広告料等で安定運用できるような仕組みを考える。 |
|------|---------------------|--|

～具体的な施策提案～

1. 川西型ジョブマッチングについて



2. 農業の生産量を維持する

【提案内容】

川西市民の中でもイチジク、桃、栗、炭などが特産品であるという認識はあるが、実際には食べたことも使ったことも無い人もおり、購買行動につながっていない。企業と協力し、購買意欲が湧く販売方法やイベントを開催し特産品自体の価値や知名度の向上をめざす。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

どのような特産品があるのか把握する。
 特産品をまず食べる、料理に使ってみる。
 SNS や口コミでの情報発信を行う。

地域

試食会を開く。
 地域のイベント等で特産品を使用する。

行政

特産品の観光農園化に取り組む事業者に出す。
 イチジクなどの特産品の関連イベントを行う。
 SNS や電車の中吊り広告など、幅広く情報配信を行う。

民間企業、
NPO等

生産者は特産品を特化して増産する。
 生産者は「川西産ラベル」を貼って売り出す
 生産者は特産品に触れ合える場（収穫体験や料理教室など）を用意する
 イチジクをブランド化する
 販売方法を多様化させる、バラ売りに対応する
 企業の商品と特産物をコラボさせる

その他の意見

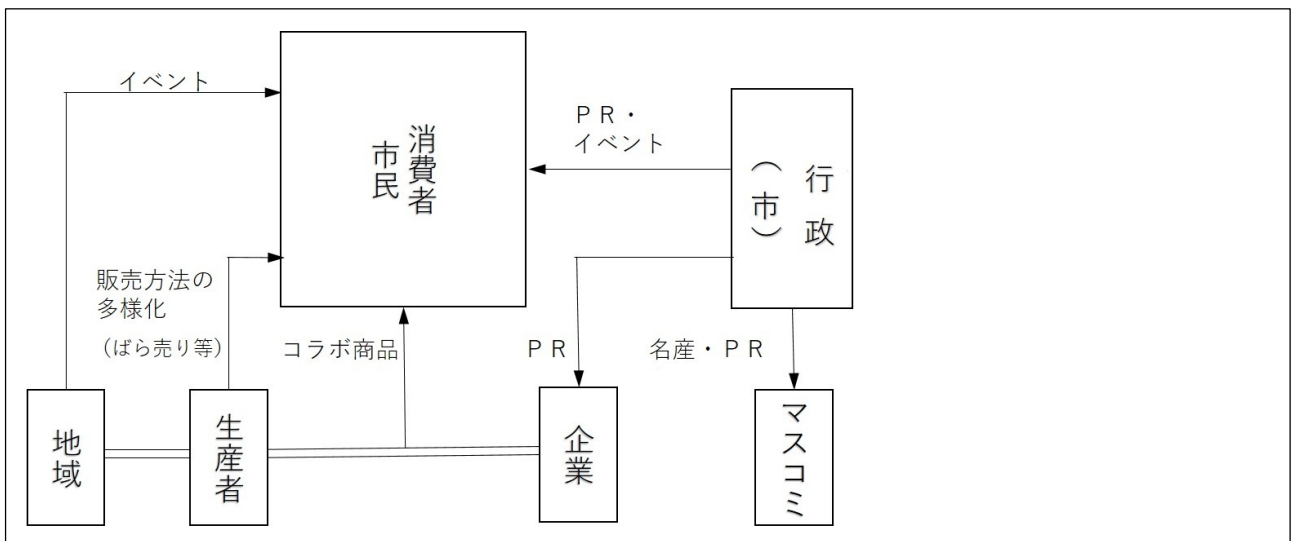
- 川西市の特産品を買う場所が分かりにくい
- 生産緑地の観光農園・貸農園への変更
- 認知度を上げるためあえて、市内でしか売らないのはどうか
- 川西産のものには、「川西市産ラベル」をつけているが認知度が低い。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|-----|------------------|--|
| 行政 | 川西産ラベルを活用 | ・菊炭（池田炭）など川西市で作られているイメージが低いものについて川西産ラベルを活用する。 |
| | 幅広い情報配信 | <ul style="list-style-type: none"> ・「映える広報」を行う ・ホームページに特産品レシピを載せる 例：イチジクを用いた広報 ・市民からレシピを公募 ・レシピを参考に市内の料理家がスイーツを作成 ・コンテストを開催 1つのスイーツを決定 ・川西市の名産として新聞やマスコミに売り込む ・小学校から生徒・保護者に情報配信のため、プリントを配布 |
| 生産者 | 特産品に触れ合える場 | ・収穫体験や料理教室の実施 |
| | 販売方法の多様化 | 現在の1パック6個程度入っているため、買い難いバラ売りに対応。 |
| | 企業の商品と特産物をコラボさせる | <ul style="list-style-type: none"> ・香水、ボディクリーム、シャンプー ・コンビニやスターバックス等の期間限定商品 ・川西のスターバックスでイチジク味を店舗限定販売する |

～具体的な施策提案～

1. 農業の生産量を維持するための取り組み



3. 交通の利便性を生かして集客施設を誘致する

【提案内容】

川西市は、阪急電鉄や能勢電鉄、JRが通っており、新名神高速道路のインターチェンジもあり、伊丹空港も近いが川西市内に目的地となるような場所が少ない。交通の利便性を生かして、レジャーなどの目的地となるような場所を作れば、市内外からの集客による消費や、雇用が見込める。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

誘致に対して協力する

ハロウィンの際、地域単位で装飾するなどのイベントを行う

地域

地域で古民家等を活用し、「カワイイカフェ」を作る

誘致に対して協力する

行政

川西 IC にハイウェイオアシスを誘致する

複合レジャー施設を誘致する

民間企業、 NPO等

農業とグランピング施設を連携する

その他の意見

民間企業のマーケティング担当に、川西市に魅力があるか、ヒアリングをして対策をたててはどうか

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|-----------------------|--|
| 行政 | 川西 IC にハイウェイオアシスを誘致する | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高速道路側と一般道路側の両方からアクセス可能にする（道の駅としての側面も持たす） ・ いちじくや早生桃、銀寄等、川西産のものを販売するアンテナショップを併設 ・ コワーキングスペースも整備し、コワーキングスペースを利用する事業者が顧客等を獲得しやすい環境を作る 事業者が利用できるアンケートスペースや、試食会場、イベント等を提供するスペースを提供 ・ 下記複合レジャー施設と一体的に進めることも検討 |
| | 複合レジャー施設を誘致する | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て世帯とその親も楽しめる施設 ・ 利用者がくつろげる場所 ・ 屋外スポーツ施設、観光農園、人間ドッグなどの健診施設 |

～具体的な施策提案～

1. 複合レジャー施設の誘致



4. 川西市の交流人口と消費額を増加させる

【提案内容】

川西市では源氏祭りや一庫マラソンなど市内外の人に参加できるイベントを行っているにも関わらず、周辺他市に比べて知名度が低く、遊びに訪れる人が少ない。そこで、思わず川西市に立ち寄りたくなるようなイベント等を開催し観光客等の交流人口の増加をめざし、川西市内での消費額の増加を図る。

また、市民会議では市内で買い物をするのが少なく、多くは買い物の為に市外に出るという意見が出た。

市内で消費額を増加させるためにも魅力的な店を発見し、自らが利用することが市内産業の活性化につながる。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

JR 川西池田の駅名変更を要望する。クラウドファンディングに参加する
SNS 等を利用して川西のイベント等を PR する
市内でできるだけ買い物をする。
魅力的なお店を積極的に利用する。

地域

クリスマスやハロウィン等イベントの時に地域単位で装飾する
源氏祭りの際に出店に協力する。

行政

駅名変更のクラウドファンディングの起案者となる。
川西能勢口-川西池田間の通路を利用してイベント等を開催する
源氏祭りや一庫マラソンの際に出店を募集する。
税金の補助や優遇をして、お店が出店しやすくする（5年間程度）
アプリやステッカーを見せることで、市内のスーパーやドライブスルーで割引やポイント還元となる制度を設ける。
住民にアンケートを取り、住民が望むお店を誘致する。
市内の小売店の商品を道の駅などで販売する方法を検討する。
世代別のニーズに合ったイベントを行い、市内商店を活性化させる。

民間企業、
NPO等

川西能勢口-川西池田間の通路を利用して、おしゃれなマルシェや朝市、夜市等を開催する
世代別のニーズに合ったイベントを行い、市内商店を活性化させる

その他の意見

車で買い物に行くことが多いが、駐車場が狭い。

10年後は対面での物の売り買いが減り、ネットの活用が増えるのではないかと

日本酒飲み比べ、カフェでの婚活イベント（行政主体だと安心感）

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|------------|---|--|
| 個人 行政 | JR 川西池田駅の名前を変更する | クラウドファンディングを利用して目標金額を設定し、JR に対して駅名変更を要望する。駅名の候補は寄付された方から候補を出してもらい、住民投票で決定する。 |
| 行政 民間企業 | 川西能勢口 川西池田間の通路を利用して、おしゃれなマルシェやバザー等を開催する | 朝市やバザー等を開催し、名物となるような場所にする。 |

～具体的な施策提案～

1. 川西能勢口 川西池田間の通路を利用した夜市の開催



イメージ
「ズンチャッチャ
夜市 : 大東市」

かわにし市民会議からの提案

第2班 子育て・教育の充実

～笑顔で子育てができ、 川西市で育ったことに誇りを持てる教育の実現～

以下の6つの提案は、私たち第2班の会議参加者が、5回にわたって議論してきたことや、各回で記載した「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

提案

1. 産前から産後を通して、子育て世帯を地域・行政が協力し支える体制の充実にを図る

提案

2. 子育てについての相談や交流が気軽にでき、みんなが笑顔で子育てできる環境をつくる

提案

3. 子育て中の世帯（夫婦とも）に情報が伝わる仕組みをつくる

提案

4. 子どもたちが生まれ育ったまちに愛着を持てる学校教育を行う

提案

5. 学校・家庭・地域が連携協力し、教育を行う風土・体制を整える

提案

6. すべての子どもが笑って過ごせる学校を目指し、学校と地域が協力して取り組む体制をつくる

1. 産前から産後を通して、子育て世帯を地域・行政が協力し支える体制の充実にを図る

【提案内容】

子どもの出産は、夫婦にとって環境が大きく変わるタイミングであり、夫婦ともに肉体的・精神的な負担から、産後うつや児童虐待、夫婦関係の悪化に繋がる恐れがある。「子どもが生まれて幸せなはずなのに…」と感じることがないように、家族・行政・地域それぞれの立場から、産前から産後の継続的なサポートを行う必要がある。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

夫婦間で産前に子育て情報を共有しておく。
 プレイルームなど子どもを連れて出られる場所を調べ、積極的に外出する。
 産前産後などのつらいときは周囲を頼る。
 自分自身の子育て経験を積極的に他の子育て世帯に伝え、相談相手となる。
 近所の子育てをサポートする。

地域

地域全体で子育て世帯をサポートする意識を持つ。
 子育て中の方に声かけをする。
 公民館で給食会を実施するなど、支援の場を設ける。
 子どもを集めて預かれるコミュニティをつくる。

行政

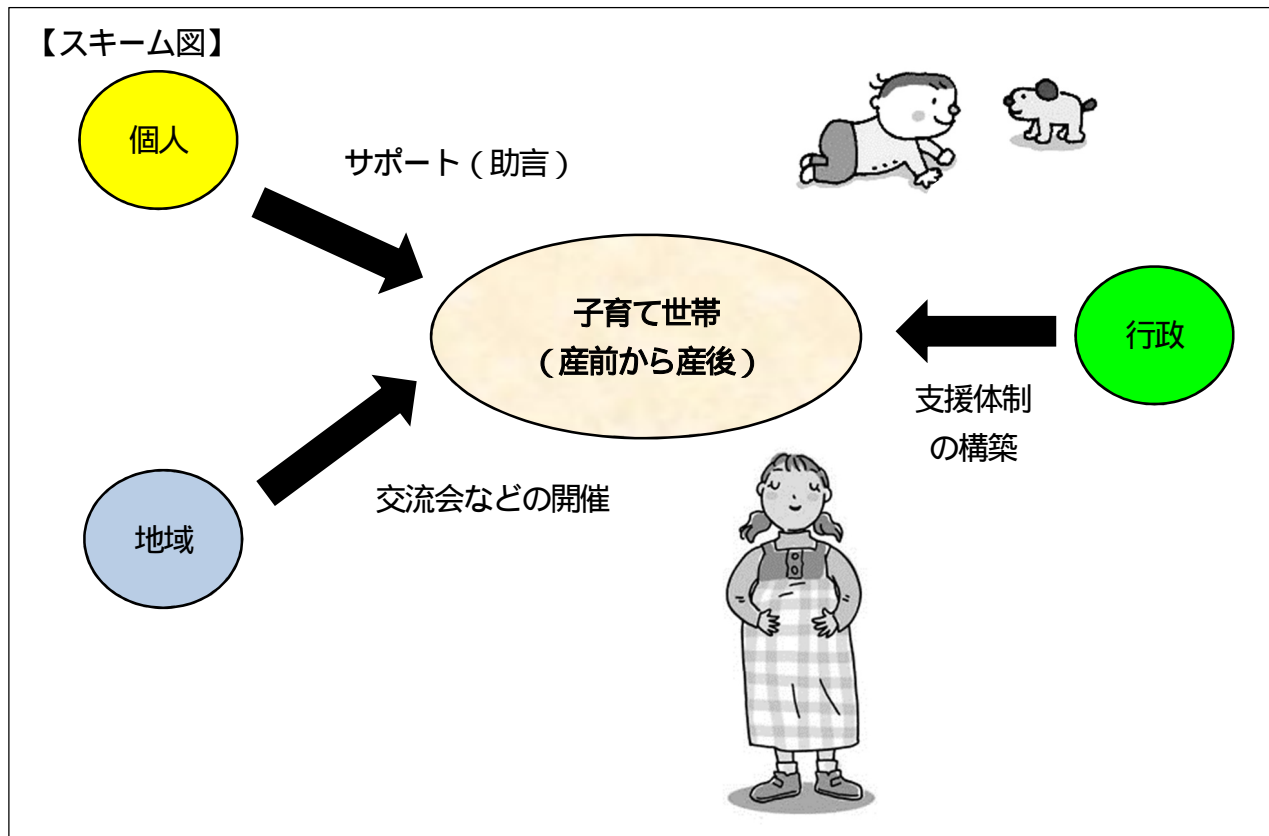
産前・産後の両親学級を設ける。
 母子手帳へ産後の情報（経験者談や医師・保育士のアドバイスなど）を盛り込む。
 出産後の世帯に対し、生活で困った点をサポートしてもらえる「ヘルパークーポン（案）」を配布する（シルバー人材センター等の協力を得る）。

民間企業、NPO等

その他の意見

母子手帳を親子手帳に変更。内容も子ども・母・父の三部構成。また、産後に向けて、父親の部には、将来、父親にやってほしいことを母親が記入。母親の部には将来の母親へのお願いを父親が記入できるなどの特色を。アプリ化も検討。

1. 産前産後のサポート体制の構築



2. 子育てについての相談や交流が気軽にでき、みんなが笑顔で子育てできる環境をつくる

【提案内容】

慣れない育児と日常の家事・仕事に追われ夫婦ともに多忙となるなど、生活環境の急激な変化などによって、心身ともに疲れを感じ、「子どもを連れて買い物や公園、プレイルームに行く」などの自発的な行動を起こしにくくなる。その結果、外出するきっかけづくりが難しくなり、子育ての相談や悩みを打ち明けられず、ストレスを抱え、社会からの孤立を感じてしまうケースがある。

それを予防するために、子どもを遊ばせながら、気兼ねなく子育てについての相談や交流、情報の共有ができる環境を作る必要がある。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

夫婦間で話し合いを行う。

情報を収集する。

集まれる場の情報を発信する。

川西市が配信している子育て情報（子育て支援アプリ、子育て情報誌）を活用する。

子育て世帯支援のため、ファミリーサポートセンターの会員登録をする。

プレイルームなどに参加する勇気をもつ。

地域が取り組む親子料理教室などに参加する。

普段から子育て世帯と日常的に関わりをもつ。

プレイルームに相当する施設について貸出を行う。

親子料理教室や子ども食堂などを開催し、親子ともにゆっくりできる場をつくる。

交流会を計画し、講師やプログラムリーダーを市民から募る。

地域で実施する行事や交流会などの情報を配信し、参加を呼び掛ける。

そういう場を提供できるコミュニティづくりを行う。

地域

子育て経験者の情報を配信する仕組みを構築する。

子育て世帯が交流、相談できる公共施設を紹介する。

土日も子育て世帯が活用できるよう公共施設を開放する。

行政

地域が取り組む親子料理教室等の開催場所を提供する。

公民館にプレイマットを置くなど子連れでも使いやすいように工夫する。

プレイルームに参加しやすい工夫をする。

行政

親子で参加できる交流会の場を提供し、その場で教育情報の配信を行う。
両親が楽しめるプログラムを企画する。
外出しやすい公園づくりを行う。

民間企業、 NPO等

その他の意見

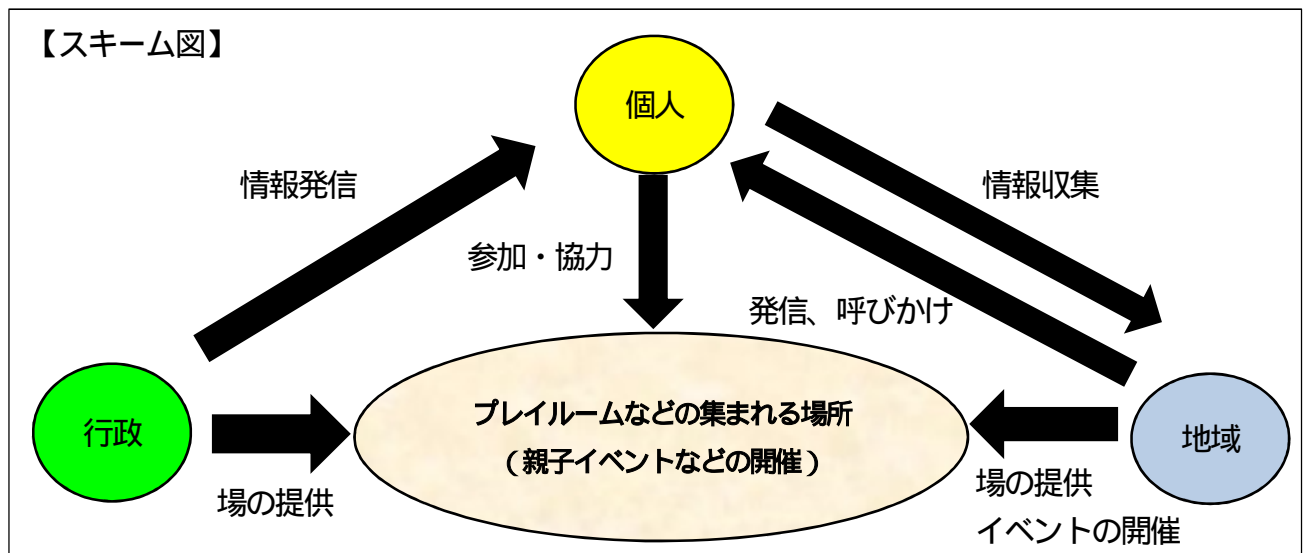
子育て等のイベントの申し込みに手間がかかったり、先着順であったりすると、申し込む意欲が無くなってしまいます。簡単な返答で参加出来たり、強制参加とするイベントを企画してはどうか。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|----------------------|--|
| 行政 | 両親が楽しめるプログラムを企画 | ・子どもと一緒に参加できるヨガ教室 |
| | プレイルームに参加しやすいように工夫する | ・外から中が見えやすいようにする ・父親歓迎と記載する ・孤立している方への声掛け など |
| | 外出しやすい公園づくり | ・水道が自由に使えるようにする ・公園によって遊具を変える |

～具体的な施策提案～

1. 両親・子どもが交流できる場所の構築



3. 子育て中の世帯（夫婦とも）に情報が伝わる仕組みをつくる

【提案内容】

かわにし市民会議に参加して知った情報が多く、教育や子育ての情報を含めて、情報を必要としている人へタイムリーに伝わっていない。子育てなどで常に時間に追われて忙しい世帯には広報誌など紙での情報提供だけでなく、スマートフォンのアプリなどを使った情報発信を行う。

また、教育や子育てに関する情報を母親だけではなく父親とも共有できるような仕組みをつくる。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

市ホームページを見るなど情報収集を行う。

情報公開を要求する。

欲しい情報を市へ提案する。

母子手帳を母親だけではなく父親にも記入してもらい、夫婦で共有する。

地域

地域で実施しているプレイルームなどで意見を集めて市に伝える。

行政

子育てアプリ「マチカゴ」を使いやすいように改良し、周知する。

子育て世帯に対し、欲しい情報についてのアンケートを行う。

保育所等で実施している育児支援プログラムを一覧化し、配信する。

取組中の情報についても、公開を徹底する。

先輩となる保護者等に質問したい項目をアンケートで把握し、回答してほしいターゲットに送付・集計の後、情報提供を行う。

母子手帳を活用しやすいように工夫する。

民間企業、 NPO等

その他の意見

中学校給食が耐震化等を優先したため遅れていることを知らなかった。実施することをしっかりアピールするべき。

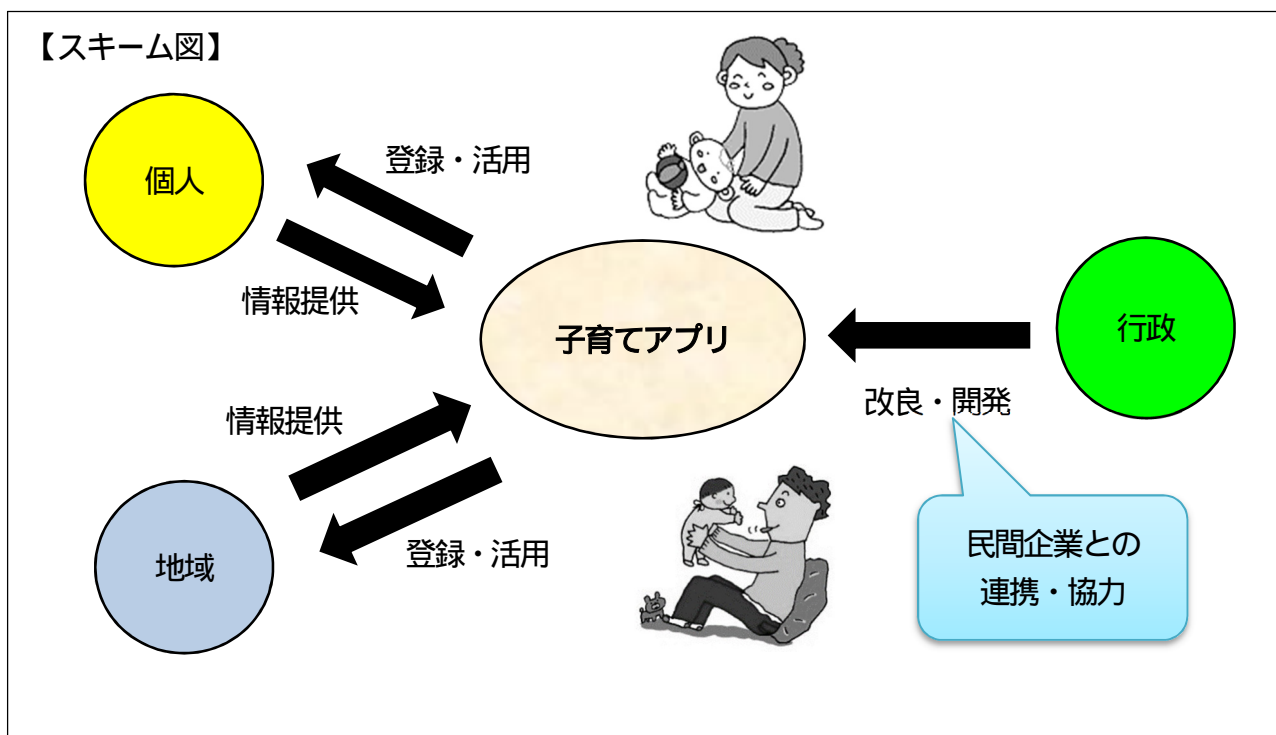
川西市は子育てをはじめイベントを多く実施しているので、そこをもっとアピールしてもいいと思う。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|-------------|--|
| 行政 | 子育てアプリの改良 | <ul style="list-style-type: none"> ・「すくすくガイドマップ」との連携 ・母子手帳をアプリ化し、情報を集約する ・バリアフリートイレやおむつ交換可能場所等が表示できるようにする ・夫婦間で共有できる仕組みを作る |
| | 先輩保護者に対する質問 | <ul style="list-style-type: none"> ・来年子どもが小学校に上がる保護者から小学校に子どもがいる親への質問（先生の感想、習い事など） ・近隣住民間の質問（七五三のお参り、病院の感想など） |
| | 母子手帳の改良 | <ul style="list-style-type: none"> ・「母子手帳」の通称を「親子手帳」に変更する 例：岡山市 ・母子手帳をアプリ化し、夫婦で登録するよう促す ・アプリ化した母子手帳に、地域団体が情報を入力できる仕組みを作る |

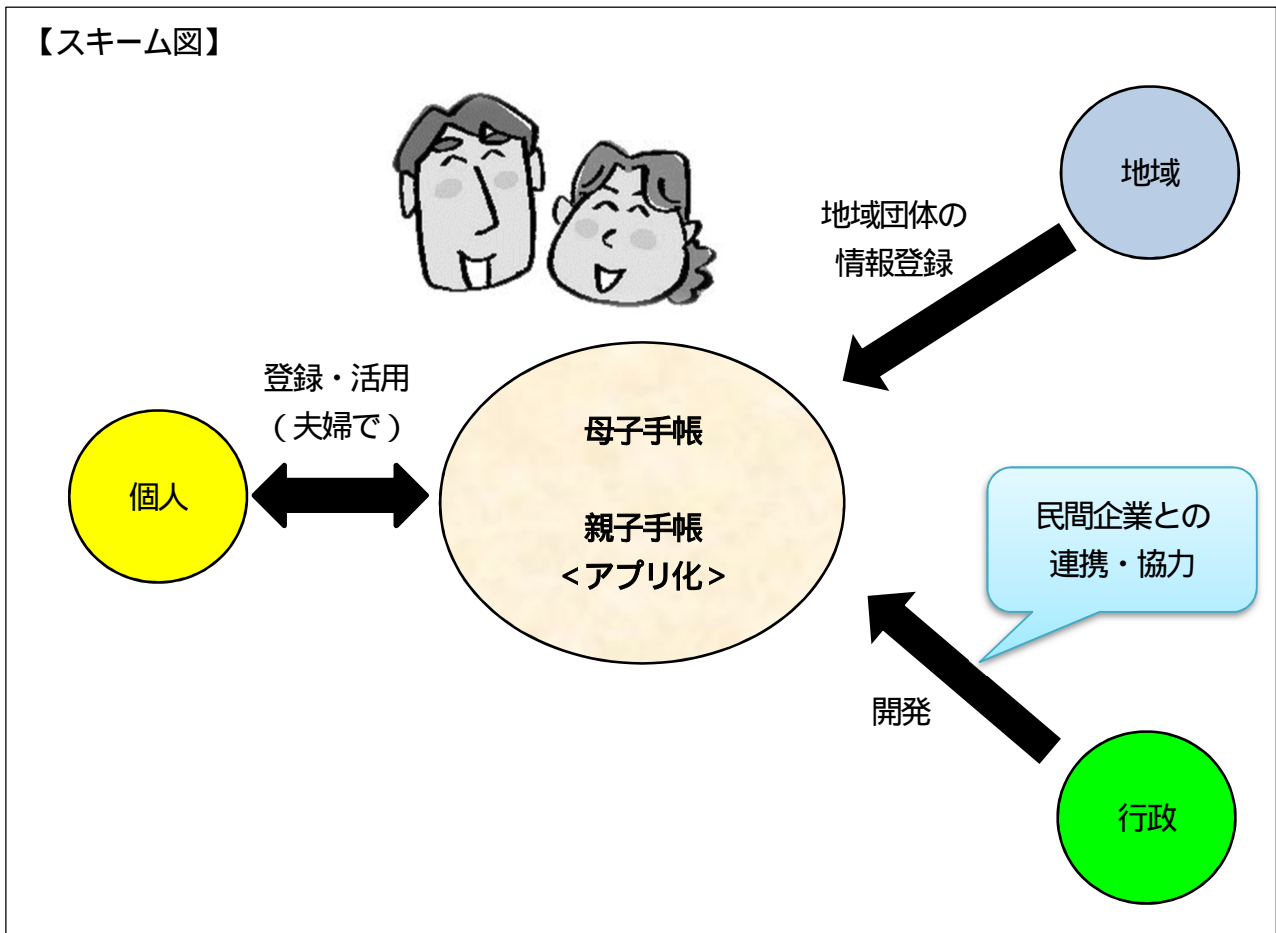
～具体的な施策提案～

1. 子育てアプリの改良



2. 親子手帳のアプリ化

【スキーム図】



4. 子どもたちが生まれ育ったまちに愛着を持てる学校教育を行う

【提案内容】

子どもたち一人ひとりが個性を伸ばし、夢の実現に向けて努力できる環境を整えることが、川西市にとって大切である。

自身が生まれ育ったまちに思い出と愛着を持ち、子どもの頃に体験した学びが「将来の夢」を描くきっかけとなるような“川西市ならではの”教育を行う必要がある。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

川西市に興味を持ち、教育の問題点や特色について考え、地域や行政に提案をする。

市や地域のことを積極的に学び、広める。

部活動や体験学習に参加・協力する。

地域密着型体験学習に参加・協力する。

地元企業等による職業体験に参加・協力する。

地域

「川西市に住む子どもたち」に地域の魅力や伝えたいこと（地域の歴史・特色など）を考えて伝える。

部活動や体験学習に協力する。

地域密着型の体験学習を実施する。

地元企業等による職業体験の場を提供する。

行政

「川西市に住む子どもたち」に市の魅力や伝えたいこと（市の歴史・特色など）を伝えていく。

公立で中高一貫校の設立を検討する。

学習指導要領に加え、川西市ならではの教育を実施し、積極的な広報を行う。

地域密着型の体験学習の実施を支援する。

フレキシブルに対応できる窓口（個人・地域を支える）を設けるとともに、子ども一人でも相談できる窓口を設ける。

民間企業、 NPO等

その他の意見

適応の難しい子どもの内面を理解し、のびのび学校生活を送れるような環境が必要ではないか。
英語教育の特区を作ってはどうか。

学校に行く目的を子どもに考えさせる取組みが必要ではないか。

子どもに「将来やりたいことやビジョン」を持たせられていないのではないか。

地域に根差した教育として、里山体験教育やトライやるウィークを既に実施しているのではないか。

そもそも、特色とは何か？本当に必要なのか。

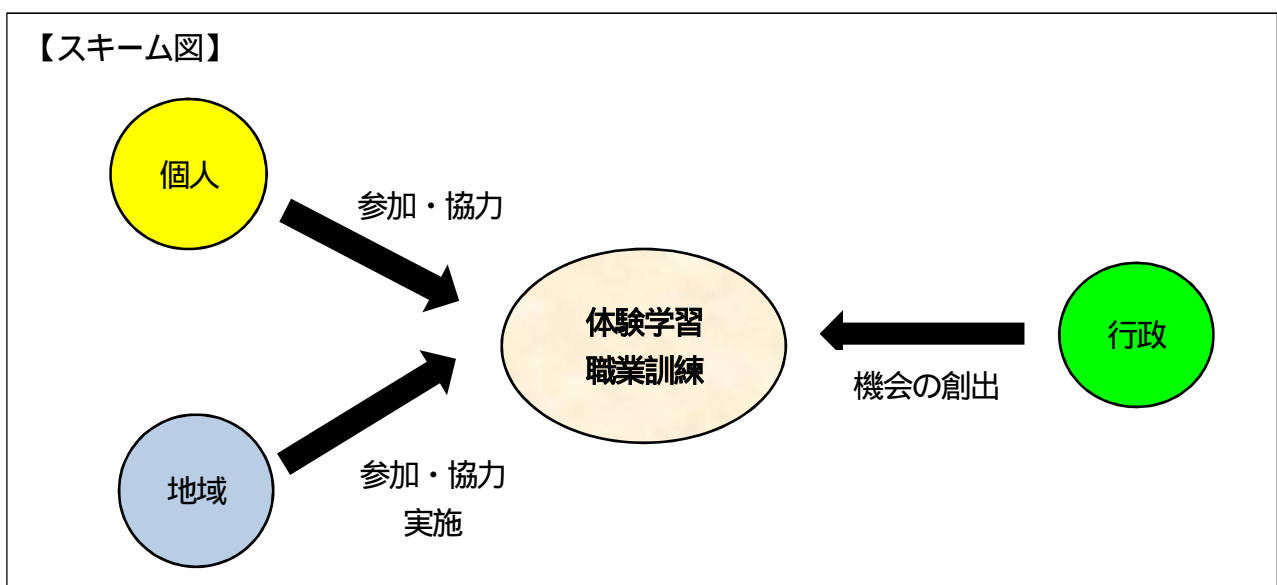
全校・全住民にアンケートをとってはどうか。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|-------------------------|--|
| 行政 | 学習指導要領に加え、川西市ならではの教育を実施 | ・川西市の自然や産業を活かした教育 ・給食で川西市の特産品を使用するなど、川西市ならではの献立を考える ・中高生が幼児と触れ合える場を設ける |
| | 地域密着型の体験学習 | ・地域で職業体験ができる機会の創出を支援する |

～具体的な施策提案～

1. 地域密着型の体験学習や職業訓練の実施



5. 学校・家庭・地域が連携協力し、教育を行う風土・体制を整える

【提案内容】

共働き世帯の増加や核家族化の進展など、子どもを取り巻く環境が大きく変化している。また教員の負担増加についても大きな社会問題となっている。これらのことから学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てる体制を整えることで、さまざまな人との関わり、多種多様な学びに触れることができ、子ども一人ひとりの「生きる力」を伸ばす教育につながる。

また、三者の活動の場として学校を開放し、地域住民の活動拠点を増やすことで、子どものみならず、地域の方たちのつながりや活性化にも効果が期待でき、自分らしい生き方、生きがいを見つけるきっかけとしたい。

「提案5」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

学校以外の家庭や地域など、それぞれの場所で学んでほしいこと、できることを考え、行動する。

地域活動を自分事と捉え、積極的に参加する。

子どもが学校や地域で行っている勉強会に興味や関心を持ち、参加につながるようなきっかけをつくる。

家庭学習を行う。

地域

学校を活動の場と捉え、学校で地域活動を行う。

地域住民が学校内でのサークル活動を行う。

同じ得意分野や考えを持つ住民をコーディネートし、個人の活動を支援する。

イベントだけでなく日常的に学校や子どもたちとの関わりをつくる。

授業の手伝いをする。

見守りの実施や子どもが参加できるイベントを開催する。

地域で学習ボランティアを募集し、放課後などに勉強会を開く。

学習ボランティアのための学習会を開く。

行政

地域に開かれた学校を構築する。

コミュニティ・スクールを設置し、運営に地域の意見が反映される仕組みを構築する。

地域住民と子どもたちをつなぐ機会をつくり、安全面をサポートする。

地域団体が子どもに対して行うイベントについては、学校を自由に使えるようにする。

行政

家庭・地域で行う学習の支援を行う。

放課後に勉強会を行う。

学習ボランティアを募集する。

教員の業務負担を減らすシステムを検討し、教員の教育に使える時間を増やす。

子どもがやりたい事を学べる場所・人のマッチングを行う。

提出書類(発達支援等)を手書きではなくパソコン入力できるようにし、利用者の負担を減らすシステムを導入する。

民間企業、 NPO等

その他の意見

小学校に限らず、保育所・幼稚園～高校まで地域の方が関わることで、先生とうまくいかなかったも、地域との関わりで学校が好きになってくれるのではないか。

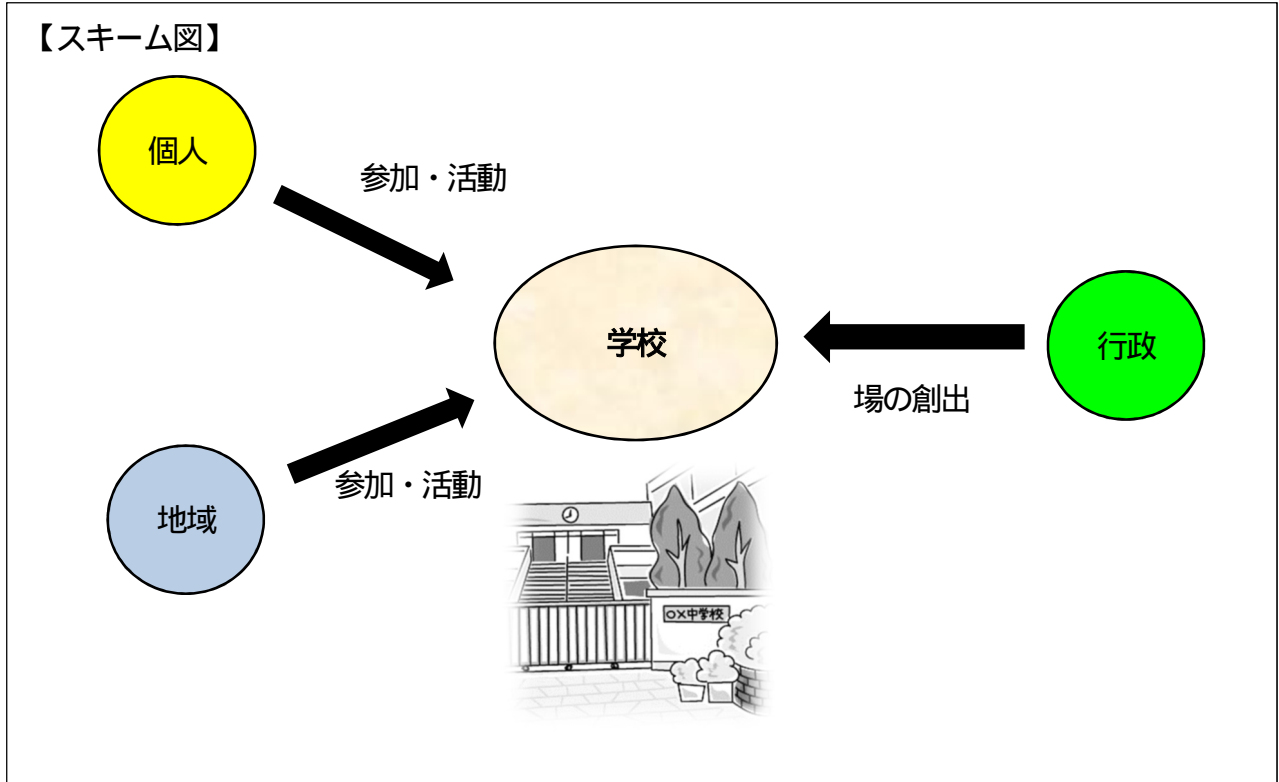
ALT 教育について、授業の最後に担任が日本語で説明するので、必要性が薄いのではないか。

学校での勉強会の場合、距離が離れている子どもは行きにくいので家庭学習が重要ではないか。

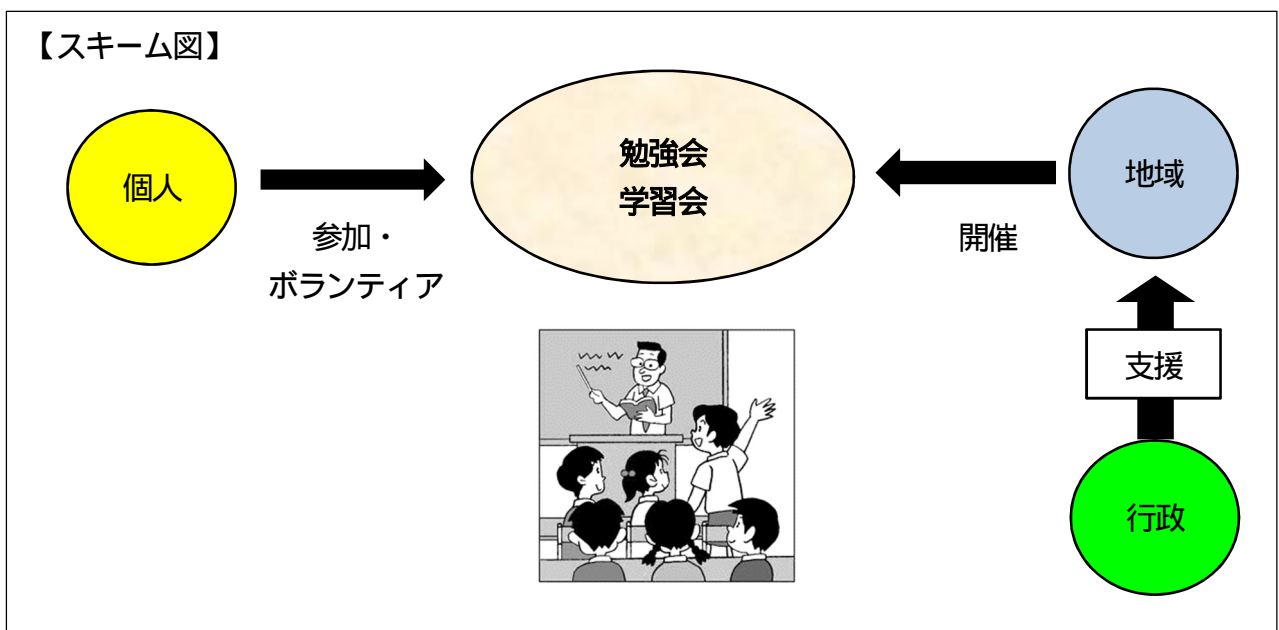
～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|---------------|--|
| 行政 | 家庭・地域で行う学習の支援 | <ul style="list-style-type: none">・保護者や地域ボランティアに学習支援方法を伝える・家庭学習に必要な教材の貸出を行う・地域が行う放課後勉強会の場所を提供する(学校等)・教師を目指す人を学校・地域で行う勉強会にボランティアとして参加できる仕組みを作る(ホームページでの募集など) |

1. 学校を活動の場とした地域活動等の実施



2. 地域における勉強会・学習会の開催



6. すべての子どもが笑って過ごせる学校を目指し、学校と地域が協力して取り組む体制をつくる

【提案内容】

子どものいじめや不登校にはさまざまな原因がある。すべての子どもが笑って過ごせる学校となるよう一人ひとりが「自分たちのまちの学校」の問題と捉え、自分たちにできることを学校と協力して進める必要がある。

「提案6」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

個人

いじめと感じたら見て見ぬふりをせず、学校に相談する。
 子どもを通じて、子どもの友達や友達家族、ご近所の方と関わりを持つ。
 自治会に入り、人との交流を増やす。
 学校だけが学びの場ではないことを認識する。

地域

個人や学校の問題とせず、地域の問題としても捉える。
 自治会や老人会などあらゆる人で子どもの見守り活動を行い、異変を感じたら学校に相談する。
 不登校の子どもやいじめ被害者を受け入れるオープンハウスや居場所をつくる。

行政

不登校児童に対し、積極的に関わっていく。
 各学校のいじめ防止策やいじめが発生した時の対処方針などを積極的に公開する。
 いじめ等の再発防止マニュアルをつくる。
 フリースクールが広まるよう支援を行う。
 電話相談だけでなくメール等でも相談を受け付ける。
 LGBTをはじめとした性教育を充実させる。
 いじめ被害者が気軽に相談できる場（SOSを発信できる場）を複数設ける。

民間企業、
NPO等

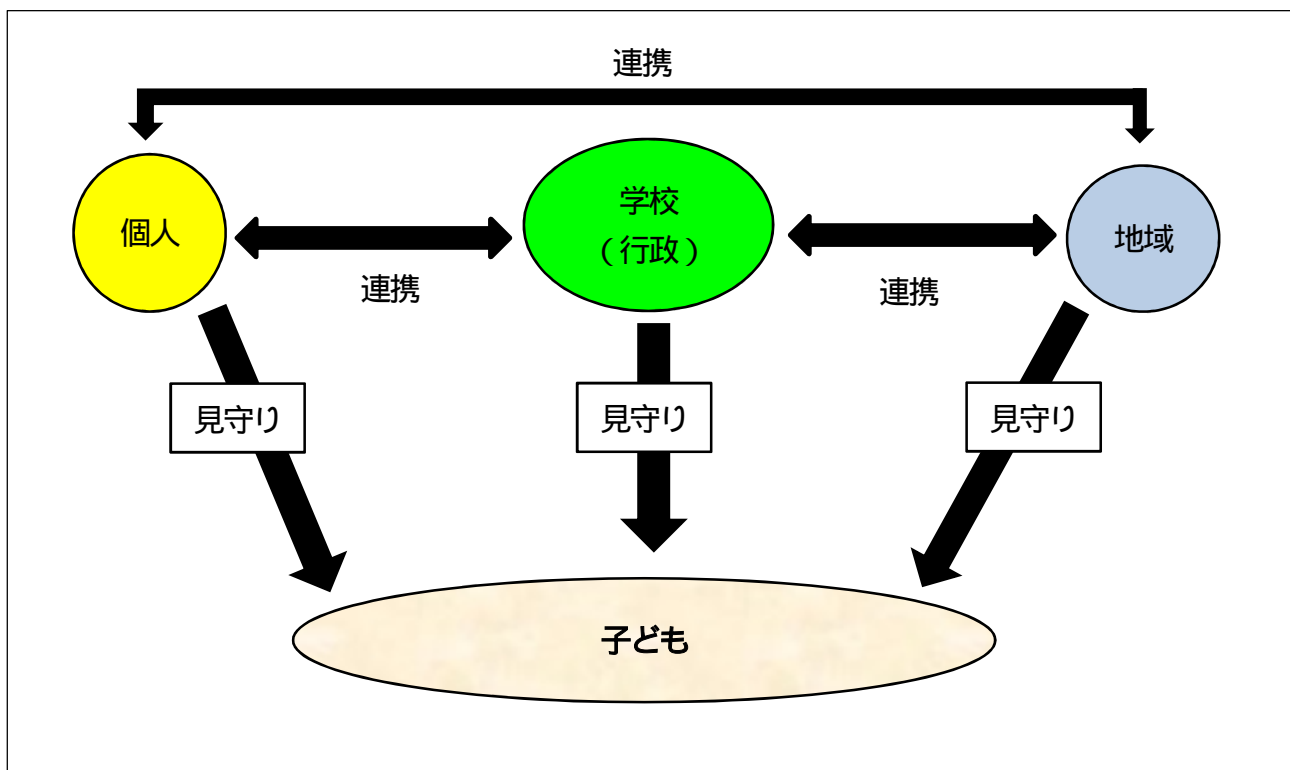
その他の意見

先生と生徒の意思疎通がうまくいかない場合でも、取り残される子どもを出さないようにするのが大事ではないか。

いじめが起きた時の対処が大切であり、適切な対処が次のいじめの防止にもつながる。

病気により登校できない、教室に行けない児童や生徒への対応も検討してほしい。

1. 学校（行政）・地域・個人が協力する子ども見守り体制の構築



かわにし市民会議からの提案

～ 第3班 住宅都市としての魅力向上～

以下の6つの提案は、私たち第3班の会議参加者が、5回にわたって議論してきたことや、各回で記載した「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

提案

1. 誰もが快適で安全安心に生活できる住環境をつくる。

提案

2. 空き家を増やさない取り組みと合わせて空き家を利活用する仕組みを整備する。

提案

3. 災害時にお互いが助け合える関係を、日常の地域交流を通じて育む。

提案

4. 身近にある自然を生かすなど、工夫を凝らして誰もが楽しく学び遊べる場所をつくる。

提案

5. 公共交通機関の利用促進により都心からほど近く便利なまちの魅力をさらに向上させる。

提案

6. 住みやすいまちとしての魅力を積極的に発信する。

1. 誰もが快適で安全安心に生活できる住環境をつくる。

【提案内容】

住宅都市にとって誰もが安全に安心して暮らせる環境は重要な魅力の一つである。防犯対策やマナーの向上啓発に加え、まちの美化を進めることで犯罪や事故の抑止につなげ、安心安全のまちの魅力をさらに高める取り組みを進める必要がある。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

各自で防犯対策を徹底するとともに、地域の活動に協力する。
 街灯がないところに、設置を要望する。
 家の前の雑草をとるなど、目の届く範囲を綺麗にする。
 清掃ボランティア活動に参加する。
 ゴミを捨てている人がいたら注意する。
 ひとりひとりが交通ルール（マナー）を意識する。
 免許返納について、理解を深める。
 「ゾーン30」の取り組みを理解する。

地域

綺麗で安全な地域にするため、地域活動を行う。
 地域で色あせた「ごみの不法投棄禁止」の看板を補修、新設する。
 地域で市内美化保全のためのマナー向上の取り組みを行う。

行政

防犯対策を強化する。
 救命率向上をめざす。
 条例でポイ捨てを禁止するなど、注意喚起を徹底する。
 緑化や清掃活動への協力を広報で募集する。
 企業と連携し、市内美化を進める。
 警察に駅前以外の場所でも交通違反の取り締まりを行うよう要請する。
 交通事故の起こりにくい環境を整える。
 不正駐輪者に罰金がかかる制度を作る。
 交通ルール（マナー）について啓蒙活動をする。

民間企業

運転免許証返納者に対する特典への協賛を行う。
 警察の捜査に協力し、防犯カメラ映像を提供する。
 子どもや認知症高齢者等の見守りに協力する。
 クリーンアップ作戦など市や地域の美化活動に参加する。

その他の意見

高齢者の免許返納を促すには交通手段の補助が必要ではないか。

滝山～鼓滝間(猪名川沿い)に歩道がなく危険である。

自動運転の増加を考え、「ゾーン30モデル都市」として、市全域に広げるのはどうか。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|------------------------------|--|
| 個人 | 各自で防犯対策を徹底するとともに、地域の活動に協力する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・庭を綺麗にする。 ・施錠を徹底する。 ・110番の家などの防犯対策に協力する。 ・防犯ライトを各自で設置する。 |
| | 免許返納について、理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等は運転に不安を感じれば、速やかに免許を返納する。 ・身近な人の運転に以前と比べて違和感を覚えれば、免許返納を勧める。 |
| 地域 | 綺麗で安全な地域にするため、地域活動を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報を共有する。 ・見守り隊を結成し、子どもの登下校や女性の見守り活動を行う。 ・各地域で時間になれば門灯を点灯する習慣をつける。 ・クリーンアップ活動等を活発に行う。 ・地域で週に1度程度公園の掃除をするなど美化活動を行う。 |
| 行政 | 防犯対策を強化する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・街灯がなく、危険なところに街灯を設置する。 ・防犯カメラ増設する。 ・GPS、ビーコン(Beacon)等を活用した見守りサービスを導入し、子どもの居場所を把握する仕組みを創設する。 |
| | 交通事故の起こりにくい環境を整える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自転車道の明示やスピード出しすぎ注意の看板を設置する。 ・カーブミラーやガードレールなどを増設する。 ・踏み間違い防止装置など安全装置の取り付けのための費用を助成する。 ・市内事業者と連携し、免許証返納により優良運転者証を所持している高齢の元運転者に対する特典を拡充する。 ・事故の多発している地点を周知する。 |

| | | |
|--|--------------------|--|
| | 不正駐輪者に罰金がかかる制度を作る。 | 不正駐輪を見回る人が罰金を徴収できるようにする。 |
| | 救命率向上をめざす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・救急車等の現場到着時間を短縮し、市民サービス向上を図る。 ・普通救命講習の内容を高度化した講習を実施し、受講した市民を「(仮)市民救命士」として任命する。 ・中学・高校の授業に救命講習を複数回組み込む。 |

2. 空き家を増やさない取り組みと合わせて空き家を利活用する仕組みを整備する。

【提案内容】

川西市はニュータウンの同時開発や急速な高齢化などにより、今後空き家が増加することが見込まれ、人口減少に加え防犯面でも心配が増える。私たち市民一人一人が、持ち家をしっかり管理するとともに、民間の力も借り、空き家を把握するところから始めて、空き家が発生したら有効活用できるような体制を構築する必要がある。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

空き家に関する知識を持つ。
 持ち家を、責任をもって管理する（登記等をそのままにしておかない）。
 普段から将来のことを考える（自宅が空き家になる可能性を知る）。
 日常の散歩などで空き家を把握する。

地域

地域内で交流を持つ。
 自治会などで空き家状況を把握する。
 シェアハウスなど空き家の利用方法について理解を深める。

行政

空き家情報を調べ、持ち主に連絡を行う。
 条例等で空き家情報の開示ができる制度を創設し、データベース化して公表する。
 空き家を管理する組織を新たに立ち上げる。
 条例等で、空き家から隣接地に延びた植栽等を処分できる制度を創設する。
 住宅の相談をできる場所を公共施設に設ける。
 市の施策を積極的に広報する。
 空き家バンクに取り組む。
 空き家耐用年数保証制度を創設する。
 空き家を借り上げ、利活用を行う。
 ニュータウン運営のための株式会社を立ち上げる。
 ニュータウンに対するコンセプトを定め、対策を講じる。

民間企業、
NPO等

郵便局や宅配業者等の協力で空き家把握する。
 市と連携し、空き家を流通に乗せる。（事業者）

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|-----------------------|--|
| 行政 | 住宅の相談をできる場所を公共施設に設ける。 | 【相談・紹介内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・シェアハウスなどの住み方を推奨する。 ・手続きに関する相談（相続・登記） ・管理に関する助言（遠方地） ・売却、賃貸、除却の相談 |
| | 市の制度を積極的に広報する。 | 【周知内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家購入助成制度 ・空き家活用支援事業補助金 リフォーム補助 ・空き家対策ナビゲーター |
| | 空き家耐用年数保証制度を創設する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・建物診断を実施し、耐用年数を保証する制度を創設する。 リノベーション業者認定制度の創設 |
| | 空き家を借り上げ、利活用を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・移住体験施設として利用する。（里山の古民家、ふるさと団地の戸建て） ・シェアハウスや宿泊施設として利用する。 ・若年層世帯に低料金で貸し出す。 ・民間と連携し、貸店舗として利用する。 ・子ども食堂など地域で交流できる場として利用する。 |

3. 災害時にお互いが助け合える関係を、日常の地域交流を通じて育む。

【提案内容】

大規模災害発生時には、行政からの助け（公助）はすぐには期待できないことから、私たち市民が自ら備え（自助）助け合える関係（共助）を築いておく必要がある。まずは近隣住民が積極的に挨拶するなど、日常の生活の中でお互いが助け合える関係性を構築する必要がある。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

自分でできること、すべきことを把握し、実行する。

消防団に加入する。

近隣住民と挨拶や話をするなど積極的に交流する。

自治会に加入する。

自治会のイベントにまず参加してみる。（掃除など）

地域のことに関心を持ち、地域のことを知ろうとする。

普段から住民が近所同士で顔合わせを行うように働きかける。

地域の住民と共に防災活動を行う。

住民が感じたことをまとめて発信する。

地域住民に自治会の存在や活動内容を明確化し周知する。

地域

自治会員・非自治会員を問わず、住民が参加しやすいミニマムなイベントを企画する。

自治会運営が一部の方に偏らないように注意する。

地域が実施している取組などを説明する場を設ける。

住民のニーズにあわせた取り組みを行う。

行政

日頃から防災に興味を持つような情報発信を行う。

災害の危険性を周知する。

地域で実施する防災活動をサポートする。

災害発生時に住民への情報配信手段を整備し、市民に周知する。

災害への備えの強化を行う。

自治会の役割の明確化を考える場・会を立ち上げる。

地域が自発的に活動することのメリットや取り組みを市民に説明する。

自治会運営を自主性に任せすぎず、運営基盤の改善をサポートする。
 非自治会員の意見を市に取り入れられる仕組みを作る。
 地域活動で地域交流がうまくいっている事例を周知する。
 自治会加入率が低調となっている現状と要因を把握し、行政として改善策を講じる。
 “住民間の対話の場”の創設を行う。

**民間企業、
NPO等**

市やコミュニティと災害時の連携について協定を結ぶ。

その他の意見

- 地域で行う掃除などのイベントを地域住民の交流の場と認識してもらうべきではないか。
- 自治会の問題は個々に違うので、目的・役割を明確に決めず、1コミュニティとして地域住民全員で考えていくべきではないか。
- 自治会と行政の役割を整理し、権限移譲も必要ではないか。(市は費用の援助まで)
- 仕事をしていると自治会活動に参加することが難しいが、個人が自分で考えてできることをやるスタンスがよいのではないか。(防犯カメラ設置など)
- 自治会に入ると全てかかわることになるため、テーマ別の組織化(入会)にできないか。

~ 提案内容の具体的なイメージ ~

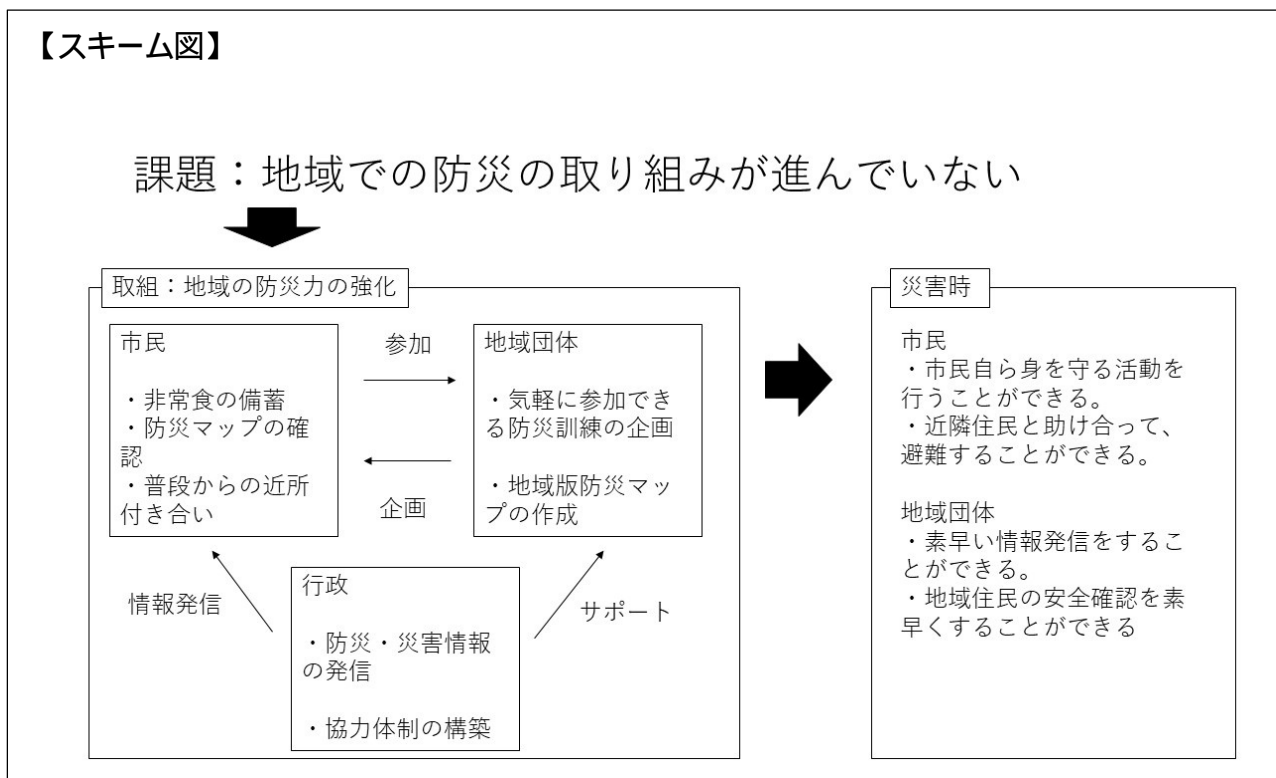
| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|--------------------------|--|
| 個人 | 地域住民に自治会を周知する。 | 【周知内容】 自治会の役割、加入の仕方 |
| | 自分でできること、すべきことを把握し、実行する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・水や食料を備蓄する。 ・防災マップを確認する。 ・実際に街中を歩き、危険場所を確認する。 ・災害情報を受け取れるように普段から備えておく。 ・早い段階で避難する。 |
| 地域 | 地域の住民と共に防災活動を行う | <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を祭りのように楽しめるイベントにする。 ・地域ごとに防災マップを作成する。 ・実際に暗闇でも安全に移動できるか点検を行う。 |
| | 普段から近所の方と付き合いを持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入する。 ・災害時に援護が必要な方がいないか、普段から関心を持つ。 |

| | | |
|----|---------------------|--|
| 行政 | 地域で実施する防災活動をサポートする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織に対して消防職員による訓練指導を行い、自助・共助への理解を深めてもらう。 ・自衛消防組織に県消防学校の「自衛消防隊長研修」の案内し、積極的に受講してもらう。 |
| | 災害の危険性を周知する | <ul style="list-style-type: none"> ・地域版など精度の高い防災マップを作成する。 ・地域の防災マップを基に、家屋(世帯)ごとに避難先・避難ルート・持ち出し品リスト・連絡先等を記載したプレートを作成、配布する。 ・防災マップに避難所の設備情報を盛り込む。 ・学校のカリキュラムに防災教育を組み込み、防災マップ作りを行う。 ・住民の防災マップ作りを支援する。 街歩きをしながらの防災マップ作り 防災マップ作成の専門家を育成 ・災害体験ができる場所や機会を設ける。 災害シミュレーションを youtube にアップ ・消防庁舎を開放し、職員と市民が日常的に交流することにより防災・防火に対する啓発を行う。 ・ドローンにより河川の水位や急傾斜地など危険箇所を撮影して SNS 等で配信する。 |
| | 住民への情報配信手段の整備及び周知 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に支援を必要とする人の情報を事前に地域団体と共有する仕組みをつくる。 ・災害情報をインターネットなどの多様な媒体で配信し、詳細に確認できる仕組みを作る。 避難情報と避難場所情報の同時配信 LINE を用いた利用者の状況に応じた情報配信体制の構築(神戸市) |
| | 災害への備えの強化を行う | <ul style="list-style-type: none"> ・避難所にペットが同伴できるようにする。 ・自治会館に土嚢を配布し、自治会に維持管理をしてもらう。浸水想定地区にはゴムボートを配備する。 ・南海トラフ地震など大規模災害に備え、国等からの補助金を活用し、舎羅林山に大規模な避難所やシェルターを整備する。 |
| | 地域活動のメリットを広報する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市長自らがツイッターなどの SNS を活用して発信する。 ・市長が自らタウンミーティングで地域活動の必要性について対話する。 ・自治会に関する情報誌を作成・配付するなどし、正しい情報を積極的に発信する。 ・住民間の対話の場である市民会議を開催する |

| | | |
|--|---|--|
| | <p>自治会運営を自主性に任せすぎず、運営基盤の改善をサポートする。</p> | <p>・市が民間事業者へ委託し、自治会業務や地域における各種の「困りごと」に対して支援する。</p> |
| | <p>自治会加入率が低調となっている現状と要因を把握し、行政として改善策を講じる。</p> | <p>【現状と要因の把握】 ・自治会長会議を活用する。</p> <p>【改善策の検討】 ・自治会交流会を活用する。</p> <p>【改善策】 各自治会の活動を紹介するパンフレットやチラシを市が作成し、不動産業者に配付してもらう。</p> |

～具体的な施策提案～

1. 災害に時にお互いが助け合える関係を、日常の地域交流を通じて育む



4. 身近にある自然を生かすなど、工夫を凝らして誰もが楽しく学び遊べる場所をつくる。

【提案内容】

川西市内は若い世帯が増加傾向にあり、公園や身近な自然を活用するなどし、子育て世帯が利用しやすい環境を整えることで、さらなる魅力の向上につなげる。

また、川西市はベッドタウンであるため、通勤・通学以外の時間帯は誰もが市内でリラックスして余暇を楽しめるような場所についても市の魅力の一つとして必要である。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

自宅から通える公園を把握する。

市内で家族が楽しめる施設を確認する。

公園などを利用してイベントを開催する。

地域

スポーツができる場所を示したマップを作る。

オシャレなカフェ地帯を作り、小さな観光名所にする。

行政

特徴のある公園を整備する。

人気のある外食店舗、映画館等の遊べる施設を誘致する。

子育て世帯が情報を得やすい情報配信媒体を用意する。

行政が地域住民から情報を得られる仕組みを作る。

農業体験ができる場所を作る。

川を定期的に掃除する。

漁業組合復活に協力する。

自然のある住宅地を活かした施策を展開する。

ドッグランを作る。


レジャー施設(キャンプ・グランピング等)を拡大する。

自然を保全し緑の木々を市域全体に増やす。

その他の意見

新しくできたキセラ公園が日陰もなく、遊具も少ない。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|-------------------------------|--|
| 行政 | <p>空きスペースを人が集える場所として開放する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・閉園した幼稚園などを地域へ開放する。 ・空き地を公園として活用できるようにする。 |
| | <p>特徴のある公園を整備する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域に数カ所目玉となる遊具と設置するなど、さまざまな遊具を設置する。 ・利用者の少ない公園を廃止し、人気の公園の遊具を充実させる。 ・地域で核となる公園（小学校区や中学校区などで1つ選定）で、プレーパークをできるような環境を整える。 ・ふれあいベンチ事業を活用し、保護者が子どもを見守ることができよう、ベンチの設置を行う。 ・スケートボードなど特定のスポーツができる公園やバーベキューができる公園を整備する。 ・公園の美化を行う。 ・ラケットやボールなど備品の貸し出しを行う。 <p>（特徴ある遊具：ドラゴンランド）</p>  |

5. 公共交通機関の利用促進により都心からほど近く便利なまちの魅力をさらに向上させる。

【提案内容】

川西市は大阪、神戸などの都心に近く比較的交通の便がよいまちである。一方で川西市内のバスの便が減少するなど、市内交通に関して課題ものこる。

公共交通機関の利用者が減少している理由を分析し、公共機関の増加につながる提案や、他機関交通間の連携の手法を検討する必要がある。

「提案5」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

個人 お得に公共交通が利用できる制度がないか調べ、極力公共交通を利用する。

地域 住民の要望をまとめて、提案する。

行政 公共交通機関の利用者が減少している理由を分析する。

市民向け公共交通施策を検討する。

公共交通機関の利用者増に繋がる提案を行う。

ライドシェアの活用を検討する。

民間企業、NPO等 乗降客数確保の取り組みを推進する。(事業者)

沿線でイベント等を企画・実施する。(NPO その他各種団体)

その他の意見

イメージアップのため能勢電車に愛称をつけてはどうか。

阪急バスや能勢電鉄の料金が高いように感じる。

公共交通機関の利用が減ったことで車の渋滞や駐車場不足が起こっているのではないか。

住宅街から駅やスーパーに行くには車以外の移動手段がない地区がある。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|-----------------------|---|
| 行政 | 市民向け公共交通施策を検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・予約制で、自宅から駅前までの送迎できる環境の整備 |
| | 公共交通機関の利用者増に繋がる提案を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 【情報配信・イベントの充実】 ・バスの路線図をわかりやすくする。 ・季節ごとのイベント開催を提案 【料金設定の変更】 ・他機関交通間（阪急バス、能勢電鉄、阪急電車）のセット料金化 ・能勢電鉄の時差回数券値下げ ・料金の定額化 【設備の改良】 ・ラッシュアワー時以外の時間帯はバスを小型化 ・安全のため乗降口が3カ所あるバスを導入 ・転落防止柵の設置などの駅舎の設備改良 ・バスの増便 【鉄道とバスの連携】 ・バスと鉄道のすみ分け ラッシュ時は北部の住宅街からの移動はバスに限定し、平野など川西能勢口手前の駅までバスを運行、それ以降は能勢電で移動するルートとする。 |

6. 住みやすいまちとしての魅力を積極的に発信する。

【提案内容】

川西市は立地面や住環境や教育環境からみて、比較的住みやすいまちである。選ばれるまちであるためには住みやすいまちである点を積極的に発信するとともに、今後も住みやすいまちであり続けるための施策を行う必要がある。

「提案6」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

SNSなどで穴場スポットを発信する。
SNS等でオシャレなお店を発信する。
市の広報を確認する。

地域

市に対し提案できるものは積極的に提案する。

行政

川西独自で実施している施策をアピールする。
市が掲げる目標に対して出来たことと出来なかったことを広報する。
誰もが情報を得やすい「わかりやすいまち」をめざす。
自然のある住宅地を積極的にPRする。

民間企業

市や地域の作成するPRチラシ等を店舗に配置・配布する。

その他の意見

川西市に住みたいと思っているが、家を買うにはハードルが高いという声を聴く。
子育てに優しいまちをめざし、大人まで医療費を無償化してはどうか。
住みやすいまちをめざし、家を買う初期費用を減らす助成制度を設けてはどうか。
住みやすいまちにはお年寄りが居住し住みたくなる町という視点も必要ではないか。
新たな転居先として選ばれていない理由を調査する必要があるのではないか。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|---------------------------|---|
| 行政 | 誰もが情報を得やすい「わかりやすいまち」をめざす。 | <ul style="list-style-type: none">・ 地域の掲示板に分野ごとの情報収集ができるようなサイトにリンクしている2次元バーコードを記載する。・ 情報により、使用する媒体を変える。 (共有すべきもの : 紙 共有がのぞましいもの : SNS 等) |

かわにし市民会議からの提案

～ 第4班 文化・歴史の活かし方～

以下の5つの提案は、私たち第4班の会議参加者が、5回にわたって議論してきたことや、各回で記載した「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

今回の市民会議を通して、私たちは「清和源氏発祥の地」をはじめとして、実はとても価値のあるところに住んでいることがわかった。きれいに宅地開発されていても、重要な歴史の上に私たちがいることを認識し、そのことへの誇りや愛着をこれまで以上に持っていきたい。そして、市民誰もが川西の歴史や文化を自慢できるようなまちをつくりたい。

提案

1. 市民が日常の中で川西の歴史や文化を「知る場」をつくり、かつ楽しく学べる環境をつくる

提案

2. 川西にある歴史・文化資源（多田神社、三ツ矢記念館、加茂遺跡、勝福寺古墳など）をより身近に感じられるよう活用の仕方を工夫する

提案

3. 他の市町村や企業との連携を強化したり、市にある資源やイベントをつなぎ合わせてストーリーを作ることで、さらなる付加価値を付ける

提案

4. 川西をこれまで以上に「歴史・文化のまち」にしていくため、情報の伝え方や表示の仕方などを工夫する

提案

5. 市民一人ひとりが川西を自分ごと化することで、自分の住む地域を大切に
する文化を形成する

1. 市民が日常の中で川西の歴史や文化を「知る場」をつくり、かつ楽しく学べる環境をつくる

【提案内容】

川西市に長年住んでいる市民であっても、川西市の歴史・文化について知らないことが多くあることがわかった。一方で、歴史や文化については、きっかけがなければ関心を持たない人が多いので、いかにして日常の中で楽しく学べるような工夫をできるか、特に若い世代に関心を持ってもらうことが重要となる。漫画、アニメ、かるたなど、色々な手法を使いながら川西の歴史・文化を楽しく知る環境を作る。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

資料館に足を運ぶなど文化財についての知識をたくさんつける。

清和源氏や多田神社など市民が川西の魅力を再発見することを目的に、市民会議4班のメンバー有志で「まちの宝物サポート隊」を結成する。

市のホームページや図書館で川西市の文化や歴史を調べたり、サークル活動や勉強会に参加することで、自分自身の住んでいるまちを知る。

市内の史跡や文化財を訪れて、体験する。

自分自身が知った・体験したことを知人、友人、家族と情報交換する。

行政が行う文化財の見学会や能勢電鉄(株)主催のハイキングなどに声をかけて参加する。

地域として文化財ツアーや子どもが参加しやすい体験型イベントを行う。

地域

「まちの宝物サポート隊」の隊員募集やサポートを行う。

自治会で歴史クラブを作るなど、歴史を学ぶ場を作る。

ウェブやメールを用いて地域主催のイベントを定期的に発信し、実施結果も感想を添えて配信する。

行政

住友銀行が発刊していた漫画「川西の歴史」を学校の授業や文化財イベントなどで活用する(現在、図書館には蔵書されている)。

「きんたくんの力水」など、市民の手に届くものに源氏と川西市の関わりを記載したラベルを貼るなどして、魅力を伝える。

文化財資料館若しくは歴史民俗資料館を駅周辺に移転したり、ミュージアム化するなどの検討をする。

歴史を感じ取れるようなキャッチコピーやマスコットキャラクターをつくる。

市名を川西市の歴史や文化を感じられるものに変更する。

歴史や文化財にちなんだ自慢できるスポットを市民から募集する。

ボランティアガイドの会と協働して「川西の歴史」の授業を充実させる。(文化財の見学の頻度を増やすなど)

「まちの宝物サポート隊」を紹介するなどサポートを行う。

市のホームページを改良し、川西の歴史や文化をわかりやすく紹介する。

若い人が興味を持っているものを使って歴史文化を伝える。

能勢電鉄(株)とタイアップし、源氏発祥の地をアピールする。

青山大学に「川西市の歴史」の常設展を依頼する。

行政・企業・住民で協力してDMO(観光地経営組織)などの組織をつくる。

川西の歴史や文化に関して市が保有する資料を円滑に提供できる体制をつくる。

小中学校の夏休みの課題に「川西の歴史」を題材として選択できるようにする。

川西の歴史・文化に詳しい人を呼び、一般市民との交流の場を提供する。

社会見学や遠足などで市内の史跡や文化財を活用する。

駅名を歴史や文化を感じられるものに変更することを検討する。

能勢電鉄各駅のわかりやすい位置にQRコードを張り出し、訪れた人が文化財や歴史に触れられるようにする。

民間企業、 NPO等

その他の意見

歴史マニアをたくさん作る必要はなく、市民が周りから「川西はどんなところ？」と聞かれたときに何となく歴史の話ができる雰囲気を目指す。

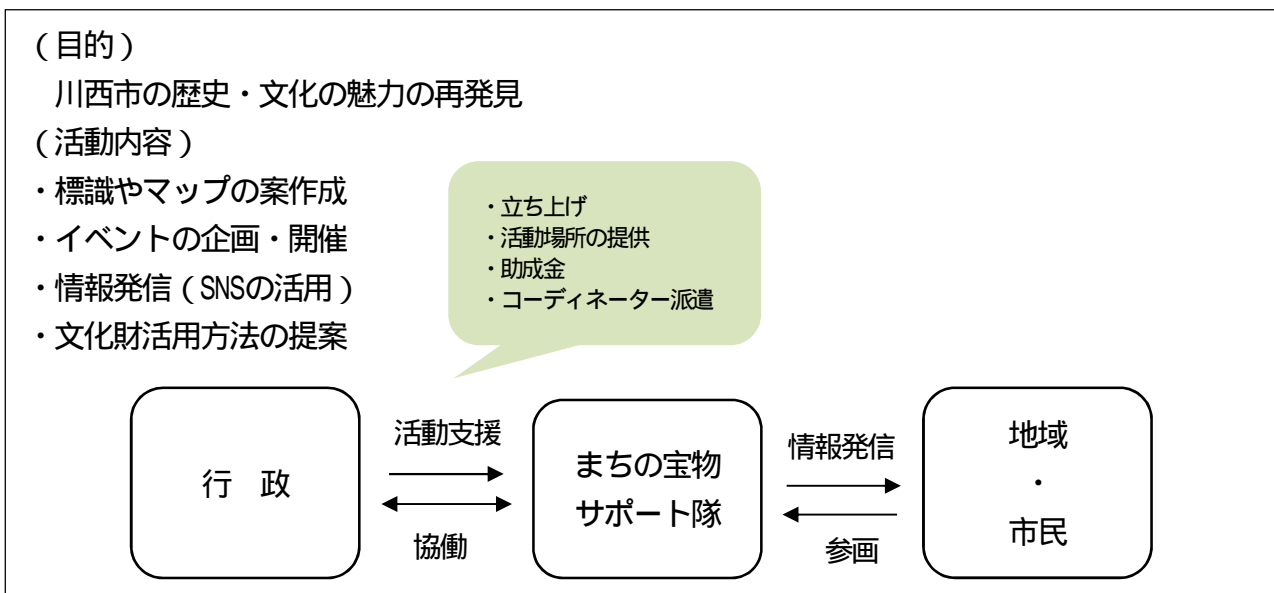
能勢電の各駅の看板に駅名の由来が書いてあるが、気づかれていない。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|-----------------------------|--|
| 個人 | 「まちの宝物サポート隊」 | まずは4班有志メンバーで結成し、歴史や文化における市の魅力を改めて探り、それらを可視化する |
| 地域 | 子どもが参加しやすい体験型イベント | 子ども向けハイキング |
| 行政 | 歴史を感じ取れるようなキャッチコピー | 「源氏の町 川西」 「清和源氏発祥の地 川西市」 |
| | 市名の変更 | 「川西源氏市」、「清和市」、 「清和川西市」 |
| | 歴史民俗資料館のミュージアム化 | バーチャルリアリティなど、動画で体験できるコーナーの設置 |
| | 若い人が興味を持っているものを使った歴史文化の学習 | ・遊びを通して学べるものを作成 「清和源氏に見立てたカルタ・将棋」 アニメやゲームの作成 |
| | 能勢電鉄(株)とタイアップした、源氏発祥の地のアピール | ・漫画「川西の歴史」のアニメーションを作成し、聖地巡りを企画する |

～具体的な施策提案～

1 「まちの宝物サポート隊」の結成とその活動



2 小中学校で「川西の歴史」の授業を充実させる。さらに学校生活の中の授業以外でも川西の歴史や文化に楽しんで触れる機会を作る。

(目的)

子どもが成長していく過程に、日常的に楽しく川西の歴史や文化にふれる機会を作り、文化を大切にする心と地域に対する愛着形成を育む。

(対象者)

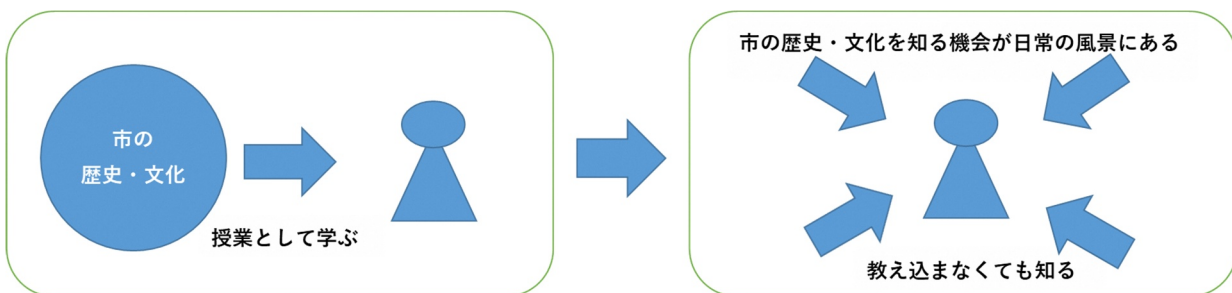
0歳～15歳(中学校卒業まで)

(場所)

市内の、保育所、幼稚園、こども園、小学校、中学校

(内容)

- ・川西の歴史漫画を教室に1冊ずつ設置する。(ターゲットの学年を決める)
- ・川西カルタ(歴史・文化・地名などの内容)大会を学校行事として行う。
(民間企業へカルタの作成を依頼・提案する)
(カルタの原稿は、小、中学生対象に作品コンテストを開催して作成)
(作成したカルタを各教室に設置する)
(作品コンテストの原稿や絵柄は歴史民俗資料館や文化会館などで掲示(かるたが長く浸透していけば歴代の専用の掲示スペースなども))
- ・社会の授業(地域編)で川西歴史クイズやプロモーション映像の放映などを教材として取り入れ、楽しく学ぶ仕組みを作る。
- ・学校行事(遠足・郊外学習)の行先に、川西市の史跡、文化財を選択する。
- ・地域学習の授業を地域の人がサポートできる仕組みを作る。
- ・川西ふるさと自慢絵画コンクール等を開催し図工や美術の題材に取り入れられるようにする。また、優秀作品には市長賞など授与し、展示を行い広報媒体として活用する。



~カルタの例~

さい
サイダーの祖
平野炭酸
三ツ矢

せ
清和源氏
武士の起源

ゆ
そろい踏み
源氏まつり
有名武将

2. 川西にある歴史・文化資源（多田神社、三ツ矢記念館、加茂遺跡、勝福寺古墳など）をより身近に感じられるよう活用の仕方を工夫する

【提案内容】

川西市には歴史的、文化的価値のある資源が数多くあるが、それらが市民にとって身近な存在とは言えない。多田神社、三ツ矢記念館、加茂遺跡、勝福寺古墳などをどのように活用すれば多くの人がそれらを身近に、また魅力に感じてくれるのか、企業とも協力しながら実行していく。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

多田神社の由来などを知る、広める。
三ツ矢サイダー発祥の地だということをもっと周りに広める。
勝福寺古墳の全体像が見られるように整備するために寄付金を募る。

地域

多田神社でコミュニティイベントの成功祈願を行う。
アサヒ飲料(株)の了承を得て、三ツ矢記念館周辺の草刈りをする。



行政

アサヒ飲料(株)に対し歴史文化を感じる商品等を提案・協議する。
カップヌードル記念館があり、先進的に取り組んでいる池田市と意見交換する。
加茂遺跡の状態が見える形にして見学できるようにしたり、勝福寺古墳の全体像が見られるように整備したりする。(その際寄付金を募る)
文化財資料館で勾玉を販売する。
クラウドファンディングを活用した市民プロジェクト立ち上げを支援する。
文化財周辺整備費の補助制度をつくる。(文化財を所有する企業等)
市のイベントを行う際に、市の歴史や文化を紹介するブースと記念撮影ポイントを設置する。
まだ多くの人には知られていない川西の文化財や歴史的人物などを掘り起こす。

民間企業、NPO等

能勢電鉄各駅のわかりやすい位置にQRコードを張り出し、訪れた人が文化財や歴史に触れられるようにする。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|-------------------------------|---|
| 行政 | アサヒ飲料(株)に対して歴史文化を感じる商品等を提案・協議 | <ul style="list-style-type: none"> ・以前あった「三ツ矢印平野シャンペンサイダー」のような、川西の水を使った川西独自のサイダーを製造する。 ・炭酸水を飲料用だけでなく洗顔など美容系商品として発売 ・源氏版特別ラベルの作成や源氏の話に記載したリーフレット同封のギフトセットの販売 「九つの泡」など、紹介したくなる話を掲載 ・三ツ矢記念館周辺に市の花を植える  <p>イメージ アンデルセン公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三ツ矢サイダーミュージアム建設。施設内にはペットボトル又はリターナル瓶充填施設などを設置し、地域内経済の循環につなげる。 |
| | 加茂遺跡を、遺跡の状態がみえる形にして見学できるようにする |  <p>イメージ 尼崎市田能遺跡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住居跡を復元する。(4棟) |
| | 寄付金を募って勝福寺古墳の全体像が見られるように整備する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・円墳を復元する(2つ) |

3. 他の市町村や企業との連携を強化したり、市にある資源やイベントをつなぎ合わせてストーリーを作ることで、さらなる付加価値を付ける

【提案内容】

川西市単独で個々の歴史・文化資源の活用を考えるだけでなく、例えば清和源氏のつながりのある市町村間の連携や、能勢電鉄など企業や大学との連携など、複層的に考えていく必要がある。また、源氏まつりをはじめとした市内のイベントや歴史・文化資源を、単独で考えるのではなくつなぎ合わせてストーリー性を持たせることで、より魅力を高めることができる。文化庁が認定する「日本遺産()」の登録を目指すことも検討する。

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。

「提案3」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

個人

まず足を運んでみる。
 イベントにできる限り参加する。
 友人との会話に文化財を話題にしてみる。文化財のPRをする。
 祭りに積極的に参加する。(子どもを祭りに参加させる)

地域

地域で独自に文化財を繋ぐウォーキングマップを作る。
 各地域(自治会など)から源氏まつりの懐古行列の応募を積極的に呼びかける。
 インターネットなどで「分かり易く」歴史と併せて文化財を紹介する。
 文化財を繋ぐウォーキングマップの作成や文化財を巡るバスの運行を検討する。
 清和源氏のつながりのある市町村間で連携し、歴史をたどれる案内書を発行する。
 行政が直接何かをするよりも、企業と市民やNPOをつなぐコーディネーターの役割を担う。
 能勢電鉄(株)とタイアップし、歴史文化を巡る環境を整える。

行政

ロケ地となりそうな場所をメディア作成会社に売り込む。
 川西の特産品を使ったお菓子(既存のものや新たに作るもの)に川西の歴史を紹介するパッケージを使ってもらい売る場所を増やすことを提案する。
 市の様々なイベントとコラボして、歴史文化の展示・魅力発信を行う。
 歴史文化の案内についての看板を設置し、市民会議で、『川西の歴史文化のすごさを皆に知ってほしいという意見から設置に至った。』というストーリーをつけて紹介する。

源氏まつりに幅広く参加できるように、出演者の人数割り当ての地域配分を工夫したり、学校を巻き込んだりする。

源氏まつりの企画の際に、他市から源氏に思い入れがある人を募集する

源氏まつりのイベントを駅前で行うなど、中部以外の市民も参加しやすい仕組みを作る

懐古行列で巴御前の相方である義仲も加え、募集の枠を増やす。

「日本遺産」に登録の申請をする。

民間企業、 NPO等

能勢電鉄(株)は川西市とタイアップし、歴史文化を巡る環境を検討する。

その他の意見

観光客を呼ぶよりも、市民が週末にどのように楽しめるかが重要。

観光客が増えると、宿泊施設の誘致も必要になるのではないか。

ゴルフ場を宿泊施設やホテルとして活用できないか。

外から「川西ってすごい！」と言ってもらうことで市民が気付くことを目指す。川西を知らないことが恥ずかしいという意識を市民に感じてもらう。

～ 提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|-----------------------------------|--|
| 行政 | ロケ地となりそうな場所をメディア作成会社に売り込む | <ul style="list-style-type: none">・すでにロケ地となっている郷土館をさらにPRする。・TVの映像に使えるような良い場所やネタの情報をTV局に情報提供して営業を行い、新たなロケ地を発掘する。 |
| | 駅前でイベントを行うなど、中部以外の市民も参加しやすい仕組みを作る | 単なる行列ではなく、「源氏コンテスト」のようなイベントを行う |

| | | |
|------------------------------------|--|--|
| | <p>文化財を繋ぐウォーキングマップの作成や文化財を巡るバスの運行を検討する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイド「歩っとかわにし」記載のハイキングコースを歩くイベントを実施する。 ・コースの中に、文化財に加え、巡っている間に休憩できそうな飲食店やカフェなども組み合わせる。若しくは、近隣店舗を広告として掲載する。 ・参加賞として川西の特産品のプレゼントを検討する。 |
| | <p>「日本遺産」に登録の申請をする</p> | <p>川西は「源氏発祥の地」という凄さ地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーとして文化庁が認定する「日本遺産」に登録の申請をする。</p> |
| <p>行政& 民間企業、 NPO 等</p> | <p>能勢電鉄(株)とのタイアップによる、歴史文化を巡る環境の整備</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各駅での足湯の設置 その際に販売するタオルに源氏のストーリーをプリント ・文化的な駅名が多いことを活かしたイベントの実施 ・サイダープリントの電車の運行 ・割引券付き歴史巡り ・市のパンフレットを電車に貼る |

1. 川西歴史文化ゲーム大会

(目的)

楽しいゲームを通して、川西の歴史や文化の魅力を再発見する。

(参加者)

一般市民、地域の子どもたち、企業、各種団体、行政関係者、学校関係者

(場所)

文化財資料館、キセラ川西プラザ、アステホール、体育館など

(内容)

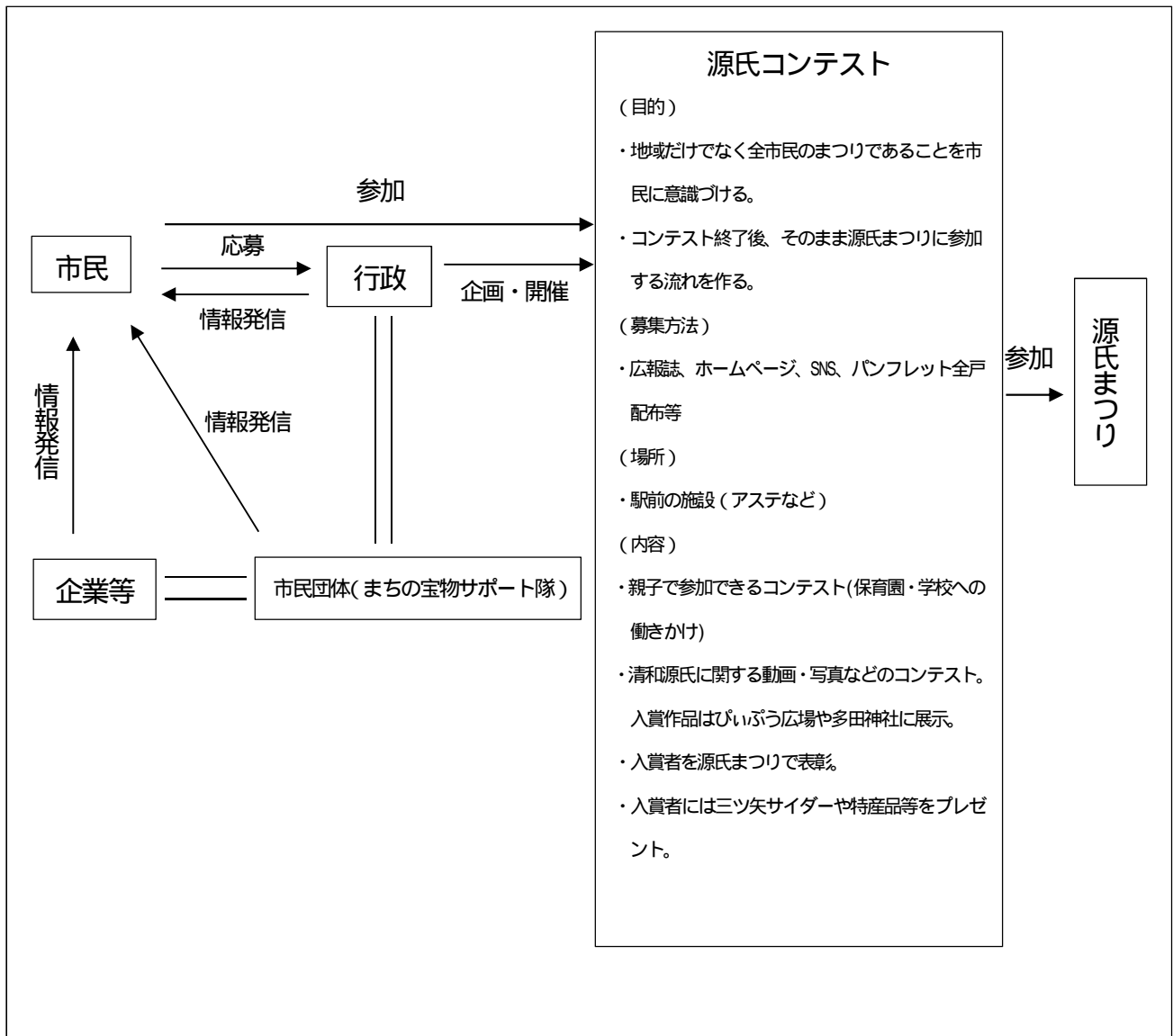
事前準備

- ・川西の歴史文化にちなんだ遊び道具を調達する。
- ・ふさわしいものがなければ、プロジェクトチームをつくり作成する。
- ・歴史文化に精通した人からアドバイスをもらう。

大会ルール

- ・川西源氏かるた大会
- ・川西源氏ボードゲーム
- ・賞品は川西市らしいお土産、特産品をそろえる
- ・三ツ矢サイダー発祥の地にちなんだ企画を実施する
- ・川西の歴史や文化にちなんだアイデアを盛り込む

2. 源氏コンテストの開催



4. 川西をこれまで以上に「歴史・文化のまち」にしていくため、情報の伝え方や表示の仕方などを工夫する

【提案内容】

歴史・文化スポットに人をつなげるためにはインフォメーションが重要になるが、それらの情報の伝え方や、案内板の表示や見せ方などが不十分である。特に川西市は若い世帯の転入者が多いが、転入者に情報が届いているとは言えないことが今回わかった。案内表示を統一イメージで設置するとともに、例えば市役所に転入の手続きに来た時に歴史・文化に関するパンフレットを渡すなど、転入者をターゲットにした情報の伝達に力を入れる。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

道がわからず困っている人に道案内をする。
イベントなどの情報を取れる手段を探す。

地域

パンフレットなどの配布方法を考える。
自治会の中に転入者がいた場合は積極的に声を掛け、イベントに誘う。

行政


行先を表示するものが少なく小さいため改良する。
駅前や文化財周辺へ案内マップ、標識を整備する（能勢電鉄にも依頼する）。
観光案内所を設置する。図書館に源氏特設コーナーを設置する。
「源氏の里」としてのインフォメーションを増やす。
アサヒ飲料(株)と協議し、自販機の色を青（アサヒ）から緑（三ツ矢サイダー）に変える。
転入時に市役所の窓口に来た際に、文化イベントの案内や川西の歴史の副読本などを渡す。
市役所の電話の保留音に「川西市は清和源氏発祥の地です」を流す。
川西市公式アプリをつくり、歴史文化の情報発信をする。
SNS で「#清和源氏」「#三ツ矢サイダー発祥の地」などで市民が発信する仕組みを作る。
フリーwifiを設置し、ログイン画面に川西の紹介画面を表示

民間企業、
NPO等

その他の意見

転入した時に川西の歴史文化に触れることで、その良さや魅力を感じる人が増えるのでは。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|--------------------------|---|
| 行政 | 「源氏の里」としてのインフォメーションを増やす。 | 市役所の封筒に「(例) 清和源氏、三ツ矢サイダー発祥の地」などのキャッチコピーと絵を印刷する(企業、大学などと協働し、デザインの作成や宣伝料の協力を打診する) |
| | 駅前や文化財周辺へ案内マップ、標識の整備 |  <p>【イメージ】 古河市:雪の結晶の観察を続け「雪の殿様」と呼ばれた古河藩主・土井利位の紹介などを町の中に設置して関連施設を案内)</p> |

～具体的な施策提案～

1. 駅前の案内マップ設置や文化財周辺の看板整備

駅前に案内マップを設置し、文化財施設の位置情報を伝える

案内マップにQRコードを用いて位置情報取得のほか、歴史を紹介した動画へのリンクを貼る。案内マップのリンクのサイトにはアクセス情報のほか、地域の人や施設を利用した人のおすすめポイントや口コミを掲載できるようにするなど、単に行政からの情報発信ではなく利用者の声を取り入れる。

案内マップの全体のデザインを清和源氏PRになるものとする。

自動車で施設等へアクセスする際にわかりやすい看板の設置

その施設へアクセスする人のほか、生活道路として利用する人へのPR

まちの宝物サポート隊の活動の発信

まちの宝物サポート隊の活動の発信の場として、市のホームページや市役所内設置の案内板横デジタルサイネージを活用し、動画等で歴史や文化の紹介をする。

2. 川西市魅力紹介アプリ

(目的)

市民(特に転入者)へ川西市の文化・歴史を知ってもらう。スマホをよく使う若者にも知るきっかけとなる。

(周知方法)

広報誌、ホームページ、パンフレット、市民課窓口で紹介、企業等サイトにバナー掲載など

(内容)

- ・川西市の文化財の一覧及び説明
- ・清和源氏や三ツ矢サイダー発祥の地の説明
- ・イベントの日程一覧
- ・歴史資源等を結び付けたハイキングコースの紹介
- ・観光ガイド「歩っとかわにし」の紹介

清和源氏や三ツ矢サイダーなど歴史関係のみが興味を持つきっかけとは限らないので、川西の豊かな自然や特産品なども紹介する。そこから、文化・歴史につなげる。

将来的には市の生活情報のアプリも作りそれらとの連携をすることも検討

5. 市民一人ひとりが川西を自分ごと化することで、自分の住む地域を大切に
する文化を形成する

【提案内容】

市民会議に参加してまちのことへの関心がとても高まった人が多くいる。意識が高まれば市で起きている色々なことに気付くことができる。市民会議でも、歩きタバコなどマナーを守るようにするなどの意見が多く出た。

このようなことの積み重ねによって、川西に愛着を持ち、自分の住む地域を大切にする環境ができるので、市民みんなでそのような文化づくりを心掛ける。

「提案5」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

個人

川西を学び、愛着を持ち、文化を知り、まちづくりに参加する。

出かける際はまず川西市内で探してみる。

参加型の事業やプロジェクトを自分で創る。

ゴミ拾いや草刈りなどのボランティア活動に参加する。

歩きタバコなどの迷惑行為を見たら止めるよう注意する。

地域として楽しみを作りながら文化や自然をつないでいく。

地域

「ゴミの不法投棄禁止」「通り抜け禁止」の看板などが色あせて見えにくいものがあるので補修する。

歩きタバコの被害を考え、地域内に喫煙場所を設置する。

行政

住民参加型プロジェクトのコーディネートをする。

かわにし市民会議のような取り組みの場を作り、川西の文化とは何か？ のようなことを市民と一緒に考える。

歩きタバコ禁止のルール（条例）を作る。

地域住民、地域活動団体へ啓発チラシ配布などの啓発活動を行う。

劣化した注意看板などを補修する。

歴史文化の視点でのボランティアポイントを検討する。

民間企業、
NPO等

電車やバスなどで「歩きタバコをしない」というアナウンスを入れる。

その他の意見

タバコは体に悪いというPRだけでなく、市にとって貴重な財源であることもPRすべき
歩きタバコ禁止を条例でしぼるより、きれいな環境を整えていく市民性を提案する。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|---------------------------|---|
| 地域 | 歩きたばこの被害を考え、地域内に喫煙場所を設置する | タバコを捨てる灰皿をアンケートのようにして、灰皿に捨てた吸い殻が多い方が多数派となり自分の意見が伝わるといった参加型にする |
| 行政 | 歩きたばこ禁止のルール（条例）を作る。 | 市民会議有志（高校生など）で、歩きたばこ禁止条例の具体的な提案を行い、条例策定の検討を具体化する。 |
| | 歴史文化の視点でのボランティアポイントの検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・遺跡の掃除や遺跡案内のボランティア参加で溜まったポイントを地域のカフェやお店で使う(地域の中での清掃活動など、様々な視点で活用できるのではないか) ・ポイントや情報はアプリで管理 |

かわにし市民会議からの提案

～ 第5班 やりがいの持てる地域活動の促進～

以下の4つの提案は、私たち第5班の会議参加者が、5回にわたって議論してきたことや、各回で記載した「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

提案

1. 地域での交流や活動の場としての様々な地域コミュニティの活動目的などを明確にし、誰もが積極的に参加したくなる環境をつくる

提案

2. 高齢者が気軽に地域で活動できるような環境をつくる

提案

3. 災害発生時にお互いを支えあえるような地域交流を行う

提案

4. 地域活動の情報を集約し、誰もが手軽に情報を手に入れることができる仕組みをつくり、地域交流を促進する

1. 地域での交流や活動の場としての様々な地域コミュニティの活動目的などを明確にし、誰もが積極的に参加したくなる環境をつくる

【提案内容】

川西市では、自治会加入率が6割を切り、この10年で1割以上低下するなど地域での交流や活動の場が衰退している。その背景として、自治会の必要性や活動内容が十分に理解されていない状況があるとわかった。そのため、自治会などの地域コミュニティの目的や意義を明確にし、誰もが参加したくなる環境づくりに努める必要がある。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

自分が住む地域に興味を持つ。
 近所の人をまず知り、積極的に笑顔で挨拶する。
 自治会の役割を知り加入する。
 知人に地域での活動状況を伝え、自治会への加入を促す。
 行事や活動に参加し、その情報を SNS で発信・共有する。

地域

各地域で自治会の在り方や役割を話し合う。
 自治会やコミュニティに求められていること、やってほしい事を集約し、活動や取組みを整理する。
 自治会の活動情報の伝え方を工夫する。
 ゴミステーションに広告を貼ったり、クラウドファンディングをするなど、自治会運営費を得る方法を考える。
 子どもに参加してもらうことで、大人同士（親同士）の交流の場を作る。

行政

自治会の役割について、SNS 等を活用しわかりやすく伝える。
 各自治会の取組事例や先行事例を共有する。
 地域が主催するイベントをサポートする。
 地域の活動内容発表の場を設ける。
 ボランティア活動団体などのPRを工夫して伝える。

民間企業、 NPO等

近隣の大学や高校の生徒・学生が地域活動に参加する。
 事業者やNPOが人材や資源、ノウハウを提供する。

その他の意見

10年20年先自治会がないとどうなるか考える必要がある。

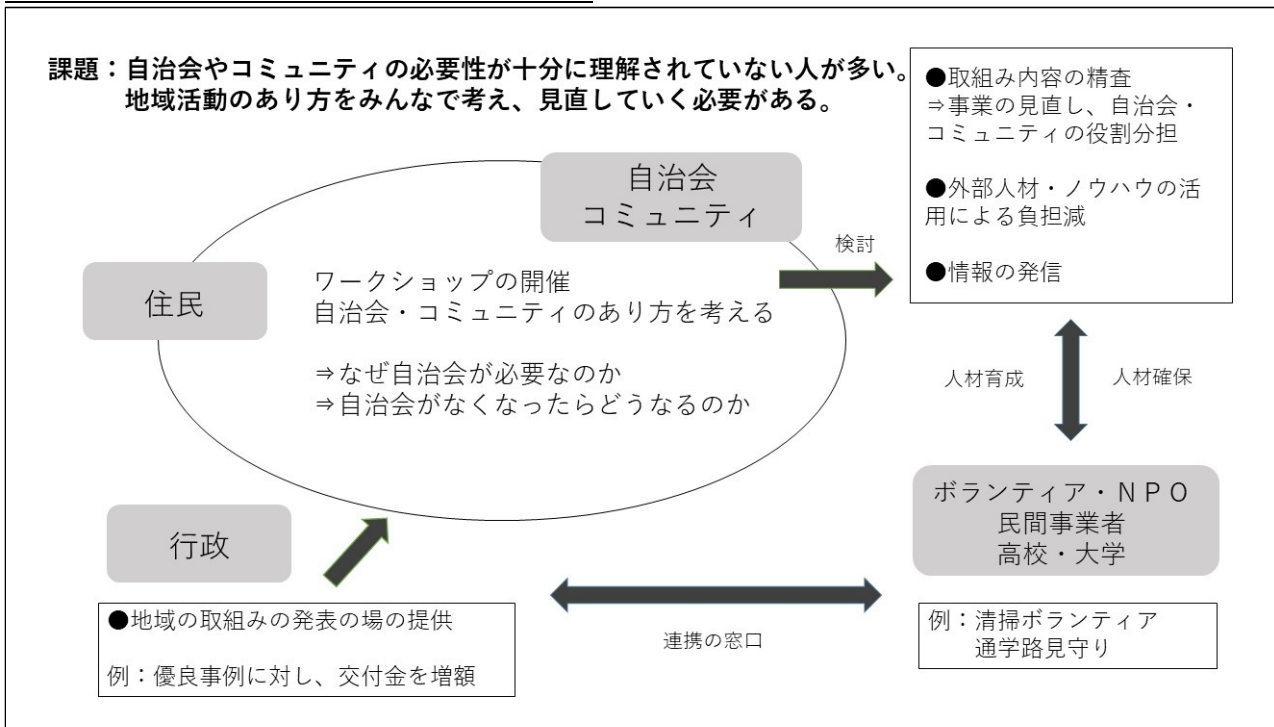
障がい者や留学生とコミュニケーションをとる場が少ないのではないか。

地域行事が高齢者で占められていると感じる。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|--------------------------|---|
| 地域 | 自治会やコミュニティの活動情報の伝え方を工夫する | <ul style="list-style-type: none">・自治会の役割などを分かりやすく発信する・SNSを活用するなど、若者や子育て世帯への情報発信に力を入れる・高齢者が情報を入手しやすいように掲示板を設置する |
| | 地域活動のあり方を考える | <ul style="list-style-type: none">・自治会やコミュニティなどのあり方を考え、役割分担や負担軽減に取り組む |
| 行政 | 地域の活動へのサポート | <ul style="list-style-type: none">・イベントに対する安全面のサポート・地域イベントの場所や準備物を提供・地域イベントを協賛する・地域交流の状況を整理し、発信する 取組事例の発表 若い人向けにSNSを用いて配信する 紙媒体のお知らせを、駅や商店、コミュニティセンターに置く |

1. 地域活動のあり方や役割を考える



2. 高齢者が気軽に地域で活動できるような環境をつくる

【提案内容】

駅前から離れたニュータウンなどでは、近くに歩いて行ける施設が少なく、出かける機会が減少するため、地域との交流が少なくなっている。

そのため、高齢者が社会と触れ合える環境をつくる必要がある。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

高齢者自ら地域イベントに興味を持って出向いてみる。

地域のイベントなどにボランティアとして参加する。

地域

高齢者が出かけられる場所やイベントについて、ポイントを絞って情報提供する。

高齢者のニーズに合ったイベントを提供する。

高齢者が活動できる労働環境や、集える場所をつくる。

行政

高齢者へのサービスや出かけやすいスポットをPRする。

外出できる環境を整備する(巡回バスなどの足の確保)。

近隣自治体と連携した公共施設や公共交通のサービスの提供を検討する。

民間事業者や学生団体と協力し、サービスの中継役を担う。

民間企業、 NPO等

行政と連携し、サービスを提供する。

その他の意見

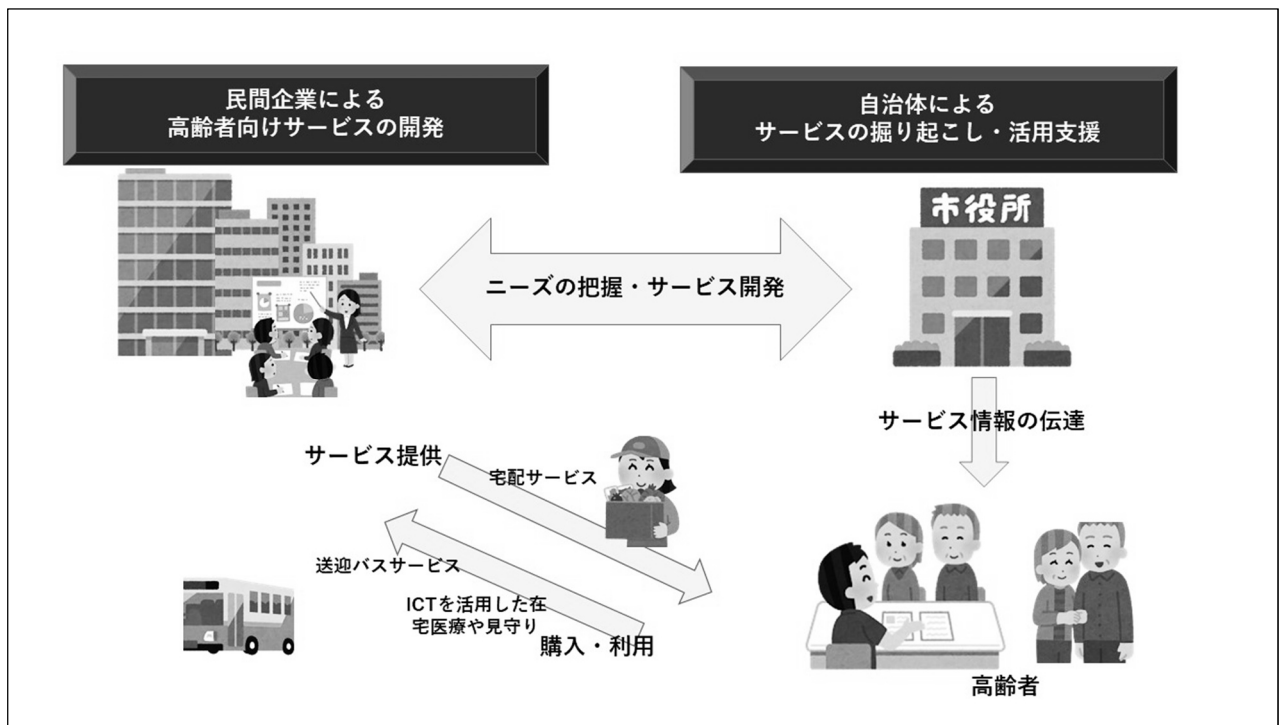
定年後に地域活動に入るのでは遅い。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|-------------------------------------|--|
| 地域 | 高齢者が活動できる環境や、集える場所をつくる | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の登下校の見守りを依頼 ・ボランティアの募集と希望など人材をコーディネートする |
| 行政 | 民間企業やNPO法人の協力を求めて、地域に提供できるサービスを仲介する | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者同士のスーパーでの購入品の宅配サービス(有償) |

～具体的な施策提案～

1. 既存の資源（民間事業者のサービス）を活用した高齢者の活動支援



3. 災害発生時にお互いを支えあえるような地域交流を行う

【提案内容】

災害が発生した際、行政がすぐに助けてくれるわけではなく、家族や地域との助け合いが必要になる。そのためには日ごろから地域交流が重要だが、十分に支えあえる関係が整っていない。そのため、一人暮らし高齢者などの災害時に支援が必要となる方を含め、地域全体で支えあえる地域交流を行う必要がある。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

自分で防災マップを作るなど、まずは一人ひとりが防災意識を持ち、対策をとる。
 普段から近所の人と情報交換、コミュニケーションを行う。
 災害時に支援が必要となる方を把握する。

地域

地域で防災マップを作る。
 地域で訓練を繰り返し実施する。
 地域単位で避難場所へ避難する判断を共有できるネットワークを作る。

行政

市民に災害のリスクや経験を積極的に発信し、防災意識の向上を図る。
 地域住民が発災時の対応を学ぶためのアイデアや情報を提供する。
 詳細版の防災マップを作成し、周知徹底する。
 災害時の安否確認ネットワークを構築する(IT活用)。

民間企業、 NPO等

地域と協力し、防災活動を行う。

その他の意見

防災マップがどこにあるかわからない。危険箇所を周知してほしい。

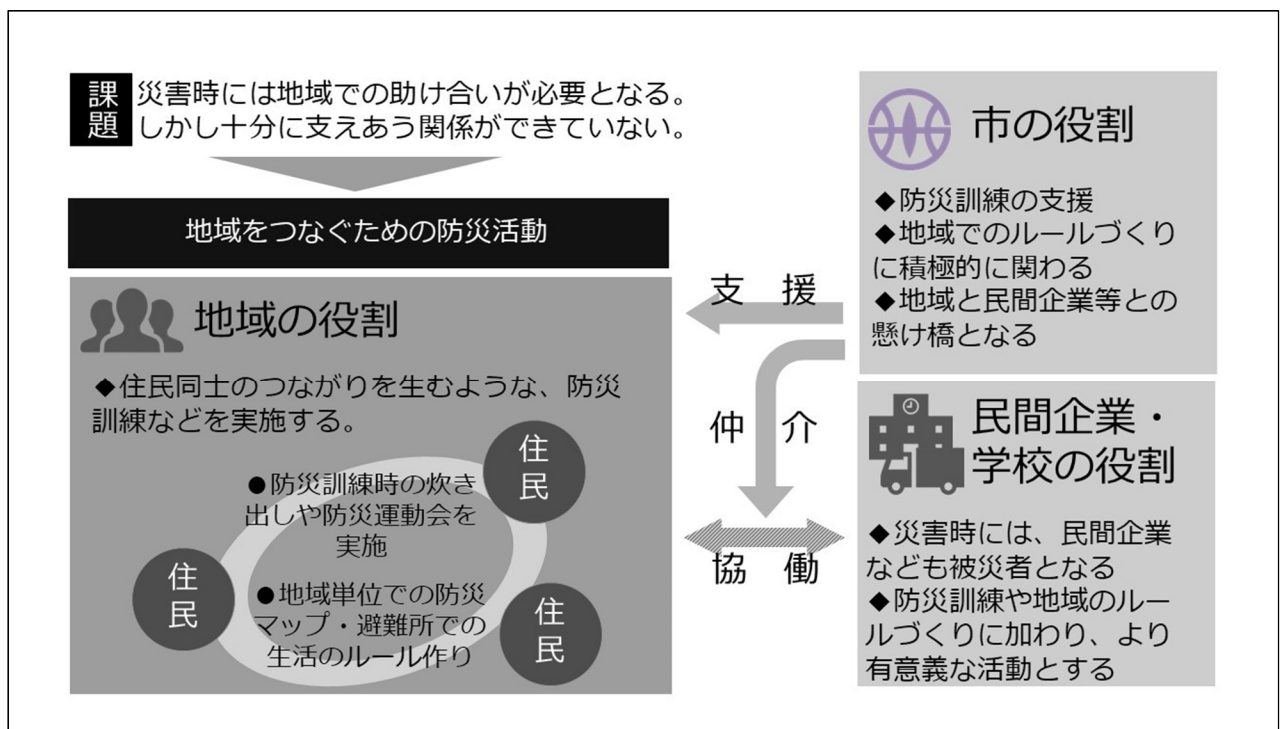
個人情報の問題があるが、災害発生前に支援を必要とする情報を知っておけば助かるのではないか。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|-------------|---|
| 地域 | 防災訓練の実施 | ・コミュニティの運動会に防災訓練を織り交ぜる 地域ごとの安否確認競争など |
| 地域 | 地域版防災マップの作成 | ・地域単位の防災マップを作成し、防災に役立つ 情報を載せたガイドブックを作成する |

～具体的な施策提案～

1. 地域をつなぐための防災活動



4. 地域活動の情報を集約し、誰もが手軽に情報を手に入れることができる仕組みをつくり、地域交流を促進する。

【提案内容】

地域の取り組みの情報は各団体がそれぞれの方法で配信しているが、必要な人に必要な情報が届いていない状況にある。

そのため、地域の各団体の情報を集約し、誰でも必要な情報を手軽に手に入れる仕組みをつくる必要がある。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

どのようなサービスやイベントがあるのか調べる。
 イベントへ参加する。
 イベントのボランティアとして参加する。
 近隣住民と情報交換を行う。
 #（ハッシュタグ）で情報を投稿する。
 ブログなど個人でできる情報配信を行う。また確認する。

地域

カレンダー形式に集約して情報発信する。
 集約した情報の発信に SNS やポスターを活用する

行政

情報配信用のブログなどのウェブサイトを立ち上げる。
 地域団体の情報配信の取り組みに企業や学生への協力が得られるよう、バックアップ・コーディネートを行う。
 イベント情報を事前に投稿する
 プッシュ通知の機能を活用できる仕組みを作る。

民間企業、NPO等

イベント等の情報を発信し、地域交流の場を創出する。

その他の意見

匿名で行う SNS では住んでいる地域を公表したくないため、地元の情報が伝わりにくいのではないか。

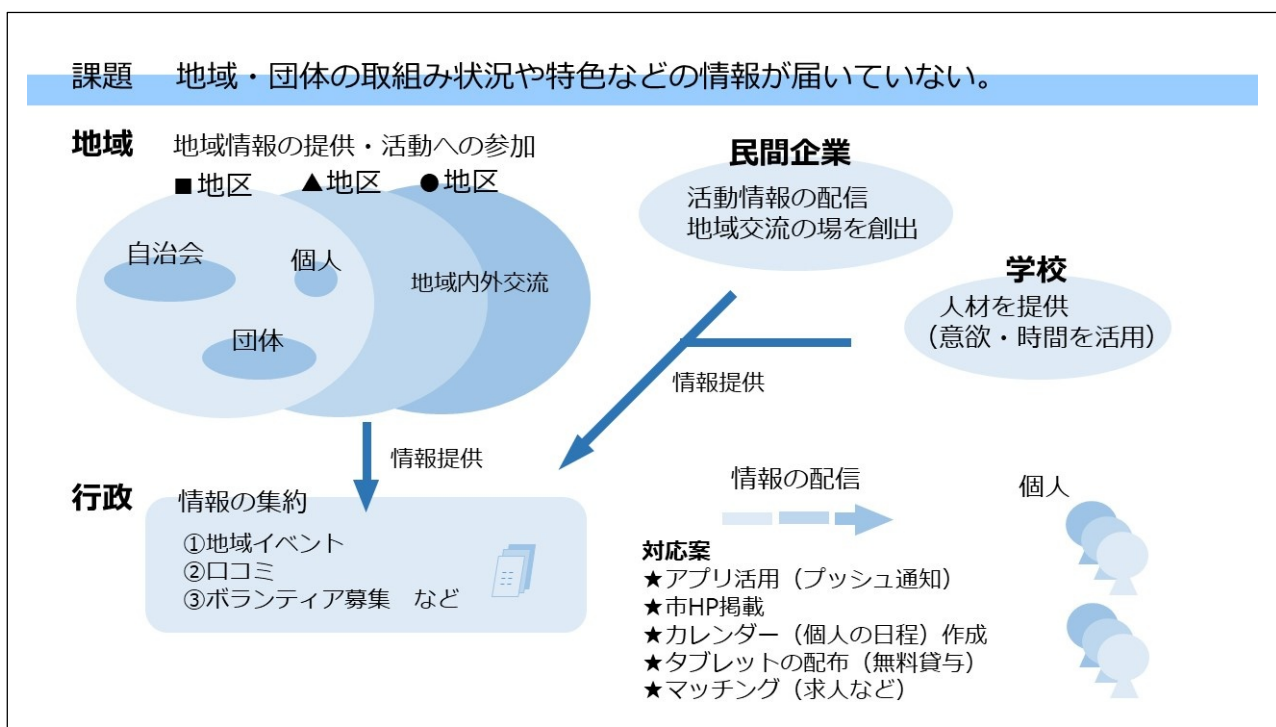
祭りなどのイベントの際に SNS 投稿を促してはどうか（#川西マガジンなどの見やすいものを指定して投稿するように促す）

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|-------------|--|
| 地域 | 分野・地域別の情報配信 | 【配信内容】 ・従来の自治会情報に加え、地域の店舗・施設情報や口コミ情報、ボランティア募集情報、イベントカレンダー等を盛り込んで配信する。 【配信方法】 ・年代に応じた配信を実施 若者：スマホの SNS 配信 高齢者：手作り感のある紙媒体での配信 ・分野別、施策別、地域別に表示できるようにし、時間割を作って情報配信する |
| 行政 | | ・情報配信用のブログなどのウェブサイトを立ち上げ。 ・地域団体と企業・学生間のコーディネート |

～具体的な施策提案～

1. 分野・地域別の情報配信



かわにし市民会議からの提案

～全班からの提案～

以下の5つの提案は、私たち市民会議参加者が、5回にわたって議論してきたことや、各回で記載した「改善提案シート」の内容で共通した内容を中心にまとめたものです。

提案

1. 「川西市の象徴」をつくることで市への愛着や誇りをこれまで以上に持てる環境をつくる。

提案

2. 川西市のめざす方向性を市民と共有するために、みんなでまちづくりを考える仕組みをつくる。

提案

3. 「情報は出している」という行政側の意識と、「知らなかった」という市民の意識のギャップを埋めるための仕掛けを考える。

提案

4. 様々な情報媒体を活用したシティプロモーションを実施する。

提案

5. 子どもから高齢者までがさらに住みやすい川西になるよう、子育てと医療に対する満足度を高めるための工夫を行う。

提案

1. 「川西市の象徴」をつくることで市への愛着や誇りをこれまで以上に持てる環境をつくる。

【提案内容】

各班共通で、川西市は住みやすいところである一方、自信をもって川西市を紹介できるものがないという意見が出た。「宝塚市の隣」ではなく、「川西といえば」といった川西市の象徴をつくり、市内・市外へその魅力が伝わっていくような取り組みを行う。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

自分の川西への思いなどを発信していく。
知人に有名なものを知らせる。
地域の状況を知り、地域活動に参加する。
市内のイベントに参加し、インスタグラム等で写真アップ、口コミ投稿をする。


地域

地域の中で特徴・有名なものを発見し、発信していく。

行政

一つの象徴を強く売り出し、魅力的に見せて配信する。
川西の目玉となるイベントを企画する。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|---------------------------|---|
| 行政 | 一つの象徴を強く売り出し、魅力的に見せて配信する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「写真を撮りに来てもらえる特徴のあるまち」をめざす 市内住民が種植えと水やりを当番で行う ・「キセラ」地区を象徴として売り出す コワーキングスペースの設置 映画館の誘致 ・川西 IC 周辺に道の駅のような施設を建設する 高速道路から料金据え置きで行き来できる 「道の駅 川西」などわかりやすい名前にする お風呂や特産品販売コーナーを作る 特産品を活かしたモノづくりを募集する 商品化する |
| | 川西の目玉となるイベントを企画する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・キセラの公園で毎日フリーマーケットをする 地場産、地元商店の出店 ブランド化を図る <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>イメージ 知恩寺手作り市</p> </div> </div> |

2. 川西市のめざす方向性を市民と共有するために、みんなでまちづくりを考える仕組みをつくる。

【提案内容】

住宅都市である川西市が、今後外から人口流入の増加を目指していくのか、人口減を前提としたまちづくりをしていくのか、また、コミュニティをどの程度重視していくのかなど、今後の方向性が不明確であるという意見が出た。

市のめざす方向性を市民にわかりやすく示し、共有し、環境をつくっていく。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

ホームページを見るなど、情報を収集する。

市民会議のような場に参加する。

めざすべき姿を具体的にハード、ソフトの両面で定義する。

行政

市の方向性を明示する。

進行中や検討している事業を公開する。

舎羅林山等の整地が進んでいる地区について、情報を公表する。

その他の意見

外からの人口流入による人口増をめざすのか、コミュニティを活用して現状を維持するのかわからない。

近畿圏の周辺市町の人口はどう変化しているのか、衛星都市の今後の推計はどう考えているのか。

川西市に住んでほしい世帯モデルがあるのか。

子どもの数の目標数値はあるのか。

3. 「情報は出している」という行政側の意識と、「知らなかった」という市民の意識のギャップを埋めるための仕掛けを考える。

【提案内容】

市民会議に参加する中で、これまで地域や行政が行ってきたことで、初めて知った内容が多くあった。行政の意識（情報は出している）と市民の意識（知らなかった）にギャップが起きている。私たちは情報を入手する努力をし、行政は、情報を「出す」だけでなく、共有（情報の整理）する意識が大切ではないだろうか。市民がわかるような資料の作り方や言葉の選び方を心がけることが必要となる。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

不思議に思ったらまず調べる。
 広報誌や市のホームページを通じて情報を得る。

地域

地区の会合の場で積極的に話題に出す。
 地域で市の情報を見られる環境を整える。


行政

情報発信の改善をアンケートで受け付ける。
 硬くない、市民に分かりやすい資料を作る。
 転入者に対し、市役所の窓口で情報提供する仕組みをつくる。
 LINE のユーザー属性を利用した情報配信をする。

その他の意見

普段市のHPは見えていなかったが、市民会議で初めて知った情報が多い。
 広報誌をどこに配っているかわからない。
 市のイベントを知るのに市内の地域ごとに差がでているのではないか。
 市ホームページとシティプロモーションサイトの役割分担がわからず、どっちを見ていいかわからない。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|-----------|-----------------------------------|---|
| | <p>市民が活用しやすいホームページにする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 頻度を高く情報発信する。 シティプロモーションサイトのメインビジュアルの更新頻度をあげる  <p>見やすいホームページのイメージ 川西市グリーンハイツ自治会</p> |
| <p>行政</p> | <p>様々な世帯が広報誌を読んでもらえるような工夫をする。</p> | <p>【掲載内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報誌の種類をターゲット別に分けてメッセージを強化する。 <p>【配布方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> カフェなどに川西の情報誌、広報誌を配布する <p>【その他の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報誌を読んでもらえるようにクーポンを付ける <p>市役所にクーポン発券機を設置</p> |
| | <p>LINE のユーザー属性を利用した情報配信</p> |  <p>イメージ・・・横手市(LINE HPより)</p> |

4. 様々な情報媒体を活用したシティプロモーションを実施する。

【提案内容】

それぞれの班で出された川西の魅力を市民だけではなく市外の人にも知ってもらい川西に来たいと思ってもらうため、様々な情報媒体で情報発信を行う。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

SNS や口コミで情報を発信する。
知名度が低いことを受け入れ、残念な自虐的なネタとして発信する。
LINE のスタンプにきんたくんのスタンプを活用する。

地域

イベント情報を連絡できる手段（掲示板の用意、スーパーや駅にポスターを貼る等）を考える。

行政

SNS やメルマガなどを活用して情報発信をする。
マスコミへの売り込みを行う。
阪急、JR での広告、施設のラグジュアリー化を行う。
市の史跡や施設をめぐるスタンプラリーを開催する（完走者にはイチジクを用いたお菓子を用意）
きんたくんの由来を配信し、アピールする。
市の特産を使ったイベントを開催する。
能勢電が実施しているイベントを市でバックアップする。

その他の意見

きんたくんをもっとアピールしてはどうか。
市出身の有名人に協力してもらってはどうか。
SNS も大事だが紙媒体も活用する必要がある。

提案

5. 子どもから高齢者までがさらに住みやすい川西になるよう、子育てと医療に対する満足度を高めるための工夫を行う。

【提案内容】

子どもの数が減少しているが、転入者は30代と0～9歳が多く、このことは川西の非常に大きな特徴といえる。この世代がさらに住みやすいと思ってもらいつつ、高齢になっても川西に住み続けたいと感じられるよう、医療についての市民のニーズ調査などをしながら対策を考える。

「提案5」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

子育てしやすく、住みやすいまちであることを、職場や友人に発信する。
他都道府県に転出した子どもに声をかける。
地域内の病院、クリニックを把握し、市内の病院を利用する。
口コミ投稿等で情報共有を図る。

地域

子育てしやすい地域づくりを行う。

行政

婚活イベントを行う。
病院の待ち時間、特長、口コミ等を集めたサイトの管理を行う。
市立川西病院の送迎を充実させる。
在宅医療が受けられるよう、医師会等に働きかける。
市内に不足している耳鼻科等を誘致する。

民間企業、 NPO等

市内医療機関が積極的に在宅で受診できるよう協力する。
市内医療機関は、予約や待ち時間を提示する。

その他の意見

川西市内の病院を受診した後、市立池田病院を紹介された。市内で対応できる病院がない状況であり、川西市の医療の充実が必要。

～提案内容の具体的なイメージ～

| 主体 | 取り組み内容 | 具体的なイメージ |
|----|------------|--|
| 行政 | 婚活イベントを行う。 | ・カップル成立で家をプレゼントするなど特典をつける(10年間住み続ける条件付き) |

2 かわにし創生総合戦略推進会議

(1)委員一覧（敬称略、五十音順）

| No. | 氏名 | 所属・役職等 |
|-----|---------------------|---|
| 1 | いとう しん 伊藤 伸 | 一般社団法人 構想日本 総括ディレクター |
| 2 | うえむら としゆき 上村 敏之 | 関西学院大学 学長補佐・経済学部教授 |
| 3 | かたやま ゆうこ 片山 優子 | マノカルダ株式会社 代表取締役 |
| 4 | じょうなん まさかず 城南 雅一 | 能勢電鉄株式会社 取締役社長 |
| 5 | はまだ けいこ 浜田 敬子 | 株式会社メディアジーン BUSINESS INSIDER JAPAN 統括編集長 |
| 6 | ふくしま ひろひこ 福嶋 浩彦 | 中央学院大学 社会システム研究所 教授 |
| 7 | みさか ともあき 三坂 友章 | 一般社団法人 生産緑地相談センター 代表理事 |
| 8 | やまもと としえ 山本 利映 | やまもと中小企業診断士事務所 代表 |

(2)諮問・答申

諮問

令和元年6月10日

かわにし創生総合戦略推進会議
会長 福嶋 浩彦 様

川西市長 越田 謙治郎

第2次総合戦略の策定について（諮問）

第2次総合戦略の策定にあたり、かわにし創生総合戦略推進会議規則第2条の規定に基づき、意見を求めます。

中間答申

2019年12月12日

川西市長 越田 謙治郎 様

かわにし創生総合戦略推進会議
会 長 福 嶋 浩 彦

第2次川西市総合戦略の策定について（中間答申）

2019年6月10日付で諮問を受けた第2次川西市総合戦略について、推進会議ではこれまで6回にわたって審議してきましたが、以下の点を指摘して中間答申とします。

かわにし市民会議では、将来の川西市のありたい姿を、無作為抽出の中から参加した市民同士が議論し、提案書をまとめました。主権者であり生活者である市民の貴重な提言だと言えます。

しかし総合戦略原案は、市民会議からの提案書との関連や実施する施策についての検討がまだ不十分です。特に、3年間の重点計画であるにもかかわらず、施策が抽象的な表現に留まっています。市民からの提言との関係性を分かりやすく示すとともに、実施する施策をより具体的に記載する必要があります。

推進会議では今後、上記の課題について検証しながら更に審議を進め、最終答申を行うことにします。

以上

答申

2020年1月20日

川西市長 越田 謙治郎 様

かわにし創生総合戦略推進会議
会長 福嶋 浩彦

第2次川西市総合戦略の策定について（答申）

2019年6月10日付の諮問を受け、第2次川西市総合戦略の内容を7回にわたって審議した結果を、下記の通り答申します。

記

総合戦略の策定にあたっては、特に次の点に留意することが必要です。

- 1．かわにし市民会議では、将来の川西市のありたい姿を、無作為抽出の中から参加した多くの市民同士が熱心に議論し、提案書をまとめました。主権者であり、生活者である市民の貴重な提言です。総合戦略の策定においては、その内容を十分に踏まえることが重要です。
- 2．人口減少社会では、誰もが幸せに暮らせる持続的なまちづくりが大切です。既成概念や前例にとらわれず、市民にとって効果的な施策を創り出す必要があります。また、財政状況を踏まえると、あれもこれもではなく、本当に必要なものを適切に選択し、優先順位を明確にしなければなりません。新規事業を増やすだけでなく、既存事業の見直しや廃止が不可欠です。
- 3．地域課題の解決に行政だけで取り組むのではなく、市民、NPO や企業などと連携・協力していかなければなりません。そのためにも、まちづくりや市民にとって何が必要か、行政がしっかりと自分の頭で考え、市民に分かりやすく発信していくことが必要です。
- 4．若い夫婦の転入が多いことが川西市の大きな特長だと言えます。統計でも30歳代、0～9歳が転入超過になっています。他自治体との「若い世代の奪い合いに勝つ」といった発想ではなく、子育て中の親や小さな子どもに優しいまちは、高齢者にも障がい者にも優しいまちになるという視点が大切です。これは総合戦略の軸となるはずです。

こうした観点から見て、本日提出された第2次川西市総合戦略最終案は基本的に了解できます。その実行にあたって上記の点を常に意識するとともに、引き続き、市民が市政運営に参画する多様な機会を設けて欲しいと考えます。

以上

3 総合戦略策定経過

| 年 | 月 | かわにし 市民会議 | かわにし創生 総合戦略 推進会議 | かわにし 創生本部 | 川西市議会 |
|-----------|-----|---------------|------------------------|--------------|-------|
| 平成 31年 | 4月 | 無作為抽出 案内送付 | | | |
| 令和 元年 | 5月 | | | 第1回 | |
| | 6月 | 第1回 | 第1回 (諮問) | | |
| | 7月 | 第2回 第3回 | 第2回 | | |
| | 8月 | 第4回 | 第3回 | | 議員懇話会 |
| | 9月 | 第5回 | | | |
| | 10月 | | 第4回 | 第2回 | |
| | 11月 | 第6回 | 第5回 | 第3回 | |
| | 12月 | | 第6回 (中間答申) | 第4回 | 議員協議会 |

- ・第2次川西市総合戦略(案)に対する意見の募集(パブリックコメント)
- ・タウンミーティング(7地区)

| | | | | | |
|----------|----|--|-------------|-----|-------|
| 令和 2年 | 1月 | | 第7回 (答申) | 第5回 | |
| | 2月 | | | | 議員協議会 |

- ・第2次川西市総合戦略 キックオフフォーラム



| | | | | | |
|----------|----|-----------------|--|--|--|
| 令和 2年 | 4月 | 第2次川西市総合戦略 スタート | | | |
|----------|----|-----------------|--|--|--|

第2次川西市総合戦略

令和2年3月策定・発行

発行 川西市

編集 総合政策部政策創造課

兵庫県川西市中央町12番1号

TEL 072-740-1111（代表）

この冊子は市役所内で印刷しています。

第2次

川西市総合戦略

令和2年度 >>> 令和4年度

時代が変わる。川西を変える。

さあ、かわにし **新**時代へ。